青鞜

3

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜 三月號目次

櫻の園……（戯曲）……一……チエホフ 瀬沼夏葉譯
逢ふこゝろ……（短歌）……三九……三ケ島葭
ぬれし眼のまゝ（短歌）……四二……岡本かの
髪……（小說）……四九……松本まさな
一年間……七八……らいてう
ホイットマン論……八六……エリス 榊櫻譯

愛らしき蛇の女（短歌）……一〇三……原田琴
戀愛と結婚……一〇七……エレン、ケイ　らいてう譯
編輯室より……一一五……同人

附録

思想の獨立と經濟の獨立……一……岩野清
男子からする要求……八……岩野泡鳴
婦人のために……一三……馬場孤蝶

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四月七日より開始

青鞜社研究會

科目及講師

一、哲學史、文明史、美術史。
一、社會學、美學、批評論。
一、近代思想史。（未定）
一、刹那哲學。
一、近代大陸文學の研究。
一、近代劇の研究。
一、藝術論（詩、美術、音樂）

阿部次郎氏
生田長江氏
安倍能成氏
岩野泡鳴氏
馬場孤蝶氏
伊庭孝氏
石井柏亭氏
高村光太郎氏
其他

語學研究

エマーソン　岩野泡鳴氏
ダンテ　阿部次郎氏
未定　馬場孤蝶氏

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一、科目は選擇隨意。
一、四月七日（第一月曜日）より開始
一、入會者の便宜をはかつて、晝と夜との二組に分つ（時間は追つて發表。）
一、會場　青年會館
一、會費　一ヶ月　金壹圓（入會金別に金壹圓）
一、入會申込は三月廿日迄、青鞜社事務所へ申込まれたきこと。
一、會員は婦人に限る。

青鞜社研究會講義錄

研究會に出席の出來ない地方社員、其他のために毎月一回講義錄を發行致します。そしてこのほうは男女に限らず廣く全國に會員を募集する筈でございます。委しい事は四月號で發表することにいたしました。

青鞜社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戯曲

櫻の園（四幕物）——チエホフ作——

人物

リュボヒ、アンドレエウナ、ラネフスカヤ。櫻の園の女主人。
アーニヤ。ラネフスカヤの娘。十七歳。
ワーリヤ。ラネフスカヤの貰娘。二十四歳。
ガーエフ、レオニード●アンドレエキチ。ラネフスカヤの兄。
ロパーヒン、エルモライ●アレクセエキチ。商人。
トロヒモフ、ペトル●セルゲエキチ。大學生。
シミヨノフ●ピシチク、ボリス●ボリソキチ。大地主。
シャルロッタ●イワノウナ。家庭敎師。
エピホードフ、セミヨン●パンテレエキチ。執事。
ヅニャシャ。小間使。
ヒルス。老僕八十七歳。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ヤシャ。若い小使。
通行人。
驛長。
郵便局員。
客と下婢等。

場所

すべてリュボヒ●アンドレエウナ、ラネフスカヤの邸宅。

第一幕

子供室と名づけられてゐる居間。一つの戸口よりアーニャの室に通じてゐる。夜はほの〲と明けはなれてもう太陽は昇らうとしてゐる五月の朝まだきで、庭の櫻は今を盛りと皆咲きそろつてゐるが、朝の陽氣はまだ寒く、室の窓は皆閉められてゐる。小間使のヅニャシャは燭をもつて出て來る。つゞいてロパーヒンも書物を手にして出て來る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ロパーヒン。汽車が來た、まあよかつた、時に何時だらう?

ヅニャシャ。もうやがて二時で御座います。(蠟燭を吹き消す。)もう明くなりました。

ロパーヒン。汽車が何の位遲れたらう、少くとも、二時間は遲れたね、(欠をして伸をする)俺も間拔けだよ、餘程、停車場へ迎へに行く意で、わざ〱遣つて來たのだのに眠つちまつた……腰を掛けたなり、うと〱して……ねえおい、お前でも起して呉れゝばよかつたのぢやないか。

ヅニャシャ。だつて私はまた貴方樣は、もうお出掛になつたものとばつかり、思つて居りましたのですもの。(耳を欹てゝ。)おやもうお着きかしら。

ロパーヒン。否、未だゝ……荷物を受取つたり、まだそれや、これやで……(間)リュボヒ●アンドレエウチ樣は、もう外國に五年も行つてゐたのだが、今はどうだか、變つたらうな……好い人だつたよ、氣輕な、極くさつぱりしたね。今も思ひ出すが、昔、まだ俺の親の生きてゐる時分さ、親父は此の村に店を出してゐた小商人なのだ、だが或時、さあ俺がまだ十五の時だつた、親父酷く俺を擲つたのよ、顏をね、すると鼻から血が流れ出したのだ。で、奈何してか、親父と二人で此處のお邸へ遣つて來たのさ、親父は無論酩酊つてゐたのだ、すると、リュボヒ●アンドレエウナ樣が、まだ眼に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

見えるやうだ、其時は若くて、すらりとした優形な、それは好い姿だつた。さうして出て來て、俺を直ぐ丁度この子供室さ、この室の手水鉢の所へ連れて行つて、洗つてくれながら、お泣きでないよ、大丈夫、お婿樣になるまでには治るからね。と、云ふのさ。(間)百姓なのだからね……俺の親は實際百姓なのさ、俺は恁う白いチョッキに茶皮の靴かなんぞで、しやれてはゐるが、實を云ふとね、矢張豚の子に衣裳なんさ…だが、たゞ金だけは有る、有るにも有るにもうんと有るわ、それでも本當に云やあ、俺は百姓は百姓なのだから……(書物をたゞ剝ぎながら。)恁うしてそら本を讀んだつても、情ないことには少しも解らない、さうして讀みながら寢てしまつた。(間)

ヅニャシャ。昨夜は終夜犬が寢ないで啼いてゐましたよ、乾度犬も御主人のお歸りを感じて啼いたものと見えます。

ロパーヒン。今日はお前は奈何したのだ?

ヅニャシャ。手が顫えて、あゝ私倒れさう、眼が廻つて。

ロパーヒン。何だか今日はお前はいやにしやれてゐるぢやないか、着物でも、髪でも、まるでお孃樣のやうだ、そりや可けない、少しは自分を考へて見るものだ。

エピホードフ花束を持つて登場。背廣服にピカ〱と磨上げた、キュ〱と鳴る靴を穿いて出て來なが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ら、花束を落した。

エピホードフ。（花束を拾つて。）これをな、植木屋が食堂に立てるやうにつて寄越しましたよ、さあ。（ヅニャシャに花束を渡す。）

ロパーヒン。さうして俺にクワスを一杯持つて來て呉れないか。

ヅニャシャ。畏まりました。（退場）

エピホードフ。今朝の寒さは奈何です、三度で御座いますよ、もう櫻の花も皆咲いて居りますのになあ。どうもこの陽氣と云ふ奴が誠に定まらない奴でしてな、よい鹽梅に行くと云ふことが無いのです。所でエルモライ・アレクセエヰチ樣、お聞き下さい、手前、三日前にその靴を新しく買ひましたのですが、どうもそれが酷くキユウ〳〵するので困つて了ひます、何かその塗りでも致したら甚麽ものでせうな？

ロパーヒン。いやもう澤山だよ。

エピホードフ。毎日何か、彼か、惡いことが私に廻つて來ましてな、然し私ももうへゝゝ慣れて平氣で、微笑をさへ洩してゐまさあ。

ヅニャシャ登場。ロパーヒンにクワスを進める。

エピホードフ。どれ、私は參りませう。（椅子に衝突つて、椅子を轉がす。）おつと………（それ御覽

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なさいと云ふやうな調子で)。さて、この通りです、どう〳〵這麼ことを爲出かして了ひました、何とも驚くですなあ!(退場)

ヅニャシャ。エルモライ・アレクセエキチ樣、あのエピホードフがね、私に結婚を申込んだのですの。

ロパーヒン。何にね!

ヅニャシャ。奈何したらよいのでせう、私………人間はさうです、靜な質ですが、たゞ時々解の分らないことを云つてゐるのです。惡い氣持がしやしませんが、何だかさつぱり譯が分らないんです。ですが私自身には、彼の人は氣に入つたやうですの。彼方ぢやもう夢中になつて私を愛してゐるのですわ。だが、彼の人も可哀さうな人間でしてね、毎日〳〵何か、彼か惡いことが自分に廻つて來るのですつて。それで皆樣が彼の人を二十二度の不幸者と名を付けて笑つてゐるのです………

ロパーヒン。(耳を澄す。)そら着いたのだ………

ヅニャシャ。お着き遊ばした! それはなんだが、あゝ私、奈何しましやう………體が冷くなつて了つた。

ロパーヒン。着いた、着いた。さあ行かう、出迎へに。俺を覺えてゐるかしらん、リュボヒ・

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

アンドレエウナ様は、五年も逢はなかつたのだからなあ。

ヅニャシャ。（感情的に）私、ほんとうに倒れつちまうわ、ほんとうに、あゝ倒れるわ！

『二臺の馬車が家に着いた音が聞える。ロパーヒンと、ヅニャシャとは急いで出て行く。舞臺は空となつた。間もなく、彼方の室の方から、がや〳〵と人々の聲がする。其時に老僕のヒルスが、今着いた女主人を出迎へやうと、杖を突きながら舞臺を急いで通る。彼は昔の小使の服を着て、高い帽子を被つて、何のことか確にも解らないことをごと〳〵と云ひながら行つた。騒と、人聲とはだん〳〵近く聞える。（さあ、こゝから參りませう）……リュボヒ●アンドレエウナ、アーニャ、旅行外套を着て、鎖で繋いだ犬を曳いたシャルロッタ●イワノウナ、外套に頭巾を被つたワーリャ、ガーエフ、シミヨノフ●ピシチク、つゞいてロパーヒン、包と傘とを持つたヅニャシャ、いろ〳〵の荷物を持つた召使等、ぞろ〳〵と室を通りかゝつた。』

アニャ。此處を通りませう、ようお母様よ、此の室どこだか知つてゐらしつて？

リュボヒ●アンドレエウナ。（嬉し涙に咽びながら）子供室ね！

ワーリャ。何て寒いのでせう、私手が凍えて了ひましたわ。（リュボヒ・アンドレエウナに）ねえ、お母様、貴方のお室ね、今も白と藤紫の舊のまんまにして御座います。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

リュボヒ●アンドレエウナ。子供室、ほんとうに可愛い、綺麗な室ですよ………私こゝに寢たのでした、まだ幼さい時分に………(泣く)今もまるで私子供ですよ………(兄に接吻する、それからワーリャに、またも兄に) ワーリャ、まあこの娘は矢張相變らず尼さんのやうなのね。おゝヅニャシャ、私は覺えてゐるよお前を………(ヅニャシャに接吻する)

ガーエフ。汽車が二時間遲れた、何と云ふ不都合なことか。

シャルロッタ●イワノウナ。私の犬は胡桃を食べますよ。

ピシチク。へゝえ、そりやまた驚いたねえ!(アーニャとヅニャシャの他は皆室を通り拔けて行つて了ふ。)

ヅニャシャ。貴方、私達は其麽にお待申しましたが………(アーニャの外套や、帽子を脫がせながら。)

アーニャ。私、道中四晩てもの、ちつとも眠らなかつたのよ………體が凍えて了ひさうよ。

ヅニャシャ。此處からお立ちになつた時は、大齋の時で、まだ雪で酷い寒さで御座いきしたつけが、でも今は………おいとしう御座いますよ。(笑ひながら彼女に接吻する。) ほんとうにもうお待ち申しましたのですよ、アーニャ樣………それはさうと貴方樣に一つお話を致さなればならないことが御座いますの、もう私、一分間も我慢が出來ません………

アーニャ。(頽然して。) また初まつたのね、何かお前が………

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ヅニャシャ。あの執事のエピホードフですが、光明週間の後で、私に結婚の申込を致しましたのです。

アーニャ。お前はいつでも那樣ことばかり云つてる人よ………(髮を直す。)私皆ピンを落して了つてよ………(彼女は酷く疲れて歩くのも大儀さうに、よろ〳〵してゐる。)

ヅニャシャ。私、奈何してよろしいか分りません、彼の人があれ程に私を愛して居りますのですもの!

アーニャ。(自分の室の戸を優しい眼で見返つて。)私の室よ!私の窓よ!まるで私何處へも行かなかつたやうな氣がするわ!明日の朝起きたら、庭を駈廻らう………あゝ私若し少しでも寢られたらいゝけれど!道中はまるで寢られなかつたですもの、いろ〳〵の心配で…
………

ヅニャシャ。三日前にペートル・セルゲエヰチ樣がお越しになりました。

アーニャ。(嬉しさうに。)え、ペーチャ樣!

ヅニャシャ。お湯殿におゐでになりますの、御遠慮を遊ばして。(隱から時計を出して見る。)もう彼の方をお起し申す方がよろしいのですが、ワルワラ・ミハイロウナ樣がまだお起し申しちや可けないと、お言付けになりましたものですから………

ワーリャは帶に鍵の澤山附いてゐる環を下げながら出て來る

ワーリャ。ヅニャシャ！珈琲を早く………お母樣が召上りたいつて有仰るから。

ヅニャシャ。はい、只今。（退場）

ワーリャ。まあ、よかつたわね、お歸りで、もうこれからはお前は家だわ。（アーニャを撫で可愛がりながら）まあよかつた、可愛い人が歸つて來てよ、この私の別嬪さんが、ねえ！

アーニャ。隨分私我慢をしてよ。

ワーリャ。解るわ私、さうでせうつてね！

アーニャ。此處から私立つた時には、丁度『苦難週間』の時で其寒さと云つたら、さうしてあのシャルロッタ・イワノウナ樣たらね、道中もう仕切りなしに、お喋りをしては例の手品をするのでせう、私ほんとうに堪らなかつたわ、奈何してお前はあの人を私に喰附けて遣つたの？

ワーリャ。だつてお前、たつた十七計りの娘を一人旅させちや可けませんもの！

アーニャ。パリーに着いた時には、寒くて、雪で、その上私、佛蘭西語と云つたら酷いんでせう、さうしてお母樣はね、五階の上の家に住んでおゐでになるのよ、私が行つた時には、室の中に何處かの佛蘭西人や、婦人や、本を持つてる佛蘭西の僧さんやなんか

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゞゐて、室は煙草の煙で、もう〱して、何だか恁ういやに鬱陶しい、ぢゝむさいの、私もう胸が一ぱいになつて了つて、あんまりお母様が、おいとしくつてねえ、情なくつてもう私、行成お母様に飛び着いてお頭(つむり)を抱いたまゝ、しつかり抱いたまゝ離さなかつたわ。お母様も私を抱いて、たゞもうお泣きなさるばかりなの……

ワーリャ。（涙を湛えて。）もう言はないで頂戴！もう言はないで頂戴！……

アーニャ。メントナの近所の別荘は、お母様はもう賣拂つて了つて、お手許にはもう何一つ無いの、で、私だつてもお金はまるで無くなつて、やう〱のことで彼地へ着いたのでせう。でもお母様は那様ことは少しも頓着なさらないんですから、まあ、停車場なんかでも、直ぐに待合の食堂に入(はい)つて、一番の上等なものをお揃へになるのでせう、シャルロッタ様だつて矢張り那様調子なんだし、それからあの小使のヤシャね、あれも矢張り一人前を自分で揃(あつら)へるのですわ、私もうほんとうに、奈何したら可いんですか解らなかつたのよ、困つてねえ！お母様の所にまた生憎あんなヤシャのやうな小使がゐるのですもの！私等は此處へ一所に彼れを連れて來ましたわ……

ワーリャ。えゝ、見たわ、彼奴(あいつ)！

アーニャ。で、奈何して？あの利子は拂へて？

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ワーリャ。奈何して、奈何して那樣どころですか！

アーニャ。あゝ、奈何しませう、奈何しませう……

ワーリャ。八月にはいよ〳〵この一切の所有地を渡すのです……

アーニャ。あゝ奈何しませう……

ロパーヒン。（戸の隙から一寸覗いて、牛の聲の眞似をする。）めえゝゝ（行つて了ふ。）

ワーリャ。（涙を溜めながら。）えゝ、恁うして遣るから。（拳を固めて打つ眞似をする。）

アーニャ。（ワーリャを抱いて優しく。）彼の人はお前に結婚の申込をして？（ワーリャは首を振る。）奈何して、彼の人はお前を愛してゐるんぢやないの、何故お前はそのお話をお互に云ひ交はさないの、でもまだ何かを待つてゞもゐるの？

ワーリャ。何でもないのよ、私思ひますわ、那樣ことは當にはならないのよ、彼の人は多忙いんで私のことなんぞ考へてゐる暇もないでせうし、また注意もしないでせう。でも私厭でねえ、彼の人を見るのが。人は皆結婚するのだと云つてるのですもの、お目出たうなんぞともう云ふ人さへあるですもの、だのに自分等同士は少しも那樣ことはなく、まるで夢のやうな、雲を掴むやうなお話なのですもの……（調子を變へて。）お前の襟留はまるで本統の蜂のやうね。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

アーニャ。（悲しさうに）お母樣が私に買つて下さつたの。（自分の室を歩いて見ながら嬉しさうに、子供らしく。）私ね、パリーで風船に乘つてよ！

ワーリャ。あゝでもよかつた、私の可愛いお前が歸つて來て、綺麗な、可い子の、可愛い、可愛いお前が！

ヅニャシャは珈琲道具を持つて出て來て、珈琲を煮立て初める。

ワーリャ。（戸の傍に立つて。）私は一日中彼れや是れと、家のことを整理してゐながら考へますよ、誰かねえ、お金の澤山ある人にお前を嫁づけて了つて、自分はもう安心をして、曠野にでも行かう、さうしてからキエフに……またそれからモスクワに、皆さうして聖地を廻つたら、甚麽に莊嚴なことでせう……

アーニャ。鳥が啼く、もう何時でせう？

ワーリャ。たしかもう三時よ、お前は寢なけりやいけないわ。（アーニャの室から出る。）甚麽に莊嚴なことでせうよ！

ヤシャは旅行の袍と大きい肩掛とを持つて出て來る。

ヤシャ。（舞臺を通りながら鄭重に云ふ。）此處を通りましても、お可しう御座りませうか？

ヅニャシャ。まるで見違つて了ひましたわヤシャさん、有繫は外國へ行つてゐらしつたゞけ

あるのね。

ヤシャ。ふむ………貴方は誰方？

ヅニャシャ。貴方が此處からお立ちになつた時には、私まだ這麼でしたわ。（手で脊を低く見せる。）私はヅニャシャ、ヒヨドル・コゾヱドフの娘です、貴方思出し遊して！

ヤシャ。ふむ………随分圓いね！（後を振り向きながら急に彼女に抱き着く。ヅニャシャは喫驚してあつと叫んだ、其の拍子に皿を一枚辷らして破す。ヤシャは急いで逃げ込んで了ふ。）

ワーリャ。（戸から顔を出して不滿足な聲で。）まだ其處で何をしてゐるの？

ヅニャシャ。（涙ぐんで。）お皿を毀しまして………

ワーリャ。そりや可いことが來るだらう。

アーニャ。（自分の室から出ながら。）お母樣にペーチャ樣のゐらつしやることを前以て云はなけりやならない………

ワーリャ。私彼の方をお起し申さないやうに言付けましたの。

アーニャ。（考へながら。）さうよ、丁度六年前、お父樣が死んで、またそれから一ケ月にして七つの可愛盛りの、あの弟のグリーシャが河に落ちて死んで了つたのだ。お母樣はもう何て言つていゝか、まるで堪へ切れなくおなりで、此處から遁げて遁げて、後をも

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

見ずに出て行つてお了ひだつた………（溜息をする。）甚麽に辛らかつたのだかねえ、私解るわ、ようくお母様のお心が解るわよ、あゝもしお母様が其の時にせめてこの私の心が少しでもお解りだつたら！（間。）さうしてペーチャ・トロヒモフ様はグリーシャの教師だつたのだから、ひよつとしたら、彼の人はお母様にいろ〳〵前のことを思ひ出させるかも知れないわ………

ヒルスは脊廣に白いチヨツキを着て登場。

ヒルス。（珈琲沸の傍に忙がしさうに寄つて。）奥様は此處で召上るのだ………（白い手袋を穿める。）出來たかい珈琲は？（嚴格な聲でヅニヤシヤに。）おい。お前クリームが無い。

ヅニヤシヤ。あつ、まあさうでしたよ………（急いで引込む。）

ヒルス。（珈琲の卓の周圍にまご〳〵しながら。）えゝ、この馬鹿め！………（獨語してゐる。）お歸りなさつた巴里から……ずつと前に旦那樣も、馬で巴里にお行でになつたことがあつたつけ………（笑ふ。）

ワーリヤ。ヒルス、お前何に？

ヒルス。はい、何と仰で御座りまする？（嬉しさうに。）奥様はよくお歸り遊ばしまして！ 何ともはや、いくらお待ち申上ましたことで御座りますか！もう私これで死でんも悔み

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は致しません……（嬉し泣に泣く。）

（リュボヒ・アンドレエウナ、ガーエフ、シミヨノフ・ピシチク、登場。シミヨノフ・ピシチクは薄い羅紗の農夫の外套に、巾の廣いズボンを着けてゐる。ガーエフは手さ鉢さで玉突の眞似をしながら。）

リュボヒ●アンドレエウナ。さうね、そりや何んでしたつけ？黄色が隅に、當り返しでそら中央だ！

ガーエフ。それ隅だ！ねえおいお前と二人でなあ、子供の時分には、この室に寢たのだつたね、だがもう俺も五十一歳だ、全く變ぢやないかね………

ロパーヒン。さうです、時の經つのは早いものです。

ガーエフ。何を？

ロパーヒン。なに、時の經つのは早いと云つたのです。

ガーエフ。何だかこゝには麝香草のいゝ匂がする。

アーニャ。私もう寢みますわ、お母樣お寢み遊ばせ。（母を接吻する。）

リュボヒ●アンドレエウナ。おゝ、お寢かい。（引き寄せてその手に接吻する。）お前アーニャもう家で嬉しいだらうねえ、私はまた何だか自分の氣になれないよ。

アーニャ。お寢み遊ばせ叔父樣！

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ガーエフ。（彼女の顏と手とを接吻する。）お寢みよ。何とこの娘はお母樣によく似てゐるのだらう。（リュボヒ・アンドレエウナに。）ようリューバ、本統にこの娘はお前がこの位の時分にそつくりだよ。

　アーニャはロパーヒンと、ピシチクとに握手をして自分で戸を閉めながら出て行く。

リュボヒ●アンドレエウナ。彼女は可哀さうに酷く疲れて……

ピシチク。道が隨分長いのでせうからなあ。

ワーリャ。（ロパーヒンとピシチクとに）奈何です皆さん、もう三時ですよ、お引けになさいましちやあ。

リュボヒ●アンドレエウナ。（笑つて。）お前はいつでも相變らずだねえワーリャ。（ワーリャを傍に引寄せて接吻する。）さあ、珈琲を飲みませうか。さうして皆お引けとしませうかね。（ヒルスはリュボヒ・アンドレエウナの足の下に小さい枕のやうな蒲團を支ふ。）有難うヒルス。私は珈琲に慣れてゐてね、晝でも夜でも恁うして飲むの、有難うよヒロス……（ヒルスに接吻する。）

ワーリャ。荷物は皆來ましたか、奈何か、些と調べて參りませう……（退場）

リュボヒ●アンドレエウナ。奈何して私掛けてゐるでせう。（笑つて。）私はほんとうに跳つて反ねて、手を振り廻して見たい位よ。（顏を手で掩ふ。）あゝ私もしひよつと夢ぢやないの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かねえ！あゝ私は故郷を愛します、甚麽に愛しますか、それは神様ばかりが御存じですよ。私は汽車の窓から故郷の土地を見るにも堪えられなかつたのです、なつかしさの涙にたゞ泣き暮れてゐました。（涙を湛えて。）だがまあ珈琲は飲みませう。有難うヒルス。私はお前がまださう達者でゐてくれたのを、本統に嬉しく思つてゐますよ。

ヒルス。一昨日な。

ガーエフ。彼は耳が遠いんだ。

ロパーヒン。何とも殘念だが、今日はこれから五時にハリコフまで行つて來なければならないんで、たゞ些と實はお目に掛りに出たのですが、然し貴方はさつぱりお變りになりませんよ。

ピシチク。（重さうに息をして。）奈何して先よりも、もつと器量が上りなさつたゞね、扮裝から何から巴里のちやき〳〵たあ、まあ、お安くありませんなあと出たい所さ……

ロパーヒン。貴方の御兄弟のこのレオニード・アンドレエヰチ樣は、いつでも私のことを、その俗物だとか、算盤と首引の人間だとか有仰りますが、まあ、私には那樣ことは何方でも可いのです、何と有仰らうが構やしません。ですがたゞ貴方だけには、何卒私を從前の通りに信じてゐて頂きたいのです、その貴方の優しい、親切に甘えてお願

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひ致しますが、どうぞ何分從前の通りに私を信用して頂きたいです！私の父も、貴方の無くなつたお祖父樣や、お父樣に使つて頂いた此處の矢張農夫でした。殊にまた私は取別け貴方からは、いろ〳〵とお世話も頂いてゐるので、私は實際貴方を失禮ですが他人とは思つてゐないのです……身寄よりもつと近いものゝやうに思つて居ります。

リュボヒ●アンドレエウナ。あゝ私怎うしてもう落着いてはゐられない。(飛上つて息を反跳ませて、室の中を歩く。) 私はこれで死ぬかも知れない、這麼に嬉しくて……笑つて下さい、私は這麼馬鹿ですもの……あゝこの戸棚、私の(戸棚に接吻する。) 私の机……

ガーエフ。お前の留守に此處で乳母が死んだ。

リュボヒ●アンドレエウナ。(腰を掛けて珈琲を飲む。) さうだつてね、彼の世の人になつて了つたつてね。手紙で見ましたつけ……

ガーエフ。それからアナスタシイも死んだし、それからペトルシカ、コスイな、あれは此處から出て了つて、今は町の警部長の所にゐるさうだ。(隱から小さい菓子の箱を取出してドロツプスを舐る。)

ピシチク。私の娘のダーシェニカは貴方によろしく申上げました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ロパーヒン。私は貴方に何か好い、面白いお話をしたいと思ふのですが。（時計を見る。）え丶今もう參らなければなりません。殘念ですが時間がない………たゞ二言三言だけ些と申上げて置きますが、貴方ももう御承知の通り、この御所有地の櫻の園は、借財の抵當に入つてゐるので、この八月の二十二日には、いよ〳〵これが取られて、競買に渡されることになつて居るのですが、然しまあ、御心配なさいますな、安心して寢てらしつても差支へはありません、これに就いて一つ好い抜道がありますから………と云ふ、その私の考は、詰り恁うです、どうぞ一つよくお聽取り下さい！この貴方の御所有地は、可いことには町からは僅に二十露里の距離で、かた〴〵鐵道には近いしですから、まづこの櫻の園と、この一切の土地、それから河も皆すつかり、これを貸別莊に細かく區切つて了ふのです。さうして誰にでもこの別莊を貸すことにしたら、私はざう思ひます、年にまあ少くとも屹度二萬五千圓の收入は貴方が得られませう。

ガーエフ。それは御免を蒙むらう、那麽眞似をすることが出來るものか！

リュボヒ●アンドレエウナ。私まだよく貴方の有仰ることが腑に落ちませんよ。エルモライ●アレキセエヰチ樣。

ロパーヒン。詰りです、若し貴方はこの土地をまづデシャチナ（一町餘）について、年に少く

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とも借手から二十五圓づゝを取るとしますと、これはさう、今廣告をしますと、秋までにはもう此の處は皆借手が附いて、空いた土地は一つだつて殘りますまい。そりや私が屹度保證をして見せます。詰る處、貴方はそれで借財から拔道をうまく探し當てたのです、初めて救はれたのです。まあ、貴方にお目出たうを云つていゝ譯なのです。土地から云ふと此處は實際飛切と云ふ場所だし、河は深いし、だがもつとも彼方此方は少し直したり、取拂つたり、手を入れなければなりません、例へば皆舊の建物などは壞して了はなければ、まあこの家なんぞも、もう舊くて何にもなりはしないのですからなあ、また舊い櫻の園も切拂つて……

リュボヒ・アンドレエウナ。えゝ櫻の園を切拂ふんですつて、まあ貴方、貴方は何にもお解りにならのねえ、まあ此の縣内で何が一番名高くて、大したものだらうと云つたら、誰だつて貴方、この私等の所の櫻の園だつて指を屈るでせう。

ロパーヒン。さうです、それは大したものです、だがそれはたゞこの櫻の園が大きいと云ふだけのものです。さうして櫻の實は二年に一度しか取れない、お負けに取れても又これの使ひ道がないのでせう、誰も買手がないのですから。

ガーエフ。百科字典にも此の櫻の園は出てゐるのだ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ロパーヒン。（時計を見る。）若し何とか良法を講じて早く決心をしなければ、奈何しても八月の二十二日にはこの櫻の園も、所有地全體も、皆取られて競賣に付せられるのです。何とか早くお決めなさい！それよりは他に今はもう出る道がないのです。どうぞよく考へて見て下さい、それより他には道がないのです。

ヒルス。前にはさうさ、四十年か、五十年も前には櫻の實を乾したり、漬けたり、鑵詰にしたり、ジャムにしたりして……

ガーエフ。ヒルス默つてお出で！

ヒルス。さうして乾した實を、荷車に一ぱいに積んで、モスクワや、ハリコフなんぞへ積み出したものだつた！乾した實（み）は柔（やはらか）で、水氣があつて、甘くてね、いゝ香がしてな……其の時分には、その法方（やりかた）を知つてゐたからね……

リュボヒ・アンドレエウナ。ぢや今は奈何してさうしないの？

ヒルス。やりかたあ忘れたゞ、誰も知りましねえでなあ……

ピシチク。（リュボヒ・アンドレエウナに）奈何でした、巴里ぢや？うむ、その蛙を食べましたかね？

リュボヒ・アンドレエウナ。鰐魚を食べましたよ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ピシチク。へゝえ……

ロパーヒン。これまでは村にはたゞ大地主と、農民ばかりだつたが、今ぢやもう避暑客が、町からどん〳〵入り込んで、御覧なさい、小さい町でも、其町の園周には避暑の人達で一ぱいです。だから若し二十年も經つたらば、隨分多くなるでせう。で、今は彼等はまだヱランダで茶を飲む位のことですが、だん〳〵いまにゝその自分の借りてるデシヤチナの土地へ、少しづゝ農事を初めでもするやうになつたら、それこそこの櫻の園も運が向ひて來た時で、甚麽にか花を咲かせるでせう。金は出來るし、そりや結構な土地になるでせう……

ガーエフ。（迷惑さうに。）そんな詰らんことを！

ワーリヤさ、ヤシヤ登場。

ワーリヤ。お母樣、そこに電報が二つ入つて居ります。（鍵を取つて鈴の音をさせながら、其處の舊い戸棚を開る。）おゝこれよ。

リュボヒ●アンドレエウナ。はあ、これは巴里からね。（電報の封を切つたが讀まないで。）もう巴里のことはお終です……

ガーエフ。ねえリュバ、お前知つてるかね、この戸棚の年を？一週間前だつた、俺はこの下

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の抽斗を引拔いて見たら、其處に烙印があるのだ、で見ると此の戸棚ははもう丁度百年前に出來たものだ。奈何だね？え？記念祭が出來るぢやないかね、たとひ品物だつてもな、それでもこれは書物の戸棚なんだから。

ピシチク。（驚いて。）何。百年だつてね……へえゝどうも！

ガーエフ。さうです……此の品……（戸棚を手で觸りながら。）あゝ愛すべき、敬すべき戸棚よ！謹で汝の存在を祝す、この存在は今や已に百有餘年の間、善と義との光明なる理想に向ひつゝある、汝が功果多き働に、招く所の無言の聲は。百年の間、少しも衰へることなく、（涙を浮べて。）我が一家累代に活氣と、より増れる將來に於ける信仰とを維持し、且つ善と社會的自覺の理想とを我等の中に養成しつゝあつた。

ロパーヒン。左樣……

リュボヒ●アンドレエウナ。兄樣貴方は矢張りいつもの調子ね。

ガーエフ。（少し辱しめられたかのやうになつて。）それ、玉から右の隅だ！中央だ！

ロパーヒン。（時計を見る。）もう行かなけりやならない。

ヤシャ。（リュボヒ・アンドレエウナに丸藥を渡して。）召上られますか、只今丸藥を？

ピシチク。さう云ふものを飮んぢや可けませんよ……害あつて益なしです……どれ私

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に下さい……貴方。（丸藥を取つて、掌にのせ、ふと塵を吹いて、直に口に入れ、あとからクワスをぐつと一息に飲む。）そをら！

リュボヒ●アンドレエウナ。（驚いて。）何をまあ、お氣が違つたの貴方は！

ピシチク。皆丸藥を飲んで了つた。

ロバーヒン。この底拔け！（皆笑ふ。）

ヒルス。彼の方々は光明週間に御座つて、バケツに半分胡瓜を食べて了ひなされた………

（こそ〳〵と何かを云つてゐる。）

リュボヒ●アンドレエウナ。何を言つてるのでせう？

ワーリャ。もう三年ばかり此の方、慿うなのです、何かごと〳〵譯の解らないことを言ふのです。

ヤシャ。耄碌したのですな。

シャルロッタ●イワノウナは瘠せた姿に白い服で、胴をきつく締め、帶の所から柄眼鏡を下げてゐる。舞臺を通過ぎやうとする。

ロバーヒン。や、御免下さい、シャルロッタ●イワノウナ樣、私まだ貴方に御挨拶を申し上げませんでした。（彼女の手を接吻しやうとした。）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

シャルロッタ・イワノウナ。（手を引込ろ。）おつとどつこい、若し貴方に手を接吻するのをお許し申せば、此度は肘に、それから頬につて有仰るでせう……

ロパーヒン。あゝ、今日は奈何もいけない。（苦笑ふ。）シャルロッタ・イワノウナ様、私に手品をして見せて下さい！

リュボヒ・アンドレエウナ。シャルロッタ様、お見せなさい手品を！

シャルロッタ。いゝえ、私もう寝みたいんですの。（退場。）

ロパーヒン。また三週間經つてお目に掛ります。（リュボヒ・アンドレエウナの手に接吻する。）それぢや左樣なら。（ガーエフに）左樣なら。（ピシチクと接吻爲合ふ。）左樣なら。（ワーリャに握手する、それからピルスにヤシャに。）何だか行きたくない。（リュボヒ・アンドレエウナに。）然しまたよくこの事件につきましては、御熟考なさつてお置き下さい、で、もし御決心がお着きなさつたら、一寸どうぞお報らせ下さいまし、萬一の場合には五萬圓位は私が借りて差上げますから、どうぞもう一應よくお考へ下さいまし。

ワーリャ。（腹立聲で。）さあ、もうお出で遊ばせ、可加減にして！

ロパーヒン。參ります、參ります……（退場）

ガーエフ。俗物、いや、どうぞ御免下さい……ワーリャが彼の人に嫁くのだつたね。ワー

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

リャのお婿さんなのだ。

ワーリャ。いやなねえ、そんな餘計なことを叔父樣有仰るものぢやないわ。

リュボヒ●アンドレエウナ。何故、ワーリャ私は喜びますのよ、彼の人は善い人です。

ピシチク。正直に云ふと人物は……その立派な……私の所のダーシェニカも……何とかつて云つてゐたつけ……そのいろ〳〵ね……（鼾をかいて居眠をしてゐるかと思ふと、ひよいと目を覺しては言ふ。）所で一つ奥樣貴方にお願がありますが、どうぞ私に二百四十圓程貸しして頂きたいんですが、なあ……明日抵當に入れたものゝ、その利子に拂はなければならないんですがね……

ワーリャ。（驚いて）有りません。有りません。

リュボヒ●アンドレエウナ。私の所には何にも無いんです。

ピシチク。見付るだらう何か。（笑つて）それでも何時だつて決して俺は失望はしやしない、何でも皆無くなつたつて、御覧なさい、若しかしたら、いまに鐵道が此處の私の土地の方へでも引けて來て、私に錢を拂ふかも知れない……なあに今に何とか仕合せが向いて來るだらう、今日でなければ明日か、其中には何とか……二十萬圓の娘の富籤もひよつとしたら其中には當らんとも限らない。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

リュボヒ●アンドレエウナ。珈琲でも飲んでまあ氣を休めましやう。

ヒルス。（ガーエフの着物の塵を刷子で拂つて遣りながら、敎へるやうな聲で。）また別のズボン穿きなされたゞね、俺、どうすりやいゝだ。

ワーリヤ。（靜に。）アーニヤは寢ました。（そつと窓を開ける。）もう太陽が昇りました、寒かないでせう。まあ、お母樣御覽遊ばせ庭を、何と美しい花でせう！さうしてこのまあ、空氣と云つたら！あれ椋鳥が啼いてゐますよ！

ガーエフ。（他の窓を開ける。）庭は眞白だ、お前リュバ、忘れないか、そら、このずうつと眞直な並木道、まるで皮の紐のように長く、長く延びて、續いてゐる。この道よう、そらあの月夜の晩と云ふと、よく光つて見えたぢやないか、お前覺えてゐるかい？忘れないかい？

リュボヒ●アンドレエウナ。（窓から庭を眺めてゐる。）あゝ幼年の時代！なつかしいこの時代！私はこゝに寢て、その幸福の朝々をこの室で矢張り眼を覺しては、この庭を始終見てゐたつけ。あゝ其時分と、今と比べて、庭はちつとも變らない。（心より湧く喜に彼女は笑つて。）すつかり眞白！あゝ何と云ふ庭でせう！日の弱い雨の多い秋より、寒氣の強い冬が過ぎれば、矢張り相變らず若々しい幸福に充されてゐる。ほんとうに天の使がこの庭を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

棄てないかのやうに……あゝこの重い石を私の肩から體から取れたら！ねえ、この私の一切の過去を忘れることが出來たらねえ！

ガーエフ。さあ、この庭をなあ、これを借金の形に取られて了ふなんて云ふのは、寧ろあり得べからざることだなあ……

リュボヒ●アンドレエウナ。あら御覧！あゝ死んだお母様が、庭を行くよ、……あれ白い着物を着て。（嬉しくて笑ふ。）

ガーエフ。何處へ？

ワーリャ。あらお母様、奈何なさいましたの。

リュボヒ●アンドレエウナ。おや誰もゐないのだ。彼方の四阿の右の角に、あの白い木が曲つてゐたのが、さう見えたの女のやうに……

大學生トロヒモフ登場。古い制服に眼鏡を掛けてゐる。

リュボヒ●アンドレエウナ。何と云ふいゝ庭でせう！見渡す限り白い花で、さうしてまあ、あの瑠璃のやうな空の色は……

トロヒモフ。リュボヒ●アンドレエウナ！（彼女を彼は顧みる。）僕はたゞ一言だけ御挨拶に出たのです、直ぐこれで行きます。（熱い接吻を彼女の手にする。）實は僕は朝になつてからお目

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

にかゝるやうにつて、言付かつたのですが、つひその我慢が爲切れなくなつて、たゞ些とだけお目にかゝりに來ましたのです………

リュボヒ・アンドレエウナは誰やら解らないので、怪訝な顔をして見てゐる。

ワーリャ。（涙を溜めて。）ペーチャ・トロヒモフ、様ですよ………

トロヒモフ。ペーチャ・トロヒモフ、御子息グリーシャの先の教師です………奈何して僕は那様に變つたかなあ？

リュボヒ・アンドレエウナは彼を抱いて靜に泣く。

ガーエフ。（苦しさうに。）もう澤山だよ、もう澤山だリューバ。

ワーリャ。だから私、云はないこッちやないんですわ、明朝までお待ちなさいつて。

リュボヒ・アンドレエウナ。グリーシャ私の………私の息（むすこ）………グリーシャ………あゝグリーシャ………

ワーリャ。ようお母様、お止しなさいよ、皆神様のお旨ですから………

トロヒモフ。（涙ぐむ。）もうどうぞ止して下さい、もうどうぞ………

リュボヒ・アンドレエウナ。（靜に泣く。）私の子は死んだの、溺死をしたの……奈何してねえ？奈何ですよ、よう貴方？（小聲で）あゝ彼にアーニャが寢てゐたつけ、私は大きい聲をして

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

大騒をして……まあペーチャ樣、奈何して那樣に變つたのでせう？那樣に老けて了つたのでせう？

トロヒモフ。汽車の中でも一人の婦人が私のことをみすぼらしい學生さんと云つてゐましたつけ。

リュボヒ●アンドレエウナ。貴方は先にはまだ綺麗な青年の大學生でしたがねえ、今は眼鏡をかけて、髪も薄くなつて、で、また貴方は大學生なのですか？（月の方へ歩く。）

トロヒモフ。屹度永久に學生でせう。

リュボヒ●アンドレエウナ。（兄に接吻する、さうしてワーリャにも。）さあ、もう行つてお寢みなさいよ、兄樣、お前樣、年を取つたわねえ。

ピシチク。（彼女の後に尾い行く。）ぢやこれでお寢みですな……あゝ足痛風でどうも……私は貴方の所に宿めて頂だかうよ……だが、リュボヒ●アンドレエウナ、明朝要るのですがな……なその二百四十圓……

ガーエフ。まだ自分のことを言つてゐる。

ピシチク。二百四十圓ね、利子に遣らなければならないんだが………

リュボヒ●アンドレエウナ。無いんですの、些とも貴方。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ピシチク。返濟しますよ屹度……少し許りの金なのだから。

リュボヒ●アンドレエウナ。それぢや可うござんす、兄が上げるでせう……よう兄樣貸してお遣りなさいな。

ガーエフ。空の財布でも上げやうさ。

リュボヒ●アンドレエウナ。仕樣がない貸しておあげよ……要るのだらうから……返すつて云つてゐるのだもの。

リュボヒ・アンドンエウナ、トロヒモフ、ピシチク、ヒルス退場。後にガーエフとワーリヤとヤシャが殘る。

ガーエフ。妹はまだ金を無暗に費ふことが直らない。（ヤシャに。）おい少し離れてゐてくれ、何だか鷄臭いよお前は。

ヤシャ。（笑つて）レオニード●アンドレニキチ樣、貴方は矢張先のやうでゐらつしやる。

ガーエフ。何を？（ワーリヤに）何だつて？

ソーリヤ。（ヤシャに）ヤシャ、お前のお母樣が田舍から昨日來て、小使室にゐて、お前に逢ふのを待つてるのよ……

ヤシャ。何にも要事はありやしません。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ワーリャ。隨分だねえ、お前は。

ヤシャ。別に用はない、明日でも來るがいゝんだ。（退場。）

ワーリャ。お母様は矢張り先と同しで、おゐでだわねえ………御自分の御自由になりさへすれば皆人に遣つてお了ひになるでせう。

ガーエフ。さうさ。（間）若し何だね、誰か病氣でだね、其の人に幾種もの療法が要ると云ふ場合には、もう其病人は治らないのに極つたものだ。丁度それと同じに俺も腦味噌を絞つて、いろ／＼考へて、さうして幾つもいゝ考が、詰り法方があるにはあるが、どうも猶且なあ。慿う何處かの相續者にでもなつて、遺産を受けたら、だとか、でなければ私等のアーニャをうんと金のある人間に嫁つたら、とか、或は又ヤロスラウリの金滿家の伯爵の叔母の所へでも行つて、その幸福を別けて貰らつたものかな、などゝいろ／＼考へるのさ、實際叔母は非常な金滿家なのだ。

ワーリャ。（泣く。）あゝ若し神様がお佑け下さつたらねえ………

ガーエフ。泣くのはお止し。その叔母様は本統に金持なのさ、だが生憎その人が又私等を餘りよく思つてゐないのでね。第一妹がその士族でない辯護士に嫁つたのが、氣に喰はんのだ………

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

（アーニャは戸の處に見えた。）

ガーエフ。士族には嫁かないし、猶其上に彼女の生活については、德義を全うしたものとて云へないから。勿論彼女は好い人間だ、親切だ、氣の優しい、然しいくら辯護をしても正直な所、彼女は身持の疵のある女だ。そりや彼女の些とした擧動でも直ぐ解る。

ワーリャ。（小聲で）アーニャが戸の處に立つてゐますよ。

ガーエフ。何ね？（間。）いや右の眼に何かゞ入つて變だ……よく見えない。さうして木曜日に區裁判所に行つた時もさうだつた。

（アーニャ出て來る。）

ワーリャ。奈何してアーニャ、お前寢ないの？

アーニャ。寢られないの。

ガーエフ。奈何したこれ。（アーニャの顏や手に接吻する。）可愛なあお前は………（涙を浮べる。）お前は俺の姪ぢやない、俺の天使だよ、お前は叔父樣を信じるだらうなあ………

アーニャ。私信じますわ叔父樣、叔父樣を信じますわ、さうして誰だつて皆叔父樣を愛して尊敬してゐますわ、だけれどね、たゞ……ねえ、私の好い叔父樣、たゞどうか那麼ことばかりは云はないで頂戴。そればかりはね、どうぞ、叔父樣にはお妹、私には

お母樣だわ、お母樣のことをよ、叔父樣はなせ那樣に有仰るの？

ガーエフ。さうか………(アーニャの手で自分の顏を掩ふ。) さうさ、無論惡かつた！惡かつた！さうして今日は私は戶棚の前で演說をした………馬鹿らしいなあ！それが丁度演說をお了ひにした時に、馬鹿な、と氣が着いたのさ。

ワーリャ。叔父樣、もう本統に那樣ことは有仰らない方が可うござんすよ。

アーニャ。若し默つて何にも云はなければ、叔父樣にとつても、其方がお氣が採めません。

ガーエフ。默つてる、默つてる。(アーニャとワーリャの手に接吻する。) たゞ要事の話だけを爲やう、木曜日に裁判所へ行つた時にね、知合の人達にいろ〳〵の話を聞いたが、銀行に拂ふ利子を、手形で他から金が借られるやうな話だつた。

ワーリャ。若し神樣がお佑け下さつたらねえ！

ガーエフ。火曜日に又區裁判所に行くから、よくもつと話して見やう。(ワーリャに)泣きなさんな。(アーニャに)さうしてお前のお母樣はロパーヒンに相談をするだらうし、無論彼はお母樣に助けるよ、又お前はお前の大叔母樣(おほおばさま)の伯爵夫人に賴みなさい。さうして三人して三方から盡力して見やう、さうしたら譯はなく成功するだらう。利子は屹度拂へるだらう、そりや俺が何をもつても誓つて見せる。決して此の所有地は人手には渡し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はしない！（感情を込めて。）私の總ての幸福を以て誓ふ！さあ私は手をお前達に上げます、屹度だ、それで若し此處を競賣に付するやうなことになつたら、其時はお前方は、俺を甚麼詰らん奴とも、當にならん奴とも言ひなさい！生命を掛けて全く誓ふよ！

アーニャ。（彼女は安心して嬉しさうに。）貴方は好い叔父樣よ。本統に智慧のあるお方よ！（叔父を抱く。）私は今もう安心になりましたわ、やつと安心致しました、私嬉しいわ。

ヒルス登場。

ヒルス。（叱るやうに。）レオニード・アンドレエヰチ樣、奈何なさつたゞね、えゝ、何時お寢みになるだあね？

ガーユフ。今直ぐ、今直ぐ。お前は行つて眠つて可いよ、俺は一人で着物を着換へるから。ぢやお前等ももうお眠み……………また細かいことは明日話すとしやう。さあ、行きなさい、寢に行きなさい。（アーニャとワーリャに接吻する。）俺は八十年代（十九世紀）の人間だ………人は此の時代を惡くも云ふが、左に右、自分は矢張此の時代の人間として、その自分の主義の爲に、生活上に大なる打擊を被つてゐるのだ。百姓どもが俺を愛すのも大に原因があるのさ。彼等の考や、事情も知らなけりやならない！甚麼事情であるかを………

アーニャ。また叔父様！

ワーリャ。叔父様もう澤山になさいましよ。

ヒルス。（怒つたやうに。）レオニード●アンドレエキチ様！

ガーエフ。さあ〳〵、行かう、行かう。そら大廻で中央だ！白を遣るぞ！（出て行く後からヒルスもチヨコ〳〵尾いて退場。）

アーニャ。私今やうやく安心になつたわ、でも私、ヤロスラウリの大叔母様の所には行きたくないわ、まあそれでもい丶、安心になつたの、叔父様有難う御座いますよ。（椅子に掛る）

ワーリャ。さあ私も寢みに行かうか、あのねお前の留守にね、家には厭なこともあつたのよ、そらお前も知つてるでせう、あの小使室にゐる舊い小使達、エヒミユシカだの、ポーリャだの、エフスチグネイだの、それからカルプなんぞね、本統に仕様がない彼等なの、自分の室へ何だか譯の分らない破落戸を引擦り込んで宿めたりして、でも私はそれを見ない振をしてゐたのだけれど、此度は這麽ことを言觸らしてゐると云ふの、私が吝嗇で彼れ達にたゞ豆計りを食べさしてゐるつて……こりや皆、どうせエフスチグネイの捏造に相違ないの、だから私ね、よし見てゐろと思つて、彼奴を呼出して云つて遣つたの、エフスチグネイ！この馬鹿め！つて……（アーニャを顧みて。）アーニチ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

カ……（間）眠つて了つた！……（アーニャを抱いて。）さあ行きませう、寢臺にね……さあ、行きませう！……（アーニャを抱へて連れて行く。）おゝ、まあ、可哀さうに！眠つて了つた。（二人は行く。）

庭の遠くから牧者の吹く角笛の音が聞える。其時トロヒモフが出て來て、ワーリャとアーニャの行く姿を見て立留る。

ワーリャ。叱ッ！アーニャが寢たの……さあ行きませうよ、ねえアーニャ……

アーニャ。（小聲は半は夢で。）私這麽に疲れてよ……皆鈴の音よ……叔父樣……好い……お母樣、叔父樣……

ワーリャ。さあ行きませう、ねアーニャ！さあ〳〵……（アーニャの室に引込む。）

トロヒモフ。（恍惚（うつとり）となつて呟く。）おゝ我が太陽！おゝ我が春！

——幕——

瀬沼夏葉譯

逢ふこと　―三ケ島葭―

笑へども泣けども悲し逢ふことのすでに悲し
きわれらなりけむ

流るるは君が歌にて命にて死こそまことのわ
が身なるなれ

いたづらにものぞ言ふなる嘆くなるわが戀盡
きし身の終とて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

我としてここに忘れんとこしへに恨むにかへて思ふにかへて

夜の心晝の心と異なるを知る日來れば夜も晝も無し

いちじろき戀も見ずあまり寂しきわが世ならずや

みづからを僞るよりも苦しかりありのままなる我を語るは

寂しき身寂しき心ふさひてか泣けど呪へどなほ生くるなり

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

伏して泣き仰ぎて泣けりあはなにも君をまともに見がたきわれは

伏して泣く今日を除かば心また君と合ふ日も無からん悲し

音も無きよききみ心をたもとほり騒ぐ我かと知りじ悲しさ

戀しくば取れといふかなあな惜しかくれて泣かんその瞳にも

新しき女ぞ夢の女ぞといつの日待ちて我をとなへん

君が前日なる時なるこの戀の明日を憂ひて泣
くにあらねど
憎むべしおびやすべし行くべしと罵りたるも
ひめごととして
一切をゆるされずして泣く身をも妄想狂と思
ひなすらん
君にして我にしてはた時にして天地にしてさ
だまらぬ戀
君がためそれにもあらでいたづらに我は泣き
つつさいなまれつつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あはれにも死に近づけるわが身とてかかる心もよせられにけむ

はかなくも心この場に限られて與へらるややがて奪はる

隔てては思へど悲しもの言へば君と我とをわかちがたき身

言ひやうも泣きやうもなしわが戀はむなしや火にて氷なりけり

いつの日もこれ限りなる我としてまみゆるなればあへなかるらん

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

われ深き眠におちぬ更にまた醉ふ時ならでさめがたきまで
我を捨つ我を忘ると一あしもあはれ我をば出でがたきなり

ぬれし眼のまま ——岡本かの——

眠れるにあらじかあまりをとなしく抱かれし
まま眼を閉づる子よ。

さと開けて窓より雨を眺めけり二人なみだに
ぬれし瞳のまま。

かへり行く人の姿をにじませて薄墨に降るた
そがれの雨。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

泣きぬれてかへるにうれし夜のあめ傘ふかぶ
かと頬かくしつつ。

君は今までごろみ初めてたわたわと我が腕に
かかるみうなじ。

ふくみたる密柑の汁の冷たさも冬の心に泌み
てなつかし。

何處にかわれ怨みつつ寝る人のあればか寒き
夜毎なるらん。

いたましく泣きくづ折るる心をばいかにささ
して寝ん冬の夜を。

やふやくに肌のぬくみの溶けて行く紅絹の寝衣の裏ぞなつかし。

靜にも君思ひつつ籠りなん好める色の衣など着て。

わが指のふれたるあとの薄紅き彼の少年の肌をおもふ。

しくしくと虫齒のすこしうづくさへなつかし君を思ひ伏す夜は。

血のにじむ唇をもてかへり來ぬ強き別れのくちづけの後。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

都はや七日經にけり君行きて北の少女に見惚るるひまに（北の國へ人の行きける折に）

わびしくも待ち疲れたる眸に泌む細き指環の冷きひかり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

髮 二 ―杉本まさを―

歸ると云ふ孝吉を菊勇は祇園坂下まで送つて行く。『夫れでも明日暇があつたなら來さくらすやろな。 壇那はん。』と猶も別れを未練げに云つて、黒縮緬の羽織を寒さうに袖を倚せる。何處かで夜廻りの木の音も爲る淋しい靜かな冬の夜を素氣なく歸る樣な事は始めてだ、知れたつて構ふものか其處が母だもの逢つて見れば何うにかならふとは思つて見るのだけれど、然し今夜逢つて置くと今日までの不仕末も何うにか瞞着するも出來るし、夫れに女の身を思つても今夜口をかけて來てゐる大阪の方の客を振つちまふわけにも行くまいし、矢張り歸るが上策だ、と孝吉は幾度か繰り返しては斷念て見る。

『俥がないかなあ。』と小堀の方を見乍ら、眠つてゐる樣な瓦斯燈のまばらに並ぶ町合をぼそぼそとして歩いて行く。インバネースの袖をくゞらして、懷手をした男の腕によりすがり乍ら、女は寂し氣に俯いてゐる。寫眞屋も八百屋の店も表戸の隙から灯を洩らし乍ら靜かに寐入つて了つてゐる。

『花長の小母さんの處はまだ起きてはりますやうな。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と菊勇はふいと蒼白い男の顔を見上げると恁う言つて、二三人黒い人影の通つて行くのをわき見する。

『起きてるだろ。宿つて行つてのかい。』とぢろりと見返ると、女は幽かに背頷く。孝吉は矢庭に懐手を解いてマントの袖ぐるみ女の背を抱き倚せ乍ら、

『俺は宿つて行けない事もないが、お汝は都合が不良だらふね、……大阪の方が來てゐるからさ。』と云つても女は凝乎抱かれ乍ら、冷たい髮の毛の男の頸の邊りに觸れるのを氣にしてゐる。

『そんでも、あんたはんは本まにお歸りやすか。』

と不意に恁う言ひ出した。孝吉は聲音を定めて、

『今晩かい、歸るさ、何故そんな馬鹿な事を聞くんだい。』

『夫れでもな、妾、新蝶の小高はんの事は知つてるのすせ。』

『えッ』と男は少し噴さしてついと菊勇から離れ乍ら、立止まる樣にして、

『何故今、此座場所で其麽事を言ひ出すのかなあ。嫌だなあお汝は、誰人に聞たんだい。近來俺にそんな閑があると思つてるのか、俺は試驗だつて、(と言ひ出してついと唇を嚙むと)まあ好い、兎も角もう少し同情して考へて見ろよ。』と言はれて菊勇は福袢の袖を引

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

き出すと冷たい指先きを包んで熱い息をかけてゐる。孝吉は少時立止つて、夜目にも冷たい低い島田髮の頂きを凝乎見つめて居ると、女の言ふ如く今晩は宿つて行かう知らとも思つて見る。何故火急に此儘別れて了ふと云ふ事が耐らなく殘り惜しい、――なあに明日の朝さへ早ければ何うにかなる――と言つた樣なお定りの心持が誘惑を手傳ふ。

『でもね、』と孝吉は聲を低く落して、

『大阪の方は良のかい。』ときくと、ついと其白い顏を擡げて眼を會はると、又淋しい眼をしてついと俯く。

『困るんだらふ。』と直ぐ冷笑らしい口を利くと、

『まあ。』と強く言つて、

『貴郎はんがさう大阪、大阪とお言ひやすさかいに妾とまた小高はんの事を言ひ出すのすせ。』

『は丶丶丶わかつた。』と淋しく笑ひながら。

『解つたよ。』と重ねて言つて莨を探すと、只一本しかない。菊勇は手早く火を移してやる。

『ぢや宿つて行かうか。何うせお互に明日は一騷動持ち上るんだが、爲樣がないものね。』

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と言つて引き返して歩き出すと、孝吉は強て吸つた莨を右の手で女の口に差し込んでやる。

『おゝきに。』と女は夫れを上味さうに吸つて、少時無言で歩いて行く。孝吉は努めて寺院の我房室の事を思ひ出すまいとする。辛く先刻から母の事も小妹の事も忘れて了つた。早く酒でも飲んで殘る僅かの今宵の時間を肉樂の慘しい底に身を浸せて了つたなら、其爲撥が二三日は續くだらふ。否續けなければならぬ、自分の方は慦うとしても、此麼事が問題となつて又女の身に嫌な事件が持ち上るのだらふ、何うせあの苛酷な養母の事だから。とついと苦い心持ちに歸ると、

『何うせ苦勞さね。』と言つて犇と小さな背を抱へる。

『酷い目に逢ふ樣な事になつたら俺だつて逃避策は取りや爲ないさ。』と心にも慦う自分と言つて、何だか深い責任がある樣に感ずるのだつた。ふと横町を通つて行く男女の影がある。女の方はお太古には爲てゐるけれど舞妓らしい。菊勇は少し見送つて、男の大方誰人なるかを悟つたのだけれど夫れは無言て、

『濱江さんどすやろ。彼の妓。』

『さうかい。男の方は三坊だね。』と闇に消え行くのを見透かして、頓て二人も其方へと曲つた。

『三坊の方だつて未練はあるだらふよ。だけど近來先斗町にもあるんだつて云ふせ。何處かで聞いた。』

『左樣だつか。』と不意に妓は態う戯れて笑ふと、

『變な言葉を使うない。』と孝吉は叱つて、

『え、何うだい三つ坊の方が未練があるだらうか、菊勇樣の方にあるだらふか。』

『知りまへんえ。俳優はんなんて買ふ程の勇氣があつたら北海道三界まで落ちて行かしませんさかいな。』

先刻から孝吉は頻りと口が不愉快だ。喉も渇く、もうあれだけの酒も醒めたのだらうと思ふ、何故か妙な癖で、醒め際となると又次の酒が呼び度くなる。早く宿へ着き度いと思はず女を急がせて早足になるのだつた。廓内に這入ると、街道ほどは淋しくない、師走に近くとも灯も花やかだ、唄も洩れる。軒端かすめて粹樣氣取りに歸つて行く客の乙な浪花節のきれぎれも耳に入る。美しく長く並んだかけ行燈を一つ一つ何げなく眺めて行くと誰人のいたづらか、中福と書いた家の行燈がくるりと橫に曲つてゐる菊勇も笑ひ乍ら、ついと又引誘つて來て、

『中福はんのお由さんと東京の林中さんと出來たのどすてな。』と言つて小豆が寐さられ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た情夫のために淸水寺の日參などしてゐる事を哀れげに物語る。

末吉町の或る露路まで來ると、菊勇はついと先きに立つて其處を這入つて行く。もう寐たのか貸座敷と云ふ行燈はかけてあるけれども、隣家の騷がしいのに引替へて表戶閉も堅い。

『小母さん、小母さん。』と菊勇は格子を叩く。少時くして夫れに應ずる樣な聲がすると菊勇はほつとして、

『まあよかつたわなあ。』と可愛らしへ聲を爲る。

『菊勇さんらしい聲やなあ。』と表戶を開けると小母さんは仄暗い中から小さい頭をついと差し出す。

『お寐たんどすか。宿とくれやはんか、晩なつて了ふて寐る處があらへんのやわ。』と言はれておばさんは菊勇の連れの誰人なるかを語ると、

『まあ、まあさうか、はあはあ、お宿りとも。あてかて今寐た處やのえ。今晚はみな宵客でな。丁度二階が空いてるし。』と言つて先きに立つて勝手の方から電燈の明りを送るべく這入つて行く。菊勇は孝吉のマントを低い上りかまちの處で脫がせ乍ら、帽子を添へて構はず二階へ上つて行く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『まあ、あんたはん。お上りやはんかいな。』と氣の好い事を小母さんは云ひつゝ、孝吉のために少し生温くなつたお出花をくんで、臺十に火を分ける。

『御迷惑樣ね。宿る積りぢやなかつたものだからつい晩くなつちつて。……小母さん次手に何か拵らへて吳ませんか。醉ひ醒めで寒いんだ。』と言ひ捨てゝ二階へ上ると、菊勇はもう坐布團を敷いてマッチで一服やつてゐるのだつた。洒落れた二階で、隅切りの床には紫壇の床柱などを立てゝ、蕪村の俳書の短冊を軸にしたものなぞをかけてある。其下には置きもので樣に木彫りの黑い犬が一疋据えてあるのが、其頭を取ると、胴は空で中にはいかゞはしい小道具と繪なぞが入つてゐる事を孝吉も此前敎つて菊勇と向ひ會ふと先づ夫れを見て微笑み會つた。

いざ此儘宿となると、菊勇は俄かに家の方が氣になり出した。いかに此廢商賣と云へ、他の抱妓にも聞えたらばよくないと知りつゝ又もや無斷で外泊込んで了つた。定めし大阪の客も憤つてゐるだらふし、ああ又明日の務めが情けないと、肉迫して來る淋しさを嚙み締めて

『おおさむ。寒いわ。』と火鉢を抱へる樣にする。

『もう寢つちまつたら何うだい。寢たら行火も要らないぢやないか。』と孝吉はついと羽

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

織を脱いで夫れを後方に投り遣ると、

『小母さん相變らず仲居を措いてないんだせ。』

『お客さんもあらしまへんもの。此So に堅いと誰人も來やはらしまんわ。』

『本當だね。』と云つてぐつたりとあぐらをかく。

『夜露で此ないに。』と言つて自分の羽織を兩手の指先きで些と撫で下すと、次手にすらりと脫ぐ、小菊模樣の帶に靑寶石の這入つた帶止めを締めてゐる。

『もうお寢やすな。次の間にお床を伸べましたよつて。』

と小母さんは熱い湯豆腐に燗を添へて音をさせて持つて來る。

『あゝさうどすか、早うしとくれやしたな。』と菊勇は悅ばし氣に言つて自分も手傳ひ乍ら次の間の方に立つて行く、孝吉も廁に下りて上つて來た時にはもう床上に褪紅色の鹿の子の長襦袢姿で菊勇は待つてゐるのだつた。

『おい、風邪を冐くせ。』と孝吉は言つて女に手傳せて八丈縞のたんせんと着替へると、菊勇は、

『音羽屋はん見たいな顏をせんとおきやはんか。』と言つて自分の腰紐の一本をとつて其太い腰に捲いてやる。少時く褥の上に坐つて頻りに猪口を傾けると、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『北海道か。』と言つてついと女の美しい額を視つめて、少し拗ねた振りの眼をしながら、

『俺はそんな究屈な處へは行かないぜ。』

『左樣ごすやろ、妾ももう諦めてます。』と存外從順にしほらしい聲で云ふ。

『だからお前は、俺を棄てて行くさ。』と言つて豆腐の軟かいのを其儘何もつけずに口へ持つて行く。

『あ、危い。』と菊勇は危い箸の手つきを氣にしながら此度は皿にわけて男の口へ持つて行て遣る。

『さきまもと喰べろい。』ともう一本を空て了ふ。先きに飮んだのを呼び返してもう醉ひ氣味になつてゐるのだつた。

『もう一層の事死んで仕舞ふた方が倍しごすえな。』明かなしやも和みのある聲でこんな事を云ひ出すのだつた。

『ああ、死ん仕舞へ。何うせ薄情な女なんだもの。』と孝吉も負けてはゐずに、何うかして醉つて仕舞ふとむやみに心の輪廓を抹して行く。

『ふん、一人で死ぬもんか。』と佶と艶な眼で睨めると何處から出したのかと云つた風に紙入れから取り出した小剃刀を閃と光らせる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『乙なものを持つてるぜ、それで斷れる意りかい。』

『ためしに行つて見まへうか。』と戯れると、

『見せろい。俺がお汝の指を斬つて遣るから。』と眞紅になつた腕をついと伸ばす。

『勝手におしやす。』とせは立つて急がし氣に次の間に立つて行く。

『此畜生、逃けて行く奴があるかい。』と罵なりつけられて女は元の坐に歸つて來ると先刻の木彫の犬を抱へてゐる。頭を取つて中をあけると、

『小母さん、繪を除り出したと見えるね。』と男も覗き込む。

『髮が此麼に崩れて了ふて、さう。』と云つて、姉さま人形の赤い手柄をひらひらさせ乍ら、其綺麗な小さい赤裸々姿を眼の前につきつける。

『男の方は何うなつたい。』と孝吉は云つて中を覗くと殘された又小さい姿の人形を取り出して矢庭に自分の腋下にかくす、さうして和々笑ひ出す。

『お見せやす。お見せやすと云ふたら。離しといたら可愛さうなわ。此人形さんが可憐いさうなわ。』と言つて其太い腕にしがみつくのだつた。

三

十時といふ時計を見て、孝吉は慌てて俥に乘つた。其頭は重く不愉快だ。而も俥が廓を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

離れて智恩院の淋しい松林を通り抜けると、今歸つて行く寺院の母の事よりはなほも執念こく昨夜の樣が心に食ひ入る。

『淋しい。』と云つて曉近くなつた夜寒むの醉ひ醒めを欷かい女の身にすりつけると、白粉と肌の可懷しい匂をさせて女も犇と抱きつく。其頰には冷たい涙がぴつしよりと濡れてゐるのだつた。

何だか昨夜位ゐ女を可懷しがつたのも始めた。女の恁う弱い依賴やうな女らしい調子があれ程も強く現はれたことはなかつた。夫れほど、自分は今日まで菊勇といふものを抱擁してゐなかつたのかも知れない。今更ら併しさう思つたつて何にならう。最後まで自分のものではない女を、と孝吉はついと考へると赫とした調子に心身の苦痛がこみ上る。一度、此歴感情を薄める爲めに新蝶の小高に逢つて見やう。然して次第に菊勇との仲を弱めて行く樣な手段が自分の現狀を救ひ出して行くといふものだ。小高に逢ひ度い、逢つて見たい、

淋しい粟田口の冬枯れの朝枠にかけた絹本を持つて西の方へと歩いて來る男がある。若し福田ぢやないかと孝吉は思つて眼を逃らしたのだつたけれどももう晩かつた、遂に先きに視つかつた。

「何うした繪なんだい。」と孝吉は俥を止めて訊くと、福田は些と其繪を見やうと言つて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

笑つてゐる。

『展覽會は何うしたい。』

『やつたよ。』と猶にやにや爲ながら孝吉の朝歸りらしい事を氣づいた樣にじろじろと見る。

『何故知らせないんだい。貴公等の俗物に解るもんかいと言つた調子だね。』

『此奴は參つた。』と仰山に手を頭に加へると、

『ぢや失敬しやう。』と歩き出す。孝吉も俥を急がせると、福田に逢つた只一つが妙にこんな聯想を起し出すのだつた。遊ぶ、と云ふ樣な自分が夫れほど古い情友から離隔されやうとは思はなかつたが、次第に疎んぜられて行くのぢやないかと言つた樣な疑問がだんだん本物の色を露はして來た。

『落ちる底まで落ちて見なければ』などと孝吉は寺院の門を潜るとふいと口走つて見るのだつた。

『まあ、杉井さん。』と下駄の音をきくなり走り出た尼僧は出迎へると、直ぐ嫌な顔をして眼をしかめる。

『知つてますよ。母でせう。』とつんと濟ます。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『さうかへ、あんた、えらい事ちや。でもあんた何處でお逢ひたんどすえ。昨夜の事え、お出なはつたのは。」

『さうですとも、知つてゐるんですよ。だづて歸れないぢやありませんか。』

『そんなら、晩くともお歸りや好のに。』

孝吉は淋しく苦笑し乍ら本堂の背方の廊下を通つて房室に這入る。南向きの椽側を開け放つて暖い日光を入れ乍ら若い丸髷姿の母はお召の綿入れに羽織を脫いだ、といふふりで背方向きになつて小妹と何かしてゐる。無言つて孝吉はマントを脫ぐと、背方から足音がしてついと佳い匂がするので振り向くと妹が立つてゐるのだつた。孝吉はわるく沈着いて母親の前にどかと座る。

西陳の妹を呼び倚せて、何か密議を愁らしてゐたものと見えると、孝吉は大きな丸髷姿妹の顏を偸見て濟まし込む。

『まあ。』と母親は口惜さと安心とに判別の付かぬ樣な眼をすると、例の癖で容易に口を解かうとも爲ない。

『お歸りやす。』淋しさうにしてゐた小妹は俄かに悉う言つて小さな膝をきちんと座り直す。孝吉は笑はずには居られなかつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『よく來たね。』と思はず言つて笑ふと、勢をつけて、『何もつい晩くなつて宿り込んぢやつたものですから濟みませんでした。』

母はまだ何も言ふのではない。風邪を冐いたのかすうすう鼻息を高めてゐる小妹の艶らしい前髮を見乍ら煙草を吸ひ續けてゐる。

『まあ、兄樣。』と西陳の妹は母の影に座つてゐたが俄かに乘り出して、もつさりと帕の上に太い手を重ねる。

『試驗は好のすか。さう遊んでばかりおゐやして。』

『ふゝん。』と孝吉は困つた樣にお世辭半分冷笑半分の笑ひ方をすると、金天句の吸ひ差しをぐつと灰の中に突き込んで丁寧に火箸の先きで灰をおつかける。

『おい、杉井、杉井。』と云ふ橫な聲が廊下の方でする。孝吉は慌てて立上る。

『居るのか。』と次の間に突立つてゐるのは野田であつた。

『まあ入れ。』と孝吉は野田の制服姿を視つめ乍ら、

『意氣な風采だね貴樣！　あ、此間借りてつた外科の筆記は何うしたい。』と孝吉の姿をつくづく見るのだつた。

『晩くなつて濟まない。忘れちやつたんだ。』まだ二三頁許り寫し餘つてゐるのだけれど

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

も、と孝吉は思つたが態々取りに來る氣まづさを思ふと、猶も借りて置くといふ勇氣もなかつた。

『ムッターが來てゐるんだから失敬するぜ。』と言ひ夫れを本棚から出して渡すと、野田は、

『若いムッテルたなあ。』と言つて笑つて挨拶もなく歸つて行く。

『野田さんと違ふのかい。』と母は次の間から容子を差し覗く。妹も見送り乍ら、

『もうあの人達、ちとも交際しやへんのですなあ。』

『ほんまになあ。』恁う語り會つて淋しく俯く。

『貴女方はもう、飯はお濟になりましたか。』と言つて、孝吉は元の座に歸る。妹は例の意地の惡い笑を見せ乍ら、

『まだですか、但しお晝御飯ですか。』

『さう言ふない。』と孝吉も懷手しながら碎けて笑つた。其浮つ調子が又母親には情けない。

『まあ此遲いのに、御飯もまだかい。』と是れが始めて母親の切り出した言葉だ。孝吉は無言つて苦笑する。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『牛乳が來てゐましたえ。』と少妹は小廻り氣がして次の間に立つて走つて行く。
『好いんだ。好いんだ。兄樣は欲しくない。』と孝吉は慌しく言つて、誰人のくみ置が冷たくなつた茶を啜る。
『せめて牛乳でも暖めてお遣り、夫れでは話が能ん。此寒いのに、御飯もまだかい。』と言はれて妹は例の通り冷笑を含み乍ら立つて乳を湧かしに行つて遣る。
昨夜よつぽどお待ちになつてたでせう。實は小堀で逢つたのですがね。お倖だつたから聲もかけられなかつたのでした。多分西陣に入らしやる御容子だと見て取つたものでしたから。』
『まあ。お汝、妾の來たのが明分てゐたのかい。』と言はれて、孝吉は失敗つた、と思つて淋しく笑ふ。もう粉らして了ふわけに行かない、俯いてそつと母を偷み見ると、瘠せた冷たい手でそつと涙を拭いてゐるのだ。
『何だ、仰山に。』と孝吉は心で嘖としながら、
『さう惱らんでも好いでせう。毎度の事ですもの、へえ？』と言つて連れ出し笑ひを淋しくする。
『消毒濟なら、此れ丈け暖めたらよろしやろ。』と妹は大きい洋盃に入れた乳を丸い盆に

載せて持つて來る。孝吉は微に頷いて其美しい色を見詰めるのだけれども、なほ淋しく涙を拭ふ母を見ると直ぐに手も出せないのだつた。

『ほんまに、餘りですえ、兄様。』と妹は直ぐ其尾について泌りした作り聲で言ひ出すと、自分の絹の帕を母の膝の上に措く。

『あ、お叶、妾は寒い。』と母親は涙を拭き終つて、さう言ふと、妹のかけて呉れる羽二重の羽織に袖を通し乍ら、ふいと孝吉の俯いて吐息づく哀れな姿を見て、情けなさうにきつと睨むと、

『お汝、寒いのに着替へがなくて困るやうな。單衣ものも何處ぞ縫ひ直しにやつたるのかい。』と言はれて、

『いゝえ。』

『いゝえ？ふゝん。そんなら何うおした。簞笥にはあらへんな。』

『何うも濟みません。』と少し苦くなつて孝吉は顔を上げると沈着いて乳を飲み込む。

『平氣な人。』と妹は言つてつんと拗ねた振りを爲乍ら次の間へと立つて行く。

『併しお叶も見たんですか、僕の簞笥でも。』と聲を低めてそつとして聞くので、

『何故。まだ見やへんやろいな。あの娘の着物を預つてゐるさうなが夫れ迄手をつけるお

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

汝でもなし。』

と又意味のある語ひ方をして、頻りに自分の影の暗さを凝視する様な寂しいなさけない我子の容子を見ると、ついと又弱々しい涙が頰を傳ふ。

『その、妹のも些とやつたんです。』飲み干た乳の洋盃を右手できりきり廻し乍ら下に置くと、些と頭を搔く様な眞似をする。

『まあ。』と更らに仰山に母親は恁う言つて、美しい深い睫の中に光る眸を見詰めると結と唇を嚙む。妹も何時の間にか忍ぶ様にして這入つてきて座つてゐる。ふと孝吉は其むづかしい勿體ぶつた妹の顏と哀れな表情の誇張に巧みな母親の長い顏とを見ると、止め様もなく可笑しくなつた。

『學校は休みかい。』とふいと母親は聞く。

『否、午後からあります。』と思はずから僞が出る。此調子で午後も續いては耐つたものではない、實は午前で終る講義をも昨夜の不仕末の爲めに逐に欠席して了つたのだから、せめて太田の許へひ行つて筆記を借りて來るより仕樣がない、而して成可く此儘無事に母妹を追つかへして仕舞はなくつちや迚も心が續かない。

『お叶さん。』と孝吉はふと妹を省みて恁う改まる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『然しお前の方は無事なんかい。』と言つて思ひ出した樣に袂から鼻眼鏡を取り出して襦袢の袖で拭く。

『あれ、此子は。其眼鏡と又取り替へたのかい。あの金椽のと。』と云ふ母親には煩さげに取り合ひもせず眼鏡をかけた綺麗な眼で凝乎妹の方を見る。

『無事などころですものか。毎日毎日苛められてゐるのですもの。』と言つて赤い指先きを頰に當てる。

『ぢやあ離緣して貰つたら好だらうつて、俺があの河原にまで言つてやつた事をきいたかい。』

『聞きました。夫れやさかいなほ叱られました。何ぞといふと離緣沙汰でおどし付ける。なんて言ふのですやろな。餘計な事をお言ひやすさかいに。』

『はゝゝゝ。ぢやあまあお汝も辛抱する氣なんだらう。』

恁う言つて笑ひ出す。母親も連れて不甲斐なさげに苦笑するのだつた。

『而してあの鍛の話は何うなりました。』と妹は丁度好機會を取り入れた樣に胸を乘り出して、兩手で火鉢を抱く樣にして母の顏を凝乎見る。

嫁入の荷と共に藪の收益を尾けて遣らふと言つた話は結婚後已に三月になる今日もまだ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

落着してゐない、夫れは兄よりも母に在る。先方の出方によれば遣らない事もないが、何うも夫れを敢てする程先方の遣口は香しくない。

『お汝がそんな催促をする樣になつたとは思はなんだ。えらい事を言ひ出すなあ』と母は噴さして妹を見る。然う言はれて妹の方も意外らしく眼を圓くすると、

『あれ、まあ、何故言ひ出すと不良いのですい。』

『不良がな。催促がましい。』

『さうかて晩れてゐますがな。』

『それは家の都合によるものな。』

『さうかて、家では待つてゐますせ。まるで欺された樣なものやなんて言ふのです。

『なあに、欺された、え、誰人がそんな事を云ふ？』

孝吉は耐えられぬおも可笑しさを大きな白い兩の掌で顏を撫で廻しては笑を紛らす。

『なあ孝吉、迚も此娘は見込みがないな。良人に夫だけの事を言はれたと云ふて、もう又生家の事情や都合を忘れるなんぞて、まあ、外へ嫁くと此うも變るかなあ。よし欺されたと聞いても辨解するのが當然やないか、夫れをお母樣に言ひ聞かすなんて。』

『夫れはお母樣、貴女が無理です。……兄樣笑つてんと何ぞお言ひやはんか。何ちが不良

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おす。』
『まあ孝吉、私は娘に見込みが外れた。』
責められる自分の役目が何時の間にか移つて行く可笑さが堪らない。
『それあお母様の方に無理はないがね、お汝も悲しいさ、』と妹の涙を見付けて恁う云ふと、又大きく笑ひ出した。
『まあ本まに。』と母親は恁う例の仰山な聲をして兩手を顏にあてると火鉢の椽に俯して了ふ、

四

秋の養蠶も思つた程成功ではなかつた。年貢米も大低の小作人へ二割方負けてやらなければならなかつた。さういふ不景氣な事情の下に總ての收益の三分の一を措いて行つた母の心を思ふと隨分好い心持ちは爲ない。其夜も母の淋しい涙の顏が眼に殘つた。珍らしく寺院の一室に木枯の兩戶に訪ふ音をきき乍ら。ヰスキーを買つて來て夫れを悉く空けて了つてもまだ足りない樣な顏付きをしながら床に入つた。夜中の眼ざめ程哀れなものはない。
孝吉は耐えきれなくなつて。繪端書を新蝶の小高の許へ認て見た。
試驗も間近くなつたから、明後日あたりなら南座の成駒屋を見ても好い。此方から行く

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のは大變だ、來て吳れるなら奢つてやらふ。と書いて表記に大津市新蝶大駒樓方藝妓小高どの、と書いた。夫れが二つの朝をくらして小高の手に落るのは午後の二時頃だ。

『行かいでか。』と小高は其端書を朋輩の中で讀み上げて態う戲れるのだつた。姉の聲を恃んで親方から暇を貰ひ、およしと云ふ仲居をつけられて出かけたのは二時頃、まだ十代の小高は羽織の黑を着る事はできなかつた、そして姉があり妹も持つてゐない。薄色の羽織も嫌だ。二枚重ねに帶を締めて派手つぽい紋綾の吾妻コートを被るのだつた。其頃、素人連では鼠か何かの毛糸の肩かけを被たものだ。小高はお高祖頭巾の縮緬を襟に捲いた。仲居のおよしは羽織も着られない。お召の二枚重ねに晝夜帶をして白絹の帕を襟たかく捲いて尾いて來た。

『間に會ふだらふか。』と小高は美しい鼻の上に皺を倚せておよしに云ふ。橫濱で生れて長らく東京の小母さんの許に養はれた小高は何うかすると幼い折の話が出る。

『隨分だわ。』なぞと云ふ調子が學生連の粹樣達ちにもてたものである。

七條驛についてから、すぐ南座へ行つて俥で孝吉の下宿の寺院へ向ひに遣らふ、といふので小高は一人茶屋に案內させて棧敷に這入つた。二つ目の幕が開く。隣の桝も向のふ桝も素人の婦人連は數へる程でぎつしりと祇甲先斗町の妓達で詰めきられてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『茲は構へんやろ、』なぞと酔ひつぶれた株屋か何かの男が四五人妓を連れて小高の桝に割り込んで來る。

『いゝえ、今に來る人があるんですから茲は不可せん。』と言つてつんと濟ますと、

『よやさうですか。是れは江戸兒さんの藝者はんか。』

なごとげらげら惡戯けて流れて行く。其聲を聞いて桝に居た祗甲の姉連が一勢に此方を向く。軟らかい頬を火の樣に染めて小高は帕で眼を蔽ひ乍ら俯いた。午後の中幕は夕霧伊左衛門、あみ笠茶屋のせりふも何も茫然りとして見てゐると、およしと孝吉は背花道をそつとして通つて來る。

『まあ隨分お久擱。』恁う言ふと、流石嬉しさに胸騷ぐ。孝吉も妙に沈着かず、暇さへあれば右方の桝だとか二階だとかを眺め廻してゐるのである。

『何か知つた方でも。』と小高は孝吉の其眼を追ひながら、刈り立ての美しい頸の邊りに眼を止める。此れで二十日目に逢つた。何うかすると忘られさうな自分が心細い。早くさうした心持ちを言つて仕舞ふと思つてゐるのだけれど、先刻からまだ沈着いて言葉さへかけないで頻りに外の事に心を使つてゐる容子だ。

『些と、貴郎てば。』と火鉢の椽に載せた男の指先きを些と突しと、怨めしげな眼を見せる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『何だよ。』と辛ど孝吉は云ふと、始めて舞臺の方が眼に入つた樣に安心らしく莨を吹かし少しの間でも喋らずにゐられないおよしはもう隣の桝の一人と番付けを見せ比べて何か言ひ合つてゐる。

『手紙一本もよこさなかつたぢやないか。』ふいと孝吉は舞臺から眼を放すと若々しい小高の襟元を見つめ乍ら眞面目らしい言ひぶりをする。

『あら隨分ね。』と言つた拍子に前の桝の銀杏返しがちらと此方を向く。

『まあ。』と孝吉の眼を見て云ふので、

『やあ。』と孝吉も眼鏡越しに笑ふ。銀杏返しは能く褄をからげ乍ら棧を傳つて孝吉の傍へ這入りに來る。小高を田舍藝者と見て取つたな、と孝吉は苦々しく思ひ乍ら席を與へてやる。銀杏返しは紋縮緬友仙の長襦袢を見せ乍ら重々しく坐り込むと、

『あんたはん、まあ何うどすもう醫者はんにお成りやしたんどすか。長いやおへんか。』

『大分お久濶だね。』孝吉も仕方なく笑つた。

『あれは昨年どすかいな。勇さんと熱々やちふ事はつい此間もきいてるすえ。』

『そりや三つ坊の間違いだ。』

『三つ坊はもうあきまへん。なんのあの菊勇さんが俳優はんに續けてはりますもんかいな。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

取るちはへんし、お秘しやすないな。けつたいくその不良い。』と言つて孝吉の出してやる盃を頂いて飲むと、

『今日は浮氣どすか。』と小高の方をちらと見る。

『なあに大津だがね行き處がなくつて僕の處へ舞ひ込んで來たのさ。』と孝吉は成可く小高の方を見ない樣にする。

『おゝ、拾ひどく。』と言つて盃を措くと白粉紙を取り出して鏡を見る。

幕が引けると、銀杏返は歸る。立つ人、歸る人、桝の棧、花道、通ひ道、美しい姿と派手な帶と樂しい聲とが混亂れる。棧敷の前の一並びは舞妓の一團がずつと美しく列んでゐる。襟付の處まで上つて來てゐる帶の格好を孝吉は凝乎見てゐると不意に其處の四五人は立ち上る。其一人が此方を向く。

『やあ。』と孝吉は其白い顏に聲かけた。

『まあ、杉井さん。』と他の今一人が恁う言ふと、細い棧を小な白い足袋を赤い裾の下から見せて傳つて來る。お互に小さな手と手を取りながら長い袂を振り亂して立ちふさがる。

『お坐りよ。』と言はれて、

『御めんやすしや。』

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『姉はん、御めんやつしや。』と小高に口を利くのもある。

『あんたはん。ちつと招しとくれやはんかいな。』

『西いばつかりお行きやすのすか。』

『何うしといやしたのどす杉井さん。』と一子は言つて赤い袖口をびらびらさせ乍ら孝吉の肩を揺る。

『何んで無言といやすのどす。』と可愛い眼で睨める眞似をすると、小さな唇をつんと突出す。

『杉井さん。今日は菊勇姉さんと一緒やおへんのどすか。なせんどす。』

『杉井さん、今日は浮氣どすか。』

『喧しいなあ。』と孝吉は大きい聲を出す。

『喧しい事おへん。』

『喧しいとお云ひやしたらもつと言ひますえ。』

『何麼話しなほ。へえ一子はん。』

『煩さいな。何處か好い處を探して行つた何うだい。』

『まあきつい氣。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

孝吉は耐らなくなつて笑ひ出す。銀杏返はふと此方を見ながら、
『一子さん小染はんも杉井さんを苛めとおあげ。』といふ背方から、白い顏の島田も眼を見せて會釋する。誰人が來た。と云ふ氣勢でそつと背方を向くと、菊勇が背方の襖に這入つてとんと肩を叩いたのだつた。
『あ。』と孝吉は思はず言つて眞面目に返る舞妓連は菊勇を見るに俄かに立上つて席を讓る。頓て會釋して梯を傳つて行つて仕舞ふ。
些と孝吉は語が出ない。無言で莨を渡してやつたりなぞする。菊勇も小高には眼を呉れず、四方の桝の知つた顏に會釋やら挨拶やらを交し乍ら、莨を取つて吹かすのだつた。今日はくだけて銀杏返なぞに結ひ細かな琉球の重に白つぽい博多の帶を締めてゐる。指輪も石入らずの高彫を只一個箝めてゐる處なぞ見ると、大阪のと一緒に來たのだと思へた。
『お客かい。』と孝吉は少し苦い顏をして云ふ。
『いゝえ。大阪のすえ。』と存外冷たく收まつて、而してそつと小高を見る。およしは何處かへ行つたらしい。
『お母はんにお逢ひやしたか。』
『逢つたよ。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『學校も行きいやすか。』

『あゝ。』何處までも軟かく孝吉は答ふ。小高は淋しさうすに番附けなぞを見てゐるのだつた。

『夕御飯まだごすか。』

『一緒にやらふか。大阪の方に不良いね。』

『へん。』ご菊勇は莨を灰に差して眼を外らすご、

『此幕のな、あのそれ、お茶席の處に來たら二階の棧敷の由子はんごこまでお出でやすや、妾も行てますさかいに。』

『お汝、二階だらふ。』

『違います。見えまへんか、妾のゐる處が。』

孝吉は淋しく笑つて頷くご、菊勇はますます嶮惡な顔をして、又ちらご小高を視る。孝吉は耐り兼て、

『新蝶の小高さん。』ご媚びで微笑み乍ら言ふご、菊勇は小高の黑地友仙の襟元をぢつご見る。

『何かよろしく。』小高はぱつご赤くなる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『さうどつか。』菊勇は會釋もせずに晩れ走せに孝吉に向つて云ふ、
『よろしおすか。』と立ちがけに念を押して又恁う孝吉に云ふと、折柄歸つて行く若い妓の手を取つて背方の方へ傳つて行く。
『行くよ。』孝吉は其背から答へてやつた。
何か知らず物恐ろしい氣が流れる。而してゐて馬鹿げても見える。
『あなた。』と少時にして小高は淋しさうな聲を出すと、怨めしげに見上げる。
『厄介な奴に目つかつちやつた。』と孝吉は首を小高の方へ伸して背を僂め乍ら小聲で云つて苦笑する。
『置いてけぼりに逢やしないでせうね。』
『馬鹿な。』と言つて孝吉はついと外方を向く。次手に菊勇は何處にゐるのかなと眼を伸ばして見渡すと、「千鳥」の仲居がづつと向ふの場の中に見えた。仲居の前には菊勇と今一人の若い妓とが並んでゐる、丁度其後ろに肥つた商人らしい男が誰人かに頻りに話をしてゐる。大阪の株屋で、北海道の漁業會社の重役だといふ男は是れか、と孝吉はぢつと眼を放さずに見てゐた。

——未　完——二月某日——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一年間（つゞき）――らいてう――

四

年の暮にひいた風邪（かぜ）の熱がなか〳〵とれないで、私は正月を、遂と臥床の中に迎へねばならなかつた。

社に集つた澤山の年賀狀はMから纏めて送つてくれるのを待つて、寢ながら一つ一つ樂としみに讀んでついた。その中から鮮かな墨色で無造作に、酒壺と洋盃とをかいた上に二重枠をとつて賀正と記した一葉の葉書を見出した。名も住所も書いてない。S同人としてある丈だが、獨特な書風ですぐそれと分つた。病床の徒然も手傳つて、私はその書も一寸面白いと思つた。殊にS同人とすぐ憶面もなく、なり澄して自分から名乘り出すあたりなど何て氣の早い奴だらう、生意氣なといふやうな幽な反感はまつはりながら、何となくたのもしい人のやうにも考へられた。こせついた女の出來ない眞似だと思ふと、どんな女か早く逢つて見たいやうな氣もした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

其後もちよい〳〵手紙が來た。いつも私宛にして社にくるので、Mに對して何となく氣まづい樣なことさへあつた。以前は隨分手紙を書いたが近頃はそうした閑散な心を失つたし、自分の仕事と勉强に多くの時と力とを獻げてゐるから、又さうしたいと思つてもゐるから必要に迫られた場合の外めつたに葉書も書いたことのない自分は、おれつきり何一つ言つてもやらないのに、よくも根氣强くよこす人だと思つた。そしてその若さと、呑氣さを羨ましくも思つたけれど、あまり度々だと又か、又かと却てその煩はしさに興味をそがれるやうであつた。何かなしに只手紙が書きたい。無責任な手紙を書くのが面白い。こんな人は自分一人の興味で、その時々の氣分で氣儘勝手な手紙を人に宛て丶實は自分に書くのだから、こちらは只受取つて置いてやればそれで澤山なのだとでも言ひたいやうな氣になつてひとわたり目を返しておくのが常であつた。

ところが或日、「白樺の連中とよく知つてゐる白馬會の或畫家は私を訪れて來れました。私は伊太利亞のＶＥＲＭＯＵＴＨを飮みながら色んな話をして見ました。Ｓについて私は意見をきいて見た處が靑年は極めて冷笑した。Ｓはだめですせ——女の陳列箱見たいだあんな雜誌は死んでもい丶でしよう!! と叫んだ。私は靑年の手を握つたまんま泣きました。らいてうさん、私は決して惡口を恐れて泣いたのぢやありません。私は本當にＳを思つて泣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たのです。私はらいてうさんだけの論文でも、創作でもかまいません、只それのみでSの或號を埋めてほしいと思ひます。そしてあの青年にブックで見たいです、私の意義はそれで十分です。今夜一寸手紙かきますから讀むで下さい。道化もの、GREEN、ROOMより。」といふ葉書に續いて長い〳〵手紙が來た。次にのせるのはその下半分である。上半は何に使つたものか今は殘つてゐない。

『…………紅吉はアトリエの出來た夜るCといふ油繪かく若い男と二人で柳で編だ籠をもつて色んな品物を買ひに出ました。プランダルチヤンを買つて生々しい香を嬉しむだ私は果物屋のきれいな店先を素氣で通る理にはいけなかつた。

紅吉と呼ぶ私は長崎蜜柑の甘酸いのと幼々しい林檎の六つを買つて目を尖して南へと又歩みました。

大きな洋酒店が見つかつた。

「ヤア、アブサンがあらあ!!」とCさんが走つた。二人はマバシイ様に澄むでゐる陳列棚の前にならむで內のお酒を見ました。ベルモットのおどけた瓶は一番私の氣に入つた。そして私はシヤボン玉の樣な色したお酒がたまらなく飲たくなつた。マントのポケットか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ら銀貨をチャラチャラいわして男に渡して――そしてベルモットを買つた。

歸りに私は露西亞の煙草とエジプトの葉卷を買つた。袂に入れて嬉しさうにアトリエに歸つた私は――すぐ紅吉の同人と名前をつけて、白いテーブルの上に乘つけた。

毎日私は消えるまなく洋酒の香を嗅でゐます。私はアブサンに爛れた男より幸福な身となりました。意氣な硝子コップで洋酒をくむたまらなさ。春草の書を見た刹那の感とよく似て居ます。

「元始女性は太陽なり」

この活字の集りは白い強い同人の眞中にゐます。

私は――それを見ることが一番心強く又、たまらなく嬉しいです。

Rさま、私は紅吉です。紅吉はSの同人です。紅吉は洋酒に醉つた後でよくこんなことを口走つてゐます。テイブルの上にうつぶして、吁！といつて。

「早く東京に行きたいな。

早く江戸の若さを唄いたい。

新しい香が知りたい。

立派な友達に逢いたい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らいてうさんはいい方だらう。
いえ、いえきつとそうに違いない。
太陽より強いつてAちやんはいつた、けれど本當にそんな強いのだろうか…………
それにしても早く逢いたい。
そして色んなお話がききたい。
吁！
Sが戀しい。
何故かSが可愛いい。
Sがゑらくなつて來れるより恐ろしい様になつてほしい。
紅吉は思ひます。
今のまんまでSが進んだらなつかしい香がなくなりやせぬか。
私は——あく迄元始女性は太陽なりで香つて行きたい。」

らいてうさま。
あなたの香で埋めて下さい——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あなたの光りと明さで活字をならべて下さい。あなたの——生と、性で私等を驚かして下さい。恐ろしがらせて下さい。
紅吉の同人も皆それを待つてます。私達同人は皆「原始女性」を讀むでゐます。
是非。是非。是非。

紅　吉

らいてう様

私が大阪にゐる間にSを大阪の女に讀してやろうと思ひます。
いつかお話の本屋の方の金をとりに行きましようか？
三月に一度上京します。
フオツグラーのエツチングとロダン先生の彫刻を見に。
ともかく早く上京がしたいです。
たまらなく。
大阪の方で御入用のものがありましたら送ります。
用事が出來たら致しましよう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私はその日を待ます。
表紙はスバラシイものが出來るらしい。
遠慮なく云ひます。
編輯室よりをもつと面白くして下さいませんか、生々しい生のニジム程に。

さよなら
四五、一、二二ひる
大阪で　同人、

らいてうさま

細い階書で、巻紙二間餘もあらうといふ手紙を私は稚氣や、衒氣や、滑稽や、厭味や、奇抜さなどに牽かれてつい一息に終まで讀み通した。そして大したものを讀まされたものだと思つた。アハハと笑ひたいやうな氣も何處かでした。けれど何故か邪氣と無邪氣と、眞面目と不眞面目と、正氣と狂氣と利巧と馬鹿とでもいふやうな極端に相反したものが縒り交せに雜居してゐるやうな感じのするのが一寸氣になつた。手紙や葉書の度毎に名が變るから本名は一體何と言つたかも忘れて仕舞つたけれど、急に紅吉、紅吉と特別に力を入れ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て自分を呼び出したのも何のことだか彼女に就いて何も知らぬ當時の私にはさつぱり見當がつかなかつた。又このマントの女の周圍に若い男がついてゐるらしいのも妙に心に殘つた。けれど何はともあれ、當人は大眞面目だといふことは疑はれなかつた。そして些細なものに對して少年少女のもつやうな初な心を一々躍らせてゐるらしいのと、言ひたいことは何でもお構ひなしで言つて除ける熱情と無遠慮とが多くの厭味や反感を打消すに足る程私の氣に入つた。何處として囚はれた處のない、かういふ女を稀に見るのは愉快なことだとも思つた。

私は友達が來ると手紙を見せたり、話したりして「一體まあ、あなたはどんな女(ひと)だと思ふ」などと言つてよく笑つたものだつた。

同人のKは男のやうな女といふよりは女のやうな男とでもいひさうないやな氣がすると言つた。そして「閑人(ひまじん)だわねえ」とひやかし笑ひをした。

私はいつかこのまだ見ぬ變な女に對する興味を友達にも强いやうとしてゐたのであつた。

——未完——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ホイットマン論（つゞき）――エリス――

ホイットマンは、此應答者の使者を小なりとせず。彼は曰く「余も亦、多くに從ひ多くに從はれて、玆に一の宗敎を開基す」と。斯くして我等若し彼を了解せんと欲せば、我等は此宗敎につきてある概念を獲得せざるべからず。即ち我等は、彼の表現の形式並びに、彼の思想に於て、ある著しき經過の行程を發見すること能はざらむも、尙彼の作物に於て大なる勢力を有する矛盾せる二個の概念あるを發見すべし。

Song of Myself はホイットマンの生に對せる初度の概念の最も完成せる發語なりき。

我は魂の肉體より大ならざるを云へり。
我は又肉體の魂より大ならざるを云へり
我は又何物も、神さへも、
自我より大なるもの丶人にはなきを云へり。

この物と靈との結合及その結合に含まれたる凡は、彼の初年の且最も個性を明示せる時

期を支配せる概念なりき。「若し肉體にして魂ならずば、何物が魂なりや」と彼は問ふ。之れ即彼の唯物論にして、又實に一の新しき、より大なる基礎を有する、希臘精神の新なる主張に外ならず。

「人の心は全く神の正義より遠ざかり、彼は邪惡、曲解、不潔、不淨、不義なるもの丶外は何物をも案出し、冀ひ、又は計畫する能はざること、彼の心は全く罪に取り圍まれ、腐敗と枯死の外何物をも呼吸し能はざる等のことをば、疑もなき眞理たらしめよ」とは天才カルヴキンによつて、明に且論理的にその神學上の著書 Institutes に於て記錄されたる、基教傳記の基礎をなせる思想なり。これ又ホイツトマンの思想とは背反せる點にして、彼に於ては義務の道德的概念は存在せざりしが如し。

我は何物をも義務として與へず、
他の義務として與へるものを、我は生ける衝動より與ふ。
(我は我が眞の心の働を、空しき義務として與ふべきか)

かくして玆には道德は、傳說或は純理論の產物ならず、健全なる人の當前の活動に外ならず。

「如何なる味も、完全に發達せる人に於て美味なるによつて、初めて眞に美味なり」と。之

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れホイットマンの道義のよつて起てる格言にして、又アリストートルの道義なり。而も尙一人の希臘人も未だかゝる著しき熱心を以て確說し例證せし者なし。

希臘精神がAnthology（紀元前一世記に於て集められたる希臘諸名家の短詩集）中の鋭き美しき短詩に於て、その終の表示を見し日より、ホイットマンがそのSong of Myselfに於て寫し出せし態度は、常にその表示者を欠くことなし。中世紀を通じて、拉丁學徒の歌なる連禱と詩篇の絕え間なき吟誦に對するこれらの奇怪なる屢出沒せる反響は、彼等の不淨なる華やかなる偶像敎、彼等の鮮かなる戀の美、及ホレースの作品等に含まれて、全歐洲を通じて漲れり。

Tristan and Isolde（ガットフリートの史詩）に於ける人類の誇と情熱とに對するガットフリート（Gottfried of Strasberg）の斷定及アラキエル（Alaciel）の歷史及其他の驚くべき物語にその表現を見出すと共に、バッカシオ（Baccaccio）の健全にして高尙なる好色に於て、この旋律はより强くより貴き調に變せり。然る時に文藝復興の大波、物理學的生命の發揚を以て、藝術、哲學を滿しつゝ、伊太利、佛蘭西、英國を通じて來り、後に及びては尊大にして獨立せる智的生命の發揚たる、佛蘭西革命を中心とせる運動によりてその表示を見出せり。

然れ共此等の發現は時に於ては局部的にして、又時としては狂妄に近かりき。彼等は必要

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

により當時勢力を恣にせし基教氣質に逆ひ起れる一般人の活動なりき。即ち彼等は大部分に於て、意識せる反動的性質のものなりき。

彼等に於て、我等は――ゲーテに於て稍この存在を認むれ共――基教の有して、彼等の有せざる大なるものあるを感ずる者なり。即ち見得べきもの丶凡を輕しむる容易なる方法によりて、見るべからざるものを永遠に崇めつ丶尙――フランシス(Francis)或はテリーサ(Theresa)或はフエネロン(Fénelon)の如き――克己の怪しき麗しき花を生ずる、彪大なる基敎の生育の下に、一の遲々たる力は常に働きたりき。即ち、見えざるものに對する新しき觀察の基礎ならざるべきも、尙見得べきもの丶、より正確なる觀察の基礎たる、生の不思議のその根原たる――而も敎會組織者は捨て顧みざりし――理論上輕しめられたる肉體に於て、一の趨勢はその發展を急ぎつ丶有りき。

前世紀に於て、この趨勢をある種の狂氣に近き精力をもつて強く且綿密に云ひ表はせるをウイリアム、ブレイク(William Blake)とす。この偉大なる捕はれ人は、その驚くべき目を開きて、その心靈の牢獄の格子を通じて凡の事物を眺めたり。特に彼がそれに於て「その洞穴の狹き孔隙を通じて」最も明らかに眺めしと思はる丶 The Marriage of Heaven and Hell

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に於ては、「最初に、人の、その肉體を離れたる魂を持てりとの想念は、削減せらるべき」こと、及「知覺の扉清められなば、人には凡の物は、無窮その儘に現はるべき」とのその確信を公表したり。この異常の著書は、彼の句法によれば實に「地獄の聖書」なり。

ホイットマンはこの感化の水勢烈しく且大膽に流れ出せし時代に現はれたりき。彼がLeaves of Grass を出せし時に當り、ツルグネーフはその「父と子」に於て、ヒントン(Hinton)の情緒の否定に基く所の、苦行の新しき形によりて表現せらるゝ精神即ち積極的にして豪膽なる近世科學の精神を、バザロフの代表的人格に於て現出しつゝありき。近世に於ける最も偉大なる感動力の一なるホイットマンは、厳しく專門的なる科學より離れて成長し、新しき世界と新しき文明に接觸して、彼の目前に擴げられたる限を吸收すると共に、自身その潮流に突入し、その感動的性質より生ずる要求を正し、花崗石によつて柄附されたる廣大にして同根なる宇宙の住民として、自身を描出するに足る靈感を有したり。

凡の力は我を完成し、我を樂しませんか爲に絶間なく働きしか、
今はこゝに、我は我が强壯なる魂を持して立つ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ホイツトマンの訓練されたる科學的智識を有せざりしは、疑もなき事實なれ共、今彼が科學に負へる所を知ることなくして彼の價値を求むる能はず。

彼は宇宙は單純なる開方の運行にして、それに於て惡と疾病とは常なき變動なりとの概念を抱けるヘーゲルの哲學より或物を獲得せしは明らかなり。然も其獲得たるや人傳に得たる處のものにして、從つて彼の作物に於ても定着することなく、明らかにその足跡を印するものなり。然りと雖、彼の科學的概念に負ふ處は誠に大なるものにして、エマーソンと等しく實に之を吸收し、言を換へて云へば之を先見せし處の人なり。彼の Children of Adam の背後に潜めるは全くこれらの概念に外ならず。

バッカシオ（Boccaccio）のそれの如く奥行ある平穩なる歡喜と、又世界の肉と血の混亂に當りてはバッカシオの嘗味ひ知らざる道念を基とせる歡喜を樂しみつゝ「明日此等死ぬことあらん。我等をして只飲み且食せしめよ」ならずして、「今日我等共に生けるが故に、我等をして手を取り、共に扶けしめよ」と叫びしは、彼の健全にして欣然たる肉感の慾情より發せし、感銘すべき心情なり。彼に有りては、實に死に對しての不變なる彼の態度の如く、その奥行と誠實を有するものなし。我等は只、セキスピーア中のクロオジオが「死と」して知れ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りし「怖るべき物」を知る。

死して、何處にと知らずしてゆく、
冷なる死に橫はりて朽つ、
その最惡なるものよりも惡しき狀態を思ひ、
これらの秩序なき不確實なる思を抱きて、
想像は哭す。

エリザベス朝諸名家も――ローリ（Roleigh）ベーコンの如きに至るまで――彼の光輝ある勇氣ありし時代に於て、尙且死の不可思議と恐怖とに、同種の戰慄を禁ずる能はざりき。彼等は常に彼等の背後に、凄慘にして怖るべき彪大なる中世紀に見られし納骨堂の立てるを感じたりしが如く、英國に文藝復興の運動を築き上げたりし赫灼たる諸名家も、尙そのこゝに思ひ到るに及んでは遂に緘口して又言ふ所を知らざりき。

この恐怖中には、暗黑と不可解に對しての幼稚なる理由なき畏懼を含みたりしが、十七世紀に於ける科學と哲學の進步は遂にこの弊を一掃するに至れり。而して又ホイットマンのそれに對する態度も、これに比して等しく根底有り且創造的なるものなりき。如何となれば、彼は、我等に缺損ならざるものを失ふことは惡ならざるにより、死は我等には取る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に足らざるものなることを、冷淡にエピキユラス、エピクテタスの徒と論ずるを以て滿足することなくして、死の愛すべきものなるを言明せり。その Leaves of Grass に於ては、我等は絶えず Lave and Death 及その他の卓越せる英書家の作品の前にて抱くが如き感想を抱くは事實なり。彼は曰く「我は死より美しき何物も世に起らざるを示さん」と。

茲に我等は、單に彼は實世界の最も切實にして快活なる立場よりならずして、大多數の大作家に嘗て經驗されざりし疾病と死との實際上の面接より言明しつゝあるを覺えざるべからず。その Song of Myself の卷尾に於て、彼はその愛する草より再び生ずべく自身を塵に致せり。

再び我を思ふ時、その足元に求められよ、
汝は我が誰なるか、或は何を意味するを知らず、されど我は、汝に健康を齎して、
その血を淨め又組織せん。

且塵を以て單に取るに足らざる微片となす人に向つては、彼はショウペンハウエルと等しく、「ホー、然らば汝は塵は何なるやを知らるゝや」と尋ぬべし。

土壤中の化學作用、即我等が腐敗と稱するものゝ上に根づくる甘味及多くの死より起る生を、彼は This Compost 及かの戰中に倒れたりし人々の爲の哀歌たる Pensive on her dead

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

gazing 中に等しく歌ひ出したり。それに於ては彼は死屍の香麗しき薔薇のよき肥料なるより、進んで又かの甜爪の滑らかなる胸にもよき肥料たるを失はざるを云へり。彼の最も完全なる抒情詩 Out of the Cradel endlessly rocking に於て、ホイットマンは奇怪なる可憐を以て死――「その强き且快き名」――を讃せり。實に死の美は、彼の When Lilacs last in the Dooryard bloomed 中の嚴肅なる頌歌に於けるが如く、確實にして男性らしき力を以て謳歌はれたることなし。

常に足音ぬすみつゝ近づく死よ、
何人も汝に心よりの歡迎を唱はざりしが、
さらばわれ、汝の爲に唱はなん、
凡にまさりて我は汝をたゝふ、
汝に詩を唱はゞや、時來りし日、
汝の歩みのためらはぬ爲に。

* * * * * * * *

木々越えて汝の爲に詩を送る。
よせてはかへす波こえて、果なき野と牧場を越えて、
市と波止場とその町々を越えて、
歡喜をもつて死よ此歌を寄す。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ホイツトマンの生涯を支配せし第二の大思想は、彼の主我論に存す。その熱心なる主我の觀念は、既にその第一の思想に於て認められたる所にして、その Song of Myself には兩者の全く平行の位置に有るを示せ共、

又何物も、神さへも、
自我より大なるもの、、人にはなきを云へり。

尙兩者の全く異れる存在なるを確むるも亦此の詩なり。

この黎明に小山を攀ぢて、雲の群る天空を仰ぎ、我は我が魂に尋れたり。
「これらの天體と、そこに存する凡の智識と歡樂を得ば、我等は足れりや、又甘んずるや」
我が魂は答へたり。
「否、我等は過ぎ行きて、尙遠くに存在するものを欲するに外ならず」と。

その終に於て、彼は遂に一度その最初の思想を否定せり。彼はその一度は魂と同等なるもの、或は魂それ自身なりとさへも呼びし肉體を、一の排泄物として諷言するに至れり。

我が排泄物なる肉をこそ燒かれ粉にされ葬らるゝを許せども、
我が眞の姿は疑もなく、未來の爲に殘されぬ。

彼の初の大なる發言は唯物論の表現にして、この主我論は唯心論の表現なり。これ即ち

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自恃強きヤンキーの神として崇視する所なり。「余は眞に汝自身に於て存するものをはなれては、勝れたる者、所有者、よりよき者、神を汝の上に置かざる者なり」と。これ即ちホイットマンの後年の作に於て主として働きし概念にして、遂には彼の宇宙をみたせるものなり。「神」なるものは、言語としては、彼は時として語勢を強めん爲に使用せしことを有りと雖も、遂に確定せる觀念を有せざりき。

自然も亦彼に有りては生命あり脈管ある人格ならずして、その單なる物質の聚合ならざる場合には、一の律にして、時としては一の道德律なりき。抽象的の人道をも彼は又斷じて認めず、且人そのものに就ては何物にも論及せず、宇宙に於て、彼にありては、不死なる永遠に發育する一個人の存在の外は何物も存せざりき。この主我論は實際にして、切實に道義的なるものにして、宗教的なるものとしては說明すべからず。

ホイットマンは、ハイネに依つて著しく悲しまれたる「魂」の不健康とも稱すべきを有したりき。然して此點に於て彼は近世の大作家の何れよりも、尤もゲーテに近似せるを見る。彼は生れながらに魂の缺陷を有せる人にして、彼は Titanic Undine（巨大なる魂を授けられたる水靈の意）の種の人なり。或る時彼はバックに向ひて、「余は何等の宗教的經驗を有せず、亦靈的再生の必要を感せざりき」と云へり。而うして、彼自身は野外集會に於て眞率に印象されたる、

美以教派の牧師の「熱心なる言葉を喜びたり」とは云へ、我等は彼が動物につきて歌へるものを讀む時に、彼のこの聲明に如何許の誠實あるかを見るものなり。

彼等は彼等の狀態につき苦しまず、涙聲せず、
彼等は暗にめさめて横はり、彼等の罪を悲しまず、
彼等は神に對する義務を說きて、余を苦めず、
一の滿足せざるなく、一の所有熱に狂へるものなし、
一も他に膝を屈せず、まして數千年の前に住みしその同類にをや、
全世界に一の尊むべきなく、一の苦めるものもなし。

我等はこの靈の欠陷を彼の音樂に對する態度によりて、發見するを得。如何となれば、音樂はその極度の發達に於て、その復雜、その受動的忍耐と休みなき玄妙の熱情とによりて、近代精神の特種の代表者なり。而してホイットマンが音樂を樂しみたりしは明白なる事實なるが、それと同時に彼の作物と目撃者との證明によれば、彼の樂しみし音樂は、ロッシニ(Rossini)のオペラに於ける單純にして嘻々たる旋律なりき。彼はシンフォニーに關して只漠然と言及せり。

その大歌劇なる時にこそ、
あゝ、眞にこれ音樂なれ——これ余を樂しましむるものなれ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ホイットマンが事實ベイトーベンを評價し能ひしか、或はワグネルのタンホイゼル(Tannhäuser)を了解せしかは疑問に屬す。

ホイットマンの主我說は又彼の熱情と關聯せり。彼の Leaves of Grass 中には小止みなき號笛の響き渡れる有り。この人は、その言明せし如く、新宗敎の開基に達せしやもはかられざるも、而も彼は、一宗敎の最も肝要たる素質たる――東洋精神に於ける、より大なる自我に於ての自我の悅ばしき拋棄たる――神秘說を欠きたりき。彼は帶に短銃を提げ鋭き手斧を携へたる、筋骨逞しく日に焦けたる顏を有する開拓者の先鋒なり。

我と共に進める彼はその後方に、平和と順路を殘し、その命などの分間に奪はるゝも、つゆ厭はず。

この熱情は活潑にして休みなく、常に新に出立せる章句に於けるあはたゞしき動搖と奔馳に依りて示されたり。その Leaves of Grass に在りては、美しく平靜なる章句を見出すは困難にして、之れを發見する折には又他の作に於けるよりも尙尊き性を含有せり。彼は歡喜の描出には明かに失敗せる作家にして、歡喜の衝動を精妙に感ぜんには、Towards Democracy に於て接するが如き、より受動的にして女性的なる感情の必要あるものなり。我

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

等は休息或は慰籍の爲に、この輝ける精力の焦點に來るべからず。

この主我論と熱情とは、遂に崇高なる豪膽の極致に達せり。我等が彼の Leaves of Grass の或る部を讀過する時に、我等は宇宙の大道を永遠に過ぎ去る猛き宇宙の開拓者なる偉人の群を望むが如き感を催すものなり。それに於ては拔群なる青年有り膂力ある少女有り赫灼たる猛き老人有りて――如何となればこゝには病弱なるは路傍に倒れ果てしと見ゆる感あり――彼等は無量の精勵と無量の歡樂を以て輝き渡れり。これ實に生の驚くべき擴張にして、この幻影の未熟にして巨大なる浪費はその證明をなすものなり。我等は直にその熱情ある活動に倦み、生の收縮と平靜と休息の爲に冀ふ。故に預言者自身さへも「凡の野鄙と終なき苦悶」に面しては、時として狐疑し緘口して、遂にはその靈感さへも一の幻想に過ぎざること、且墓場を超えての一致は又一の美しき寓話に過ぎざるを疑はざるに至れるは怪しむべきことならず。而して、玆に再び我等はこの疑惑の侵襲に會して、その Prayer of Columbus 中の信念の間に於てさへも、そこに悲哀の震へる悲愴なる音調あるを聞く。

而も尙ホイツトマンが此の疑惑の繩目を切るに常に用ゐる一の銳利なる刀あり。之れ實

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に愛の刀なりとす。彼は只愛及友情を攫まんとして、墓場を超えたる一致に對しては冷淡に傾く傾向あり。

「余の手を握る人は、全く余に滿足を與ふ」と。

彼は又遂に愛と友情——離すべからざるもの——は結局宗教より深く、ソクラテス、キリストよりも尙根底に立ち入れる、「凡の心理學に取りては根底たり終局のものたる」主要なる物なるを發見せり。健全なる見識を以て、彼は友人と戀人との密接なる肉體の愛の中に、最も普遍なる愛の根底を見出せり。

我はある日かゝる靜なる夏の朝、
如何に我等が横はりしかを思ふ、
而して如何に汝は汝の頭をわが腰に斜に定め、
靜にわが上に轉びしかを思ふ、
而してわが胸より襯衣を除き、
わが裸なる心臟に汝の唇をつけしかを心に留む、
而てし汝がわが髭を感じ、わが足を捉へしまで、伸ばせしを心に留む。

地の凡の論辯を超越せる平和と智識は、
汎に我をめぐりて起り擴がれり、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

然して我は神の手は我が望なるを知り、
神の靈は我が兄弟なるを知る、
然して嘗生れし凡の男も亦我が兄弟にして、
女は我が姉妹わが戀人なるを知る、
然して創造の底骨は愛なるを知る。

――未完――

榊　纓　譯

愛らしき蛇の女

—原田　琴—

この我れの戀人として足らはぬは女を多く君
知らぬこと

ゆるすまじき君をゆるしてあることを趣あり
と思ふならねど

たゞ七夜通ひしのみにわが心傾きにけりあは
れなるかな

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

娘いふあゝ父母よわれをしてまこと女の世に
おき給へ

歌もなきかたは娘とわれならばあはれ父母か
なしからすや

父母にそむきまつれる非人とはいまだ覺えず
逢引の夜も

わがまゝの心の中に忘れ居し昨日の君の浮び
出づるも

いつよりかかくわがまゝとなりにけん七日ば
かりも君は去り得ず

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あやうしと君のいふまですなほなる心となりて添臥してけり

われ君を厭ふといはゞ死ぬるやとたはけしことを聞きて寝しかな

とこしへに戀人としてわれあらん二人三人と爭ふもよし

たゞひとり闇にまぎれて逢ひにゆくこれをも弱き少女といふか

君をしも泣かせまつりし夕より蛇の女とうたはるゝ身ぞ

この憎き蛇の女をさいなむと君のいはぬがうらさびしけれ

かにかくに若ざかりこそうれしけれ蛇の女も謎の女も

世の前に何はゞからむ相乗りの馬車の上なるくちづけもよし

かなしくも蛇の女に抱かれていかなる夢を結び給へる

わが手もて君を殺さばいかばかりうれしからんとかねて思へる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とらはれしわれたをやめかとらへたる妖女か
いまだ思ひ知らねど
男をば憎し憎しと思ふより夜の白粉も怠らぬ
われ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀愛と結婚（承前）——エレン、ケイ著——

一　性的道德發展の過程

（つゞき）

一夫一婦制を性的道德唯一の標準、若しくは個人戀愛唯一の正しき形式と考へる人達の意味するものは現今法律によつて定められ、しかも慣習によつて欺かれた見かけ丈の一夫一婦制ではない。彼等は眞正の一夫一婦を意味する。即ち男子の全生涯を貫いて一女に、女子の全生涯を貫いて一男に接するのみで、それ以外のものには斷じて接しないことである。發展の途上に於て、彼等はひとりこの理想のみが漸次に實現するものと認める。彼等は發展の方向のまち〳〵な現代の傾向に於ては頽廢の外何ものも認めない。

且、人生に對する信仰を公言する人達は人類の理想を以て人間のより高き要求の表現と考へる。斯く人生の要求が、一般にもてはやされる理想によつて認可せられざる新形式を欲する場合には、曾ては發展の刺戟だつた理想がいつも却て妨害となる。超感覺的な、神來の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

理想を信ずる人のみひとり一切の自然と一切の時間に亘る確定せる理想を考へる。併し他方面に於て進化論は、我々が一口に人類と稱し、しかも實際に於ては殆ど動物界に於けるが如く種々に分類されてゐるありとあらゆる人間に、同じ理想が決して受け容れられてもゐないし、又受け容れられるものでもないことを我々に示してゐる。實際、進化論者は人生の種々相に其の價値の大半を見るが故に、人性は單純な信仰や、單純な慣習の法律や、單純な理想の下に片附けることの出來ないのを喜んでゐる。彼等は歷史的見解から時代を異にせる同國民に、若しくは人種誌上の見解から時代を同じうせる異國民に許されてゐる自由、即ち或範圍内に於て、性的生活に關して、それ〲自身の形式を撰擇するの自由を、時代と國とを同じうせる個人に向つて漸次に許容する爲めにこの道理は只それ丈で十分なものだと思つてゐる。そして彼等はなほさらさうすることを欲してゐる、何故なら個人間の地理上、氣候上、歷史上、及經濟上の相違は國民と時代との間のそれのやうに大きなものだから。從つて或人の要求や、發展に適當なものは其の他の人の要求や發展に必ずしも應ずるものではない。

一夫一婦制が國民の氣力と敎養に欠くべからざる性的生活の形式だといふことほど證據の不十分な議論は少ない。この主張は歷史や人種誌をまつまでもなく、上述の如き嚴密なる

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

定義によれる一夫一婦制は少數の個人を除いては基督敎國に於てさへまだ決して實現されてゐないといふ事實と、基督敎文明に迄歸せられてゐる一切の進步は實は一夫一婦制が法律でありながら、一夫多妻が習慣だつた時代に屬したといふことによつて十分反駁される。『節操と豪俠』の時代と修辭的に呼ばれてゐるかの北方に於ける異端の時代を通して、基督敎に基ける情的生活の一千年の長き敎化の後なる今日、社會を死滅の境に陷れるものと見做されてゐる是等の法律や習慣が榮えてゐたではないか。我々の道德より偉大に見える我等が優秀な祖先達の道德は總て禮義正しい婚姻の中に生れ、往々妻と妾とが同棲し、妻は自分から別れることが出來るといふやうなそんな、些細な理由で容易に離婚されるところの家庭の中に育てられたのだつた。加ふるに是等の祖先は時として、守護者が相思の男女の法律上の結婚を禁じた場合、廣野の中に家庭を發見した「自由戀愛」の子孫であつた。ガゾリック敎會が離婚の出來ない結婚制度を輸入したが人民は中世紀に於ける墮落から遁れることは出來なかつた。且又、誰れ一人として十八世紀の佛蘭西に一夫一婦制の道德が行はれたと信ずるものはないであらう。それにも係らず佛蘭西は經濟上、智力上、軍事上の勢力によつて歐洲歷史を決するに十分な、活動力を保持してゐた。又其戀愛上の「不德義」に反し、佛國民の心は立派な公德と仕事に堪へる力を兼ね具へたる健康と執着力とをな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は多分に所有する。

一夫一婦と離婚の出來ない結婚が國民の生存を決定するものだと主張しやうとする人達は過去の歴史と國民の現狀に對する無智か、然らざれば歐羅巴の白人は全人種の道德並びに信仰に對する標準の如く思はれてゐる偏見の背後に彼等の智識を隱蔽したからである。

なほ他方面に於て次のやうなことが證明される。國民の活動力は何はさておき、まづ第一にその國の婦人が生存に適する子供を產み、且養育するの能力と、好んでそれをなすや否やと、國民の生存を保護せむとする彼等の夫の能力と、好んでそれをなすや否やとにかゝり、第二に國民全體の仕事に對する愛好心と、國民自身に對する隆盛の成就と、一般人類に對する價値の成就に關する技倆如何とに、最後に一般の福利が要求するとき、自己の目的を犧牲にする個人の意志とにかゝるといふことである。更に證明されることは、若し國民が性的放逸によつて其精力を浪費するならば國民進步の必須條件として、記述したことを全うする上に屢々差支となり、從つて國民の衰亡を來すであらうといふことである。

と言つてこの議論には若し最も合理的な性的道德に關する新得の智識に從つて性的生活の形式を改めたならば、國民は滅亡するだらうといふやうな、そんな證據は一つも含んでやしないのだ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さて一夫一婦制は色々の原因から勝利を得たのだつたが、就中その利益上の經驗からだつた。即ち、女の爲めにする男の努力を極小にし、以て他の目的の爲めに力を節約したこと。子孫の爲めに働くべき刺戟を供給したこと。性的關係の中に貞節と柔和とを發達せしめ、以て婦人の位置を高めると共に、兒童敎養上の婦人の地位をも重くしたこと。子供と妻に對する夫の氣儘を防いだこと。家庭生活を通じて自制と協同の心を養ひ、相互に對することの二精神の必要が自他の親切を齎したこと等であつた。夫の權威は責任の感じと、保護の歡びとによつて高められ、妻の信賴は獻身と忠實とによつて高められた。後者は夫が所有に對する嫉妬についての恐怖と、自己の財產が實子に相續されることの確實性を希ふ夫の心と、異方人の血液の混交することを罪惡視する宗敎と、墓場の彼方まで續く共同生活に對する基督敎の希望と、發達するほど愛しさの情の深くなる二人が共有の子供とによつて强められた。斯くして一夫一婦制はなほ引續いて道德や心靈の上にこの敎化力を及ぼしてゐる。それ故に不完全な一夫一婦制の價値に於けるこの認許さへも、性的道德眞正の發展は獨り漸次に完成される一夫一婦制を通じてのみ達せられると斷言する人達に對し、これ以上のあらゆる證明を不必要なものにしたと思はれるかも知れない。併し彼等は基督敎の輸入以前から久しい慣習となつてゐた一夫一婦制は敎會が性的道德唯一の形式としてそれを規

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

定した時から眞正の性的道德に有益なものともなつたが、同時に又有害なものともなつたといふことを忘れてゐる。

そこで、思想上のありふれた惡戯から一夫一婦制のもとに起つた文化の驚くべき發展はもしこれが性的關係の唯一の正しい形式でなかつたなら不可能であつたらうといふ結論が惹き出された。斯くして一夫一婦制は一切のより高き文化の欠くべからざる要件として確定された。

今日益々頻繁に持上る道德上の論爭の意義は結婚と戀愛とに關する現實の性的道德に就いて比較的高き價値を詮議することにある。

人間は全きものとして造られながら、一たび墮落して以來靈肉間に不斷の爭鬪を繼續するに至つたと自から信じてゐた間は、基督敎的道德理想の絶對價値に就いて何等の疑を起すことも出來なかつた。この理想に到達すべく一番骨折つた人達でさへ、又この爭鬪に打勝つた人達でさへ、肉が靈を征服した限りに於て自分は罪人だと自白した。ところが靈が肉を征服する時も亦罪を犯すことでありはすまいかと訝る勇氣と、もしや結婚が人類の爲めに人類が結婚の爲めに存在しはしなかつたかと自問する勇氣と、人種發展に最も都合よき性的慣習に關して現代は更に普通的經驗をなすの權利ありと主張する勇氣とを始めて人間に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

與へたのが即ち進化論なのであつた。何故なら是等の人々にとつて結婚の觀念は人種發展の促進以外他に何ものもないのだから。併し宗敎や法律が確に正當な慣習として、たつた一つの慣習を規定し、そして他のあらゆる慣習は——お構なしに實行すればすぐ——非難され、妨害されながら、一方では一夫一婦制の理想に反する秘密の罪過が許されてゐる限りは普遍的經驗も得られはしない。この理想の是認がそれを實現せむとする多くの人達を刺戟したことは否定し得ない。實に僞善なるものがこの理想を價値づける上に間接の貢献をした。併しこの理想の不變性は今や進化を繼續することが危くなつて來た。

——未完——

らいてう譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四月號豫告

櫻の園—戯曲—……アントン、チエホフ 瀬沼夏葉譯
ホイツトマン論……エリス 榊櫻譯
發—小説—……杉本まさな
題未定—小説—……藤岡一枝
短歌……三ケ島葭
同……原阿佐緒
この頃の感想……伊藤野枝
題未定—小説—……小笠原貞
新しき幸多き國へ—小説—……シエンキウツチ 增田初譯
ながれ—小説—……小林哥津
一年間……らいてう
戀愛と結婚……エレンケー らいてう譯

附錄

新しき女を論ず……長田長江

編輯室より

□早くから世間で色んな間違つた噂を立てられてゐた本社の第一回公開講演會は去る二月十五日の土曜日に青年會館で開かれました。本社創立の際、春秋二季に講演會を開いて先生方の御講話を乞ふといふやうに規定してはありましたが、今日まで其運びに至らなかつたのでした。

社員の白雨氏は開會の辭にかへて本社の精神と其事業と、將來の目的とを述べ、あはせて來る四月七日から開始する青鞜社研究會のことを發表しました。新進音樂家の澤田柳吉氏の來られるのが遲かつたので、とうどうラプログラムは變更して、社員中の最年少者の伊藤野枝氏が幼稚な、けれど眞面目な自己の感想をこの頃の感想といふ題の下で話しました。次に阿部次郎氏の「或る女の話」といふ題で御話のある筈の處を當日御風氣のため、御出席頂きながら、御話を伺ふことの出來なかつたのは大變殘念なことでした。

□それでプログラムは又變更して生田長江氏の「新しき女を論ず」、次に岩野泡鳴氏の「男のする要求」、（本號附錄參照）次に澤田氏等の音樂がありました。同氏は渡歐間際の御忙しい中を特に御都合の上御出下さつたのでした。次に馬場孤蝶氏の「婦人の爲めに」最後に社員岩野清氏の「思想上の獨立と經濟上の獨立」（附者共附錄參照）があつて、らいてう氏のいつもながらの低聲な閉會の挨拶に一千の群集が會場を出たのは午後五時半頃でした。

□同人等はこの會に對する世評の如何はしばらくおき、始めにかういふ一の催しをしたことによつて、今迄知らなかつた經驗を得たことと聽講されたれ多數の婦人の中の一人でも、二人でも眞に女を思ひ自己を思ふ人に何かの暗示を與へ今迄氣づかすにゐたところのことを考へさせることが出來たことで滿足して居ります。

□二十三日の山路愛山氏のひとり言を拜見して、私の尤も驚かされた事は、新聞記者中の思想家として重きをなしてゐる氏が、青鞜社員（殊に中心人物）に對して其中の一人すらも知らずに、其婦人達の內面生活も知らずに、只女學世界や婦人畫報の讀者や女子文壇の投書家のやうな箱入娘さんの集りのやうに獨斷してゐるが私は飽たりなく思ふ。

□女學生などが親の世話になりながら男子の壓制を罵り、社會の制裁を呪詛し、獨り自ら縱ならんとするは自語相違なり。とお書きになつたけれど、これは聊見當違ひでもし青鞜社の係員の一人をでもお知りになつてゐられたら過言の罪をお感じになつたらうと思ふ。青鞜社の係員の人の多數は結婚者にしても獨自の職業を持つてゐる人であるし、お孃さんにしても各自の事業を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

持つてゐる人達である。

□平塚明子さんは青鞜社の首腦で、思想と事業とを發展させつゝある人である。保持研子さんは茅ケ崎の某病院に於て事務を持つてゐて經濟上の獨立をしてゐる。荒木郁子さんは數年前から旅館の女主人として經營し今も現に三崎町で其職業の采配をふつてゐる中野初子さんも書肆の女主人として老父母及弟妹を世話してゐられる。小林勝子さんは家庭では母堂の死後すべて主婦の役目を引受けて、父君を内助してゐられる。伊藤野枝さんにしろ、私にしろ社會に於て懶惰なる邪魔者ではなく相當に事業をもつて個人としてのはたらきをしてゐる。

□然し勿論私達は一雜誌の編輯や經營位で滿足してはゐない。私達の希望はこの位の事を大事業だと思つて滿足はしてゐない。只私は山路愛山氏の青鞜社員が世間一般の女學生のおもちや的遊戲的の集まりだと斷定なすつた反證をあげたに過ぎない。

□然しこんな辨駁らしい事を云ふよりも私達にはもつと大きな問題がある。私達は徒に男子の壓制を叫ぶよりも自己の内心の充實偽らざる生活、囚はれざる思想の發育に對して不斷の努力を費ひやしてゐる。

□思想の獨立自由を守るために、物質上に於ける(經濟上)も獨立を必要條件とする事は此間の講演の時に業に已に述べて置いた通りで、今更愛山氏の御注意をあふぐまでもなく萬々承知の事である。

□然し假令親がゝりの身にもせよ、思想の獨立であるべきことを不條理だとは理論上云へない話ではあるまいか。もし愛山氏の云ふ樣な論旨か立つとすれば、經濟上に於て弱者である文學家等には自己の思想を主張する資格もないと云はれる事になりはしまいか。

□女は男に養なはれる故に女は男に頭が上らないのが當然だと云へば。官吏や會社新聞社其他のものに雇はれてゐる男子も亦其上長官又は資本家に對して頭が上らない筈ではないか。個人としての權利もないと云ふことになりはすまいか。

□婦人が男子の得る金錢の消費者を以て滿足してゐたのは舊い女である。長袖寛春日を徒爾に過ごした者は舊日本の女である。私達は小さくとも生きやうと努力してゐる者である。生きるとは精神上ばかりを意味するのではない。私達は偽らざる生活を欲してゐる。同時に家庭に於ても道具になつてはゐられない。自ら生産し自ら消費する一個の生きたる人でありたい。あらう。と思てゐる。只良人や親から與へられた金錢で好い着物を着、芝居や遊山にあるくやうなねむつた生活は望まない。

□私達は一般の箱入娘のやうに、箱入奥樣のやうに、將又無意味に嫁入仕度のために勤めをしてゐる娘さん達とは違つた要求を自己に對して有つてゐる。私達は社會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に對してよりより多く自己に要求してゐる。

□私達の相手にしたいのは親がゝりの女學生ではない。人生に對して理解のない一般新聞記者等でもない。主張と實力とを持つた一人前の婦人達である。

□淸教徒の婦人達は狹い意味の思想の自由をもつてゐた。然し彼女達は何して經濟上に獨立してゐたか？。私達は生活上に於てすべて城主の力を仰いでゐた當時の婦人達がもし城主から別れ、眞人なら親から別れてまでも自己の信仰を立て通す勇氣と實力があつたかを疑ふ。

□私達は生活上からの壓迫の爲めに思想をまげはしない。親にしろ眞人にしろ自分の思想と相容れない場合が萬一出來すれば少なる情實は思想のために犧牲にするであらう。否するに極まつてゐる。

□情にもろく、戀に弱きは、あながち婦人に限つた事ではない。誰れか戀に弱くない者があらう。若し戀に無關心なものがあればそれは生きた人間ではない。誰れか情にもろくない者があらう。惻隱の情は人間の情である。こんな情がないものは生きた人間ではない。只それに克己心があるか弱いかの程度があるばかりである。然も情にもろき人は必ずしも弱者とは限らない。戀に弱きもの必ずしも弱者ではない。ナポレオン、秀吉淸盛、昔の英雄すでに情にもろく戀に弱かつた。必ずしも女性には限らない。否情にもろく、戀に弱き人にして始めて、眞の人生を解し、人生に生きたる人である。

□現代の新人は、昔の人の如く無意義に世間に引づられて行つたのに反して自己に忠實なのである。自己から解釋して世間を引づッて行くのである。

□新聞記者諸子はよく新らしい女が内容が貧弱だと云ふ。然し貧弱にしろ幼稚にしろ世間に引づられて、世間の口吻をまねて淺薄な斷定をする記者諸子よりはまだたしかではないか。

□此間の講演會の記事を見ても分る。人生が孤獨だ。と云ふ說を述べた伊藤野枝氏の事でも一口に内容がないとけなした。然し十七八の若年婦人が人生を孤獨だと感じた事が思想としてどうであるとかと云ふのならまだしも始めから内容が貧弱だと單純に打けして茶化してしまうとするは記者諸子の思想に就て理解のないのを表白してゐる書き方だ。私の云つた經濟上の獨立に對してもあぶなつかしいと心配して下すつたが、私はあの時、國家經濟論をしたのではない。一個人の私經濟に對して自分自身が生きて行かれる用意をして頂きたいと云つたのである。それを經濟論ときくのは聞く方がひが目である。政治論も私はした覺えはない。只治安警察法第五條（或新聞記者は保安條例とかいた）に斯う云ふ條文があると云つたゞけだつた。新聞記者諸子は法律に書いてあることだから政治論だと早がてんしたらしい。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

□今の新聞記者諸子の多くはかう云ふ早がてんが多い。情死があればすぐ痴情のはてときめる。自殺者があれば薄志弱行ときめる。富豪が名譽欲しさに金を寄付すれば慈善家と稱贊する。善と惡とが截然と分たれるものだと斷定してしまつてゐる。然し實世間はさう單純なものでない。善行の裏に醜行があり。醜行の裏に善行がないともかぎらない。英雄にも弱點がある。愚者にも一得がある。かくて人生が複雜なのである。

□笑へばうれしいのだと思ひ、泣けば悲しいのだと思ふのは今の新聞記者諸子の筆法である。笑の裡に涙あり、涙の裡によろこびのあるのは記者諸子は認めないのである。

□私はかう云ふ風に淡泊に人生の解釋を下したくない。表面だけを見て斷定を下したくない。人事に就てもつと眞面目に考へて後判斷を下したい。人事に就てもつと敬虔に研究して後批判してみたい。少なくとも愛山氏一般新聞記者諸子のやうな早がてんや獨斷家にはなりたくないと思ふ。（岩野清）

□婦人が自己を開發していく上に何の機關もなく、何の便宜も與へられてゐない今日、私共は手を束ねて其期の來るのを待つて居ることは出來ません。婦人みづからが自分で自分を教育するために何等かの道を開き、方法を講じなければなりません。この要求に應するために今迄いたして居りました研究會を擴張して社員を始め一般婦人のために開放することにいたしました。

□本社がこれからして行かねばならぬ仕事は誠に澤山ございます。けれど何はさておき、まづ第一になさねばならぬことは今の場合對社會問題よりも各個人を教育することだらうと思ひます。個人、個人として立派な人間であり、女であらねばならぬと、信じます。

□今度研究會を始めますのもかういふ考に出たことの一つでございます。在京の社員は勿論、其他の御婦人も此の催しに賛成下さいまして一人でも多くご御出席下さいますやうにお願ひ致します。

□在京社員はかう云ふ研究會によつても益々自己を開拓して行くことが出來ませうが倚地方社員のためにも本社は特に其便宜を計つてこゝに研究會の講演を速記し（青鞜社研究會文藝講義錄）の名のもとに講義錄を發行することになりました。委しいことは次號で發表したします。

□今度青鞜社入社規則を改めました。入社希望の人は、住所姓名年齡の外に履歴の大體と現在の境遇と入社の動機と本社に對する見解とを知らせて下さい。そして入社のときは十枚以上の原稿を（小說戲曲、感想、詩歌、評論、飜譯）必ずお添へ下さい。

□本社に送られた原稿は採否を問はず一切御返送しませぬから御承知おき下さい。

□新入社員　淺野友、高田眞琴

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

□生田長江先生の講演會の速記はまにあひませんでしたので次號にまわしました。

□増田初氏の翻譯も頁數の都合で次號にまわすことに致しました。

□エレン、ケイの戀愛と結婚の誤譯を御親切に一々御教へ下さつた無名氏に深く御禮いたします。今後も御氣付きの處を指摘して頂ければどんなに滿足に思ふことでせう。御姓名も御住所も分りませんからここで一言御禮を申上げます。（らいてう）

□かれて豫告してありました青鞜小說集第一編は小笠原さんの裝訂で美しく出來上りました。いよ〳〵三月上旬から東雲堂で賣り出すことになりました。

定價八十錢

□此度の講演會について社員の方々がいろ〳〵とお働き下さいましたことを有難く御禮を申上げます。まことにすみませむが計算上の都合がありますから過日お願ひ致しました切符の賣上高を至急事務所宛に御送金頂きたうございます。

□青鞜社も來る四月から第二の發展を見るやうになつたので、一つには內部に於ける事務の繁鎖をさける爲に又此事業を社會上に確證する爲に責任分擔の必要が起つて參りました、で白雨もいよ〳〵四月から東京の人となつて青鞜社の事業に關する事務一切の責任を持つことになりました。無論研究會及講義錄は白雨の責任なのです。らいてうの責任は雜誌青鞜の編輯事務に決定しました。

□青鞜社研究會文藝講義錄もいよ〳〵來る五月から、出すことに決定いたしました。

□次のやうな催の起つた事を同人は同情と贊成とを以つてこゝに御紹介いたしておきます。

□自由講座は自由な精神と自由な方法を以て新しい文を研究する所であります。

□自由講座は主として西洋近代の思潮を紹介し、解說し批評します我我は我々自身の文藝を所有せねばならぬ日本人であると云ふ自覺の立場からする事は云ふまでもありません。

□自由講座の講義の範圍は、最も進みたる輓近の哲學小說、戲曲、詩、その他の文學、繪畫、彫刻、音樂、及び文藝と交渉する程度に於て建築、その他の科學等にも亘つて、苟くも我々の生活內容を豐富になし得る限りのものをば、極めて眞面目に、極めて懇篤に、併しながら極めて自由に研究いたします。

□自由講座は文藝に興味を有つ人ならば、誰れでも聽講者となられます。學生でも學生でない人でも、男でも、女でも、それは我々の區別する所ではありません我々は熱心なる文藝の愛好者、忠實なる人生の研究者を多く會員に有たんことを希望します。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

講師
生田　長江氏　馬場　孤蝶氏　戸川　秋骨氏
高村光太郎氏　中澤　臨川氏　夏目　漱石氏
內田　魯庵氏　野上　白川氏　山崎　樂堂氏
安倍　能成氏　阿部　次郎氏　齋藤　與里氏
木下杢太郎氏　島崎　藤村氏　廣瀬　哲士氏
森　鷗外氏　森田　草平氏　鈴木三重吉氏

□自由講座　の講義は、三月より開始。毎週二日（火曜日及び土曜日）、午後五時より八時までといたします。

□自由講座　は會場は本郷區弓町一丁目本郷教會

□自由講座　の聽講料は、一ヶ月金壹圓として、會員には一ヶ月間有効の聽講券を配布します。聽講者は聽講券所持者に限ります。

□自由講座　入會希望者は、端書に『自由講座入會希望』と記し、住所姓名を明記した上、事務所へ申し込んで下さい。　東京市淺草區三間町八番地村上靜人方

自由講座事務所

小林の畫家

□小林德三郎の畫をほしがつて居る方がだいぶあるので小林にウント安くさして賣ることにしたのです。

□その畫は八號の油畫（額縁がついて居ます）で三十枚を限ります。

□御望みの方は一枚の畫について毎月壹圓づゝの拂込を十二ヶ月つゞけて下さればいゝのです。

□申込期限は二月一日から三月末日まで、申込は奇蹟發行所宛（東京市麻布區材木町六十九、電話芝二二五八番）、最初の壹圓を添へて申込で下さい。

□畫は申込順で六月末日までに差上げます。

□御預けする畫その他の小林の作品をまとめて六月迄に展覽會をいたします。

『奇蹟』同人

□寄贈雜誌及書籍

早稻田文學　白樺　新潮　スバル
聖盃　帝國文學　中央公論　現代の洋畫
フユウザン　心の花　黑燿　朱欒
モザイク　黑猫　抒情詩　雄辯
きたゐら　詩歌　ホトトギス　奇蹟
藝文　歌舞伎　層雲　天眞
智仁勇　みづゑ　シャルル　微光
女子文壇　婦人世界　少女　近代思潮
人物　ル、イア　新人　肉上
俳味　新女界　六合雜誌　歡

The Pilgrimage. By Yone Noguchi.
（次號に榊氏がくわしく御紹介致します）

死の勝利―ダンヌチオ―生田長江氏譯　新潮社發行

高臺より　本間久雄氏著　（現代文藝叢書第二十一編）

桐の花　抒情歌集　北原白秋氏著　東雲堂發行

桐の花とカステラ、聲の思、植物園小品、感覺の小函、白猫、ふさぎの蟲等六篇の小品と、銀笛哀慕調、初夏晩春、薄明の時、雨のあさき、秋思五章、春を待つ間、白き露、悲哀傷篇等の抒情歌をもり上げた、瀟洒の相の花の様な、やさしくしい考じのする美しい本でムいます。手ざわりの柔かな紙の上に、うつすらと みがきあげたその挿畫もプリミチーブな面白いもので、匂ひの高い氏の歌風には大變ふさわしいものでムいます。

（歌津）

附錄

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

思想の獨立と經濟上の獨立（大要）——岩野　清——

唯今御歴々の先生方の御演說の後で私のやうな者が此演壇に立ちますのは、何だか氣耻かしいやうな心持が致しますが、暫く三十分ばかりの間御淸聽を願いたいと存じます、私の申上げたいことは思想の獨立と經濟の獨立、これに付て私が見て參りました明治末年から今日に至りました婦人の思想の經過をちよつと申上げたいと存じます。明治三十八九年頃までの我國の婦人は、思想の上に何の自覺もなく、只因習と古い道德とを守つて赤兒の樣に無智でありました。歐米の婦人が男女同權を主張すれば、定見もなくそれに雷動したり、又男子側から婦人は種族保存のために家庭の犧牲になるものだと云へば又直に何の考へることもせずにそれに從つて見たり傀儡師によつて自由に動く人形のやうな魂のないものでございました。

丁度其當時私が婦人の覺醒をうながしたいために、いわれなく制限されてゐる法律上の禁制をとく請願を議會に提出した事がございました。これは單に日本婦人の社會上の地位

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を高めたいと思つたばかりではございません。一面には婦人も亦國家の一員として法律或は政治の方面にも理解と智識とを持つて頂きたい。家庭の外にある人生や社會にも目をはなつて頂きたいと思つて致した事でございました。

然し其結果はどうでございましたらう。一部の頑迷な男子を除いては、至極相當な要求であると進で御賛成下すつたのに、婦人側の方ではむしろ出すぎた仕方だと冷笑した方が多かつたのでした。或はさうまでは思はないにしても、婦人として社會上の事に吻を入れて徒に男子から惡まれては、自分の男子に賴つて生活しようとする方便上都合が惡くなるから、おとなしくしてゐる方が益だと云ふさもしい打算的な考へからわざと遠慮してゐる樣な婦人もありました。かうして婦人が眠つてゐる間に、男子の方では思想の革命が起つて參りました。新らしい文壇の一團から起つた自然主義派の運動がそれでございました。勸善懲惡一點ばりの型に入つた小說、實生活に何の交涉もない遊戲文學にあきたりなくなつて眞の藝術と云ふものは人生其者でなければならないものだと云ふ主張の下に、今迄の古い道德、宗敎、さう云つたものゝ覊絆から脫した新らしい文學が起つたのでございます、かうして人生の見方が變つて參つたと同時に、家庭に對しても婦人に對してもこれらの男子側の要求は變つて參りました。只從順に平凡に衣食住及子供のお守りをして日を送り日

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を迎へてゐる婦人を自分の妻として尊敬してゐる事が出來なくなつたのでございます。形式的な家庭の生活にあきたりなくなつたのでございます。男子の側ではかうして魂のない**生人形に、無智な奴隷の樣な婦人に物足りなくなつて人間らしい生々した婦人を要求する**やうになつたのに、婦人側では不相變長夜の眠りからさめなかつたのでございます。時代の推移も知らず思想界の革命も知らず、新時代の男子は何を婦人に要求してゐるのかも知らず、依然服從と習慣とを唯一の信條としてのどかな夢をむさぼつてゐたのでございます。

かうして男性は、自分の伴侶としてゐる妻或は母親たちの人生に對して無理解な點から遂に家庭を無視したり、刺激を他に求めたりするやうになりました。同時にすべての家庭に新に思想の衝突から起る波瀾が生じました。太平の眠りをむさぼつてゐた婦人達は此時どういたしましたらう。周章狼狽して愚痴をこぼしたり、徒に男子をせめたりいたしました。然し只それだけでございました。進で人生に對する眼を開かうともしなければ、男性の要求のある所も考へてみることも致しませんでした。此古い婦人達に最後の解決は、こそくな、自己を僞つたあきらめに過ぎませんでした。いくら男性から刺激されてもまだ自己と云ふものにさめませんでした。比較的人生に目を向けてゐる婦人文學家でさへも只時

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

代の潮流に從つて筆を變へて行つたに過ぎなかつたので、其根底はやはり人生に對しても自己に對しても型を脫しきれなかつたのでございます。

然しかうした神經遲鈍な我婦人界も永い周圍の刺激によつて遂に一部少壯婦人の間に覺醒されて參りました。

それは明治四十四年秋起つた青鞜社の文藝發表の一團でございます。

その當時私は大阪にをりまして平塚明子さんから其御通知を受けたのでございました。私は其時いよ〳〵婦人はさめた。眞の魂のはいつた婦人が生れたとうれしく感じたのでございます。で私はすぐ御賛成申すと同時に入社したのでございました。

小さいながらも、自分の目で人生を見、自分の頭腦で人生を解釋し、自分の手で自己の道を開いて行かうとする少壯婦人方の努力と勇氣とを衷心から喜んだのでございます。五六年間私達二三の同志と婦人界覺醒のためにした努力の徒勞に歸したのを殘念に思つてをりました私は、五六年後になつて思ひもよらず此少壯婦人の間からかうした團體が生れたのは、私達の運動と形式は違ふにしても、結局自分の徒勞を償ふ後繼者を得たと同樣の結果を得ることでございますから、丁度一度失つたものを取りかへしたと同じうれしさを感じたのでございます。

此新らしく生れた青鞜社の團體は、昔の私達の同志の運動の樣に一足飛に實世間の法律や政治上に關した問題でなく、內部生活の思想の上から根底の覺醒によつて婦人を進步向上させようとするだけ中々一朝一夕に花々しい効果を見ることは出來ませんけれども、又それだけどだいも堅固なのでございます。

勿論、私達青鞜社の人々に致しましても、世間に對して、人生に對してまだ經驗も淺さうでございますし、智識の上から申しましても素養の足りない所もございます。私達は今後ます〳〵すべての方面に努力精進いたしまして眞の生きた婦人になりたいと思ふのでございます。それに就きまして色々計畫もございます。がこれは後刻平塚さんから申上る筈でございますから私はそのお話はくはしく申上げません。

とにかく私達は漸く人生に近づく一歩を踏み出しました。婦人にも思想の自由と、獨立とを享有する權利があると悟つて各自自分の人生を作つて生きて行かうと存じてをります。然しそれと同時に周圍の壓迫が起つて參ります、私達はそれと戰はなければなりません。物質上にも精神上にも私達は非常な苦悶と戰かはなければなりません。自分の思想を實行しようと致しますのにはすべての方面に自分自身獨立の立場を堅めて置かなければなりませぬ。それでなければ、よし思想だけいかに獨立いたしましても實行が出來ないこと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

になります。生活のために餘儀なく妥協しなければならなくなります。そこで經濟上の獨立が必要になつて參るのでございます。今迄の婦人が思想と生活と一致しなかつた所以も此經濟上から來る壓迫に餘儀なくされた爲めもあるのでございます。萬一思想の獨立をさまたげられるやうな場合が起りましても個人として獨りで生きて行かれない行く用意がない婦人は男子や親に賴つてゐるより外に致し方がない。さうなればいや〳〵ながら其人々のために多少の讓歩しなければなりますまい。さうなれば其思想は一部破壞されたのでございます。生活と思想とが別物になつてしまつてしまふのでございます。

「人生はパンのみにて生きるものに非ず」とはよく云ふ諺でございますが、私は反對に人生は思想のみにて生きるものに非ずと云ふことを申したいのでございます。思想即ち生活である以上は婦人として思想の獨立を認めると同時に生きて行くに必要なパンを得る力、即經濟上に獨立する力をも用意して行かなければ、思想の獨立を守る權威も立てゝ行かれないと存じます。男子でも往々經濟上の壓迫のために自分の思想にともなわないことを餘儀なくされる場合も實世間でよくみることでございます。まして男子によつて生活してゐる多くの婦人達には尙更らのことでございます。で私は思想の自由を獨立とを認めて周圍に壓迫されずに自分の道を步いて行かうとする婦人方に、自分一個でも生きて行くことの出

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

來る用意、經濟上の獨立の出來る用意の覺悟をして頂きたいと思ふのでございます。さうして始めて眞に自由な獨立した一個人としての資格、眞の婦人としての資格と權威がそなはるのでございます。

私が今度女優になることに決心いたしましたのも、藝術によつて生きて行かうとするのと同時に、自分一個の生活を自分の力で立てゝ行かうとする經濟上の獨立を實行するためでもあるのでございます。

私の表題はかゝげました意味はこれで大方つきたと存じますからこれで失禮いたします。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

男子からする要求 ——岩野泡鳴——

唯今生田君の〇〇演説やら社會問題やらの御話がございました。其上私が此演壇に立つて見ますと、婦人方よりも男子方の方が多いやうに見受けます。然し私は婦人方の爲に御話をしやうと思つて演題を出して置きましたから、其積りでやりますから、どうか宜しく〳〵。

私の友人に、大學を出た人がございますが、それが或時細君を貰ひました。却々美人で、高等女學校も出たと云ふし、相當に御金も在つて、却々良い細君でございました。所が、私どもが遊びに行く度毎に、或は其友人が家で觀察してゐる中に、へんなことを發見したのです。と云ふのは、どう云ふことかと云ふと、學校も出た人ですから、勉强もしたからうと云ふので書物も買つてやり、又机も買つてやつたが、一向讀んだことがない。勉强は嫌ひんだらうといふことが第一にわかりました。勉强が嫌いならば裁縫でもやるだらうと豫期してゐました所が、或時氣が付いて見たら、裁縫をして居ながらコックリ〳〵やるのです。是は今日は疲れて居るのだらうと其儘に置きますと、翌日も其通り、又翌々日も其通

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りやるのです。是はいけませぬ。それから餘程氣を付けて觀察を續けましたが、或時自分の物を洗濯してゐる所を見ました所が、其洗濯盥にかぢり付いた儘、矢張りコックリ〳〵やつてゐる。餘程可笑しいと考へた。所が、今度は食事をしてゐながら、箸を持つたまゝ、矢張りコックリ〳〵やつてゐる。其次は、また驚いたことには、井戸端にゐて水を汲んでゐる時、音がしないと思ふと、車井戸のくさりを握つたまゝ矢張りコックリ〳〵やつてゐる。これは餘ほどあぶなかッかしい藝當でございます。が、これには友人も大いに閉口致しまして、到底親類會議の結果、一言もなく離婚を致しました。

斯う云ふ婦人は珍らしい婦人であります。滿堂の諸君の間には無論ある筈はないでしようが、兎に角、日本始つて以來餘りない、新しい婦人だと思ひます。所で、斯う云ふ人の心理狀態と云ふものを考へて見るに、或は病氣であつたかも知れない。斯う云ふ同情の方面から見て、氣の毒な病氣を治してやれは宜いのにと云ふ考が後から起らないでもなかつたのです。所が、病氣でないと云ふことが分つた。それでは、マア、婦人に有勝ちの姙娠ではないかと云ふことになつた。友人は其積りでゐないでもなかつた。と云ふのは、一般の協議上の離婚をする時の條件として、若し離婚前の姙娠があつたら、生れた子はその父なる方で引き取ると云ふ約束はしてあつたからです。然し姙娠でもなかつた。斯う云ふこ

とになりますと、結局、どう云ふ譯であつたかと云ふと、一般的觀察から行けば、奮發心がない、云ひかへれば甲斐性なし、斯う云ふことに歸するやうに思ひます。奮發心がない甲斐性がないと云ふには、食ひ過ぎが原因であることもあります。下女などに能くありますが、食過ぎをした結果、隨分座睡ばかりする人間があります。詰り、胃を惡くしたのではないか、胃袋をつゞけざまに擴張してゐたのではないかと、かう云ふ方面からも觀察をやつて見ましたが、どうもたゞ食過ぎと云ふことばかりでもなかつたやうです。無論食ひ過ぎは婦人ばかりに限らず、誰にでもまゝあることで――たとへば、婦人が音樂會や演說會に行つて欠伸をしてゐるのを往々見受けますが――今日の演說會には、無論、ある筈はないのですが――是は非常に食ひしんぼうな性質とか、姙娠してゐる狀態とかを、最も下劣な仕方を以つて公衆の前に發表するわけになります。

が、この去られた婦人はそんな表面的な病氣ではなく、もツと根本的に、詰り言へば、お話にならないほど甲斐性なしであつたのでございます。斯う云ふ人は却つて大膽なものです。離婚されようが、どうせられようが、どうでも構はぬと云ふほどに甲斐性がないのでしよう。結局、甲斐性なしの大膽、無智の大膽、斯う云ふやうなわけになります。斯う云ふ情けない大膽ものが、――云ひ換れば、太古の民の如き耻知らずのものが、日本人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の間に多くなれば困りますが、幸にも、日本には少ないと云ふのは結構なことです。諸君、又諸君の御家族にも、斯う云ふゐねむり女とでも命名すべき藝當者はないだらうと思ひますが、此問題を一つ僅かでも進めまして考へて御覽なさい。今日は婦人が主になつての演説ですから、婦人で申しますが、一般の婦人と云ふものが、特に婦人として考へてゐなければならぬことを考へてゐる人がどれだけありませうか？尤も諸君がさうだと定めて言ふのではありませぬが、一般婦人に對してどう諸君が觀察なさるでせうか？詰り、眞に夫婦と云ふものゝ關係を考へて見たことはあるか？又家庭と云ふ問題を眞に考へて見たことがある？又社會と云ふものを婦人と關係させて考へて見たことがあるか？モ一歩進めて、人生などゝ云ふ問題を考へて見た婦人があるか？斯う云ふことを考へて御覽なさい。

この演説會に關してちよつと聞いたことですが、或男子は自分は聽きに行きたいが、自分の女房を連れて行くことは厭だ。どう云ふ譯かと云ふと、斯う云ふ演説會に來ると自分の女房がお轉婆になる。男子に反抗するやうなことをおぼえて來る。さうすると、女房が御し難くなつて、却て家が面倒臭くなるばかりだ。だから、連れて行つてやらない方が宜いと云ふのであります。これは婦人と云ふものを男子が馬鹿にすることを能く代表してゐる話でありますが、斯う云ふことで實際、婦人が滿足してゐられるますか？順序として、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

今の時代から說明致しますが、是からずん〳〵進步して行く日本です。今日の時代はどう云ふ工合になつてゐるかと云ふと、最も必要なるものは自己と云ふものゝ反省であります、研究であります、建設であります。自己として自分と云ふものがボンヤリしてゐられない。十分におのれを顧みて、其他位や關係が――婦人でも、男子でも――どうなつてゐるかと云ふことを頭腦に入れて置く必要が出來たのです。自己を反省するには自己の研究も必要です。自己と云ふものゝ研究、個人と云ふものゝ研究が必要です。モ一步進めば、其研究即ち反省の結果、自己と云ふものをこの思想上、實際上の現實界に新らたに立てること、建設すること、斯う云ふことが必要になつて來ました。個人の反省。個人の研究。個人の建設と、斯う云ふことは無論私どもも大分叫びました。またその叫びを實行致して來ました。斯う云ふことは國家と云ふ問題を考へるにしても必要なことで――個人と云ふものが確乎りと覺醒してゐなければ、國家と云ふものも矢張今日の如く生存競爭が烈しくなつた時代では、あぶなつかしくなつて、存立しない譯になつて來ます。

かう云ふことが多少でも實際に理解出來たものは新見識、新思想を有する人々です。男子間にはそれが大分出來て來ました。日露戰爭の起りかけからして今日に至るまでに、旣に此日本の思想界と云ふものは大分變動致しました。さうして男子間には大分この新見を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

標榜することが出來て來ました。又新見を實行する人も出來て來ました。唯かう漠然と言つても分かりませぬ、細かく説明致しますと、自然主義と云ふものが出來ました。自然主義と云ふものは、世間一般の凡俗な新聞記者や――無論、非凡な記者もあるのは拒みませんが――それから、それに誤まられた世の教育家や父兄連中が考へてるやうな恐ろしいものではありませぬ。この主義の爲めに人間の精神と云ふものが覺醒して來たのであります。これの藝術に於て目を醒したのが新藝術となつて現はれて來ました。又、この自然主義が他の方面に行つて新しい人生觀と云ふものが出來て參りました。自然主義ばかりには限りませぬ。其前からいろ〳〵の方面の問題になつてゐる社會主義と云ふものがあります。唯一概に社會主義は恐しいものであると云ふやうに政府がはの人々は考へてゐるやうですが、それは最も極端のものを以つて社會主義の全般を強いたわけであります。社會主義にもいろ〳〵あります。この頃新政黨が生れやうとしてゐますが、それがこの主義の穩和な方面を態々採用して國家社會主義として採用するさうです。兎に角、社會主義はおもに勞働者の個人的覺醒を促す方面にあせつてゐるに反し、自然主義の人生觀はもつと廣い意味があります。人類として、人間としての自己覺醒を促したのです。

斯う云ふことは皆自己と云ふものが醒めて來た結果です。個人としての覺醒が出來て來

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た結果でございます。グータラなる腫れぼつたいやうな眠りに安んじてゐた人間が本統にその自己と云ふものが分つて、初めて醒めて來た。この思潮、この傾向がおのづから國民一般にも影響して、多少でも政治界に醒めて來たのが今回の政變に於て現はれて來ました。尤も今の政治界の醒め方は、自然主義の藝術観とか人生観とか、社會主義の勞働観とか云ふほどに深いのではない。ほんの上ッつらな、單純な、月並み的ではあるが、兎に角、藩閥打破とか、憲政擁護とか云ふことが、あり來たりの妥協で終つてしまうのを好まない代議士や人民が出來たと云ふのは目が醒めて來た結果と言はなければならぬ。かう云ふことが婦人の世界にするでしようか？何も廣い問題、大きな事件に關してとは伺ひませんが、たとへば、家庭とか、今日の凡俗的な女子敎育――賢母良妻などと申して、實際は愚母惡妻を製造する敎育に對して、婦人の反抗することと覺醒すべきことがないでしようか？若し無いとすれば、その婦人は眠つてゐるのであります。私は最初に長たらしくねむり女の話を致しましたが、あれはただ一婦人の愚を指摘したばかりではありません。現今の凡俗な女子敎育、俗臭たッぷりの家庭的習慣に滿足してゐる婦人は、すべて精神的にあのねむり女と同一であります。

速かに覺める必要があります。が、その覺醒がほんの上ッつら外面的では困る。たとへ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ば、政治界にしても、覺醒その物は分らないで、覺醒の傾向をただ利用するだけで、根底に於て醒めたとは言へない、政治家があるのです。政黨者流を見ても、頭株程頭腦が古い、若くなる程頭腦が新たになつてゐる。是は當然でありますが、此二つの新舊思想、新舊人物が政界に限らず、どの方面にも衝突してゐるのであります。同時に、新らしいと云ふ側にも、單に新らしがるより分らないのもあります。デ婦人の覺醒と云ふことも、矢張りさう云ふことがないやうにしなければならぬ。多少敎育を受けてゐる人は、ちよつと說明でも受けると、分らないことはないだらう。併し其分つたと同時に、それが精神に入つて精神として、また精神の體現として、現はれて來なければ、實際に新らしく覺醒したとは云へない。一般人民は特別に學問をしたものよりも智識の程度が低い。と同じやうに、一般婦人は今のところ男子よりも智識の程度が低い。從つて男子よりも婦人の側に表面ばかりの新らしがり屋が生じ易いのだが、ただ新らしがるばけでは、無論、まだ覺醒した仲間に這入れないのであります。

或人が或人の作詩を評してクーパーのやうだと批評しました。クーパーと云ふ英國の詩人は、思想と云ふものが淺薄であつて、從つて感情と云ふものが非常に形式的であつた。お座成りであつた。唯一般の人々に對しては容易くて能く分ると云ふ上に於て、ちよつと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

詩人として受取れた人であります。さう云ふ人は、誇り、自分獨得の詩想とか、情緒とか云ふものは一つも無い。これと同じやうだと云ふのは非常に其人を惡く批評した譯であります。併ながら、出版者がありまして其詩集を出版するに當りましてその廣告文にどう云ふことを言つたかと云ふと、著者は英國の詩人クーパーと云ふ定評のある詩人だとありました。つまり、クーパーと云ふ定評は淺薄な詩人だぞと云ふことであるのを知らず、たゞ片假名でありさへすれば、新らしい且結構な詩人だと思つたのでしようと思はれます。それと同じやうな例が隨分あります。感情が形式的で、唯『ほとゝぎす』劇のやうに上走りがする、あゝした傾向を、英語では、センチメンタルと云ふのであります。それを日本語で言へば、感情が形式的と云ふのです。好ましくない傾向を指摘する言葉でありますが、それでも、なほ、君の書いた物はなか〳〵センチメンタルだよと、片假名で指摘すれば嬉しがるものがあります。婦人界に於てもこんな淺薄な例が少くはない。戀愛をラブと云ひ、婚約をエンゲージと云ひ、家庭をわざ〳〵スキートホームと云へば、たゞさう云つただけで既に〳〵おのれその物が新らしくなつたかの如く考へてゐるものがあります。そして、婦人の讀み物でも下らないのがそんな名でよく賣れるやうです。つまり、一般婦人界が根本から覺醒しようとしてゐない一つの證據であります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

所で婦人の社會はさう云ふ工合にして、何時までも、いい氣になつて眠つてゐられるか、どうか？男子の社會では醒めて來た者があります。自然主義で醒めた者もあります。社會主義で醒めた者もあります。又國家主義や立憲の精神で醒めた者もあります。さう云ふ男子はまだ〳〵段々出來て參ります。そして、後々には、男子社會はさう云ふ新しい人間ばかりになつて參ります。然るに、婦人ばかりはいつまでも古く、腐つてゐて、ぐうたらに眠つてばかりゐたら、――云ひ換れば、凡俗な婦人ばかりであつたら、結婚の問題から云つても、貰ひ手がなくなるだらう。新しい男子が出來れば、どうしても新しい婦人が出來て來なければならぬ時代になつて來た。今の若い婦人が五十歳以上の男子若しくはそれと同じやうな舊い頭腦を有する男子を相手にするのなら知らず。もう、四十歳前後までの眞正な男子は新時代の人になれるしまたなつてもゐる。原敬君の如き有力者でも、もう、その位地が危くなつて來た時代ではないか？新らしい男子――やがてそれが一般の男子だ――の要求に應ずるには矢張り、根本から新らしくなつた婦人でなければならない。諸君のお友達にしろ、諸君の御兄弟にしろ、それが婦人であつたならば、その婦人の友人だとか其交際の範圍で語り合つてゐる所を能く觀察して見給へ。それで大抵標準が付くのです。

諸君か一般の婦人に對して聞いて御覽なさい――自己として考へたことがあるかどうか

？個人として考へたことがあるかどうか？或は人類の一員としてどう云ふものであるかと考へたことがあるかどうか？斯う聞いて御覽なさい。私は女ですからさう云ふことは何にも分りませんと答へるでしやう。又、それを一般婦人は當り前と思つてゐる。人生と云ふものは、男女に拘らず、自己の生活の中にあるものです、自己と云ふものが醒めて其醒めた生活の中に總て人生と云ふものが現はれて來るので、即ちこれがなければ女にしろ男にしろ空なものである。これが必要ですか、さう云ふことを考へたことがあるかと聞いて御覽なさい。矢張り、女ですからと云ふでしよう。それでは仕様がないです。また社會と云ふことを考へたことがあるか、どうか？矢張り、私は女ですから、家庭のことばかりにかまけまして――それでは家庭のことを考へて見たか、斯う言つて聞いて御覽なさい。矢張り。私は子供もありますし、日常の副食物の世話もしなければならぬから、一向左様な暇がありませぬと云ふだらう。丸で瓢箪鯰をとつちめるやうで、お話にならない。女ですからと云ふのが既に、今日では、謙遜でも何でもなく、自ら輕蔑した言葉です。婦人と云ふべき時に女と云ふのは、既に男子が婦人に對して輕蔑の言葉である。詰り婦人と云ふものが、俗に『女』として子守やおさんどん位で滿足してゐる其爲めでございます。初めに申しました文學士の細君と大した違ひはない。井戸端で眠らないが、子守やおさんどんとして眠り、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

箸を以つてコクリ〳〵はしないが、一層高い人間としての婦人としては矢張りねむり女の程度である。で故國木獨歩君でございますが、あの人は隨分舊式の思想が殘つてゐた人ですが、警句を吐くことに長けてゐました。そして、婦人は毛だ物であると云ふのが渠の一つの警句でありました。が、私どもから見れば、もはや無意味です。と云ふのは、婦人も男子と同じく人類の一員であります。人類の男子が獸物なれば、人類の婦人も獸物と云ふのは當然であるのです。所で、獸物であると云ふことは人間としても決して耻づべきことではなく、また何も恐るゝに及ばないことである。私どもは一方に於ては獸物として生れたのです。獸性を以つて生れたのです。獸性をわざと排斥する傾向は、寧ろ、西洋文明の虛僞と虛飾と空想的傾向から來たのであります。私どもはこの傾向に對して却つて實質と實力とがある——これは獸性を度外視しては生じない——野蠻主義を主張してゐるのであります。私の有する哲理からして說明してからなければ、この問題はとても諸君に充分分つて貰ふわけに行きませんが、たゞかう云ふことだけはお分りになるだらうと思ひます、——乃ち、男子でも婦人でも、現實的に自覺するには、乃ち、現實的に、人間としてまた社會の一員として、また人類の一人として、また自己として、個人として自覺するには、私どもの理想と獸性とを別々な物若しくは違つた物と見爲すのは、正當な道理と實際とに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

外れる所以であることです。獸性のまゝ自覺しなければ、思想上にも經濟上にも實力と實質とを失つて、有名無實の、ほんの、虛飾な自覺になるからであります。ちよつと注意して置きますが、よく新聞などで自然主義とか、近くは新らしい婦人とか云ふと、知つたかぶりでよく肉の解放などゝ云ふことを書き立てます。が、私の獸性論はそんな馬鹿々々しいことを云つてるのではありません。また新らしい婦人連なども却つて肉に對しては非解放主義であるのです。

そこで婦人の自覺その物の問題に移りますが、これにはよくイブセンのノラが引き合ひに出ますノラの劇を見ますと、諸君も御承知の通り、或意味に於て日本の今の狀態と違つて、男子の方が舊式であります。細君の方が新式です。詰り細君の方が夫を去つて仕舞つたと云つてもいゝのです。斯う云うことは日本にも是までになかつたとは云へません。がわが國今日の婦人連がこの劇を評した言葉が面白いのです。ノラ劇は東京でも芝居にやりましたし、大阪でも芝居にやりました。所で、これを見た婦人で此ノラを見て、利いた風に批評をした言葉を私は諸方で寄集めて見たことがあります。これがちよつと面白いと思ひます、

第一に、或婦人は斯う云ふことを申しました。私は子煩惱ですから、どうもノラのやう

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

な眞似は出來ませぬ。子供を置いて、無論またその子供の父まで置いて、家出をして行くと云ふやうなことは迚も出來ませぬ。と、斯う云ふことを言つた。それだけならばまだしもいゝです。自分だけの意見として、自分だけの性質として、それだけのことを言つてゐるのは、當り前のことゝ思ふ。どうせ自覺などと云ふことは分らないのだから。ところが、その分らない婦人が、その古い考へを以て、ただ子煩腦たる故を以つて、婦人の自覺なる物を否定的に解決し得たかの如く思つてるに至つては、女としての最も俗物であつたと云はなければならない。

それから、また斯う云ふことを言つた人があります。敎育が足りないから——ノラは敎育が足りない、も少し敎育を受けたならば、あゝ云ふことはしなかつたらうと。無論そんなことを云ふやうな人々の考へるやうな敎育と云ふものは足りなかつた。そんな下らない敎育が足りたら、無論、自覺は出來なかつた。日本で言つて見れば、あの賢母良妻主義、實は愚母惡妻主義ですね。あんな方針で敎育を受けて、それに服從してゐられる婦人なら、無論家出などしない。と同時に、かのねむり女も同樣の情態で終りませう。自覺が出る譯はないのである。敎育と云ふものは、無論學校の敎育を指すのですが、さう萬能な物ではない。此間の官僚新聞社襲擊事件に學生が澤山加擔したと云ふ事實があると、世人や

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

當局者は直ぐその學校の教育し方が惡いからであるかのやうに云ふが、どんな教育を施しても、學校だけで人間の感激性や自由意志を曲げてしまうやうなわけには行かない。人間としての自覺もそれで、ただ口で教へ、身で手本を示めしたからとて、本人が自ら覺めて來なければ駄目です。日本人は餘り教育を買冠り過ぎてゐる。ノラが自己に對してもツと教育を受けて見なければならぬと感づいたのは、學校的の教育ではない。自己を自己で反省し、研究し、建設することであつた。

それからまた、ノラの夫ヘルマーと云ふ人の言つた言葉をおぼえてゐたばかりの婦人もあつた。お前は宗教と云ふものを知らない、宗教と云ふものを知らないからさう云ふことを言ふので、お前がもう少し宗教のことを考へたならば家にゐて呉れるだらうにと。ノラは從來の形式的な宗教を知る、知らぬのは何も影響はない。私の考へてるやうなことは今日の宗教にないとノラは云つた。さう云ふ言葉の分つてゐる人に對して宗教を知らないからと云ふのは、是はほんの尤もらしい、が、一向に分つてゐない理窟を述べてゐるのであつて、矢張り是も下らない評言です。

第四には、是は最も滑稽な解釋と云へますが、或有名な婦人がノラに對して斯う云ふことを申しました。私がノラなれば、あの場合に家出などは致しませぬ。夫を捕へて教育し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てやります。さうして子供も大切に育てゝやります。分らなければ分るやうに夫を敎育して、私の考へ通にしてやります。かうです。太平樂も玆に至つて甚しい。斯う云ふ婦人は既にノラでないと云ふことが分る。ノラが自覺して出やうと云ふあの場合に、既に夫ヘルマーと云ふ人は頭腦が凡俗で、とても駄目だと云ふことがノラに分つてゐたのです。今までは知らないのでそんな人の家にゐたけれども、もうさう云ふ家にはゐられなくなつた。そして夫を敎育してやるどころか、自分自身の敎育——これは學校的若しくは世間的のを云ふのではない——がなかつたのを深く感じた。

第五に、もう一つ強いて附加へて見ればかう云ふのがありませう。例へば、私はノラであつても、どうも家出は出來ませぬ。たとへ子供は捨てることは出來ても、夫は置き去りにすることは出來ても、又其他のことも、どんなにでも出來るとしても、家を出て仕舞へば食へませぬ。生活が出來ませぬ。だからどうしてもあの場合には出られませぬ。斯う言ふのが一番打算的の話です。あるべきことであります。併しあの場合には生活問題はありませぬ。出るならば、そして生活出來なければ、死んで仕舞ふまでだ。見す〳〵虛僞の夫婦をつづけて生活するより、自覺を得て死んだ方が增しだと云ふ考へであつた。食へる食へないと云ふことは問題ではありませぬ。それほどノラの自覺はいのちがけで、眞面目

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

であつた。

尤も斯う云ふ自覺は――ノラのやうな場合は――イブセンが婦人に對する一種の理想を現はしたものと見て差支ない。併ながら理想と云ふものは現實ではない。現在の事實ではない。隨分理想と云ふものには人が胡魔化されたやうなことが澤山ございました。が、ノラの場合を實際の社會、實際の家庭實際の自己に持つて行きますれば、矢張り、ああ云ふ風に實行しなければならなかつたでしよう。デ新式の婦人と云ふものを要求し、新式の家庭を要求し、又進んで新思想で成立つ國家と云ふものを建設する必要が出來て來た場合に、矢張り斯う云ふ新しい方の思想と云ふものがどうしてもなければならぬ。無論思想があれば宜いと云ふばつかりでなく、これを實行して行かなければなりませぬ。是は男女に共通の問題であります。が、今日の新聞だとか、雜誌だとかによく見受けることですが、舊思想に傾いた男子方の人で、新らしい婦人の運動などを見て、癪に觸ると云ふやうなことを云ふものがある。またそれと同樣に無理解なことを書いた新聞を能く發見します。けれどもそれは婦人が段々進歩して行く途の付いて來たと云ふことを知らない人ではないでしようか？　もう少しそんなことを云ふ人、書く人が目が醒めると、その無理解なのが分ると、却つてそんな男子のはうが婦人よりも水平線が下に降つてゐる人であると云ふこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を發見するだらう。そしてさう云ふことを言はなくなつて、婦人に負けないやうな思想になるだらうと思ふ。舊思想の男子は、段々ノラに棄てられたヘルマンになつて行くのであります。

それからもう一つは、例へば前刻も例に取りましたが、斯う云ふ演說會に女房を連れて行くのは嫌だ。自分では新しい方面を聞いて見たいが、女房に新らしい方面を見せたくない。こんな分らないことを可なり立派な敎育を受けた男子でも云つてゐます。つまり、自分の女房に對して尊敬も拂へないが、また尊敬出來るやうに仕あげてやる見込みもないのだ。そんな見込みのない妻ならば、いつそのこと何故離婚しないか? 私供は婦人の自覺と云ふことを非常に贊成致します。その代りに、其反對に自覺のない婦人と云ふものを排斥して行きたいと思ふ。其方が却て婦人の自覺を早く促す原因にもなるだらうと思ふ。正直に申しますと、私は最初の妻を一二年前に離婚致しました。其妻と永い間一緒に居りました、そして最後の六年間と云ふものは別居してゐました。どうも意見が合はないのです。さうして到頭離婚の手續を致しました。デ私は隨分友人にも親類にも攻撃をされた原因になりましたが、併し私は私の信じたところを斷行して、到頭協議の上離婚しました。どうも、男子の婦人に對する愛も尊敬も起らないやうな家庭などに——つまり、僞善の因襲ば

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かりの家庭などにゐたくないと云ふので、これを斷行したのです。是はノラを例に申しましたが、ノラの反對に、男でノラをやつたのです。併し何も、私がノラを參考にした譯ではありませぬ。ノラの眞似をしたわけではありません。詰り、男子と云ふものが醒めなければ婦人と云ふものは全く醒めて來ない、併し一方から言へば、婦人が醒めなければまた男子が醒めない。社會は男女のどつちかゞ先きに醒めて行かなければならぬ、さうして兩方醒めて行かなければならぬことになつて來る。

婦人は從順と云ふことが能く言はれてゐる。諸君にしろ、誰にしろ、耳がたこになる程聞いてゐる。が、一般に形式的に過ぎない。いや〳〵ながら、止むを得ないから從順になつてゐるのも形式なら、世間ではさうしてゐよと敎へるから無邪氣に從順になつてるのも形式です。そんな形式は覺めたものには堪へられなくなります。眞の從順と云ふことは決して自覺すると云ふことゝ衝突するものではありませぬ。唯今日の社會は從順と云ふことを形式的に行つてゐさへすれば滿足してゐる、これが矢張り眠つてゐると同じことである。私どもはそんな眠りを破つて社會に新らしい空氣を入れてくれる婦人を要求致します。が、私どもの要求するやうな婦人が出來て來ると、無了解無自覺な社會では却つて、をかしなことには、攻擊の材料になります。さうして、青鞜社の運動でもさう云ふやうに

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

取り扱はれてゐるやうであります。新しい男子が出來たにつれて、婦人自身が婦人界にも新らしい思想、新らしい趣味、新らしい方針を吹込むのは結構な話ではありますまいか？それを知らないで、世間の婦人連は無自覺な男子と一緒になつて却つて攻撃してゐるやうな實例もあります。

大分長くなりましたから繰上げて行きますが――デ婦人を實際私どもが觀察して見ますと、細君になつてゐる人々は二種類に分つことが出來ます。一は前に言つた通り。こんなに極端でなくても何時と眠つて、これで滿足してゐる人です。もう一つは、ヒステリーでイラ〳〵してゐる人です。ヒステリーと云ふのは多く夫に虐待さるゝとか、舅や姑に虐めらるゝとか云ふやうなことから來るのでせうが、若しヒステリーの原因がさう云ふやうな、夫とか夫の親とかの虐待から來るならば、これをつらいとか何とか云ふことから心配してなるのだから、多少は自覺に近付いて來てゐるわけです。それならば、いつそのこと一層奮發して、何故さう云ふ場合にノラのやうに亭主を捨てませぬか？何故離婚を要求して仕舞つて出で來ないか？そこまで女と云ふものは斷行しなければ、社會は早く改まらないと私どもは思ふのです。唯さう云ふ人の心配は生活の獨立がないことでしよう。自分が亭主と分れたならば頼る所は無く、且又自活の道もおぼえてゐない。困るから、たゞ、いやな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

亭主の所にグズ〳〵してゐるのでありますから、それでは成ほどヒステリーも起せるわけでありませう。併しこれからの婦人は自分として死ぬまでやつて見る決心がなければなりませぬ。自分をたゞあきらめる方ではなく、死んでも自分自身を建設する意味に於てゞす。

ところが、感心にも、若い而も新らしい婦人から、近頃、多少無自覺と云ふ方面の夜があけて來ました。其若い人達の精神を私どもが觀察すると、どうしても夜明の光に輝いてゐます。舊い男子や舅、姑などや、形式的な父兄どもが眠つてる間に、若い細君や娘さん達から目がさめて來たのです。餘程結構になつて來たと思ひます。そして今日の演説を催した青鞜社のいろ〳〵な事業などは之を代表してゐるのであります。青鞜社が成立してから、一年餘になるやうですが、その間に世間が最も驚いたり、攻撃したりしたのは、女だてらに酒を飲むとか、吉原へ遊びに行つたとか云ふことですが、酒を飲む仲間はみんなだと云ふわけでもなく、また吉原へ遊びに行つたのは僅か二三名であつたやうだ。それも仲間の叔父さんの紹介で吉原の內部を見、吉原固有の音樂を聽きに行つたと云ふのだから、別に何でもないことだ。酒だつて、獨立した個人として飲むには、個人の責任を忘れてゐない限り、かまはない。日本人は兎角、人の疝氣を頭痛に病むと云ふやうな癖があつて困

るのであります。能く考へて御覽なさい。自分の考へたことを、自分の思想をです、發表することはなか〳〵六ケしいことです。男子でも、文學方面に携つてゐる人々を除いては、自分で分つてゐても、自分の考へを發表することが出來ないのが一般です。所が、青鞜社の連中は、年が行つてゐても三十歲、若いのは十七八歲の婦人でも、充分に自己の思想を發想してゐるのです。その上、雜誌の經營とか、著書の準備とか、文學や哲學の研究會とか、そんな事業も着々運ばせて行つてるやうであります。私は思ひますが、今日、女子大學の卒業生でなければ女でないやうになつてゐるのが、他日、靑鞜社員でなければ、若しくはそれの運動を理解した婦人でなければ、婦人とは云へないと云ふやうな時代が來るに定つてゐる。

最後にちよつと私が知つて居る範圍を紹介しますと、此靑鞜社と云ふものは、却々皆活氣のある婦人連の集りで、さうして多く若い人の集りです。大抵三十以下の人の集りでせう。所が、最も若い婦人のうちには、誰れか生命を抛つて一生懸命に自分を可愛がつて呉れるものがあればいゝと云つてるものがあります。斯う云ふ人もあります。又一つ自分が愛するものを——乃ち、英語で云へば、ペトを——得たい、斯う云ふ人もあります。是は中年になつた婦人です。又場合に依ると、自分の夫と意見が合はないので、出來るなら、

離婚して貰いたいと云ふ婦人もあるやうです。兎に角皆相當の自覺と見識とを持つてゐます。たゞ空體に自覺とか見識とかを持つてゐると云ふのではない。渠等のおもなものは、すべて、外國語も英語でなければ佛蘭西語が讀めて、相當な學力もあり、また皆何かして自活してゐるのであります。單に親がゝりや亭主がゝりのものはない。

で、渠等は、今の一般の分らない亭主や親どもがその分らない女房や娘を持て爲すやうな工合には、決して渠等の父兄や所天から持て爲されてゐないのであります。充分にその獨立と見識とを信用せられてゐます。そこが最も賴母しいところであります。つまり、新らしい婦人の覺悟として賴母しいところであります。かう云ふ婦人はたとへ自分で自由に結婚の約束をやつても、跡から直ぐ親に厄介をかけるか云ふやうなことはしないでしよう。自分で自分の責任をよく心得てゐるからです。で、男子との交際も無事に運びます。私が二十歳前後の時には男子が婦人と知己になると云ふ所は、自分の家に遊びに來るものゝ外では、耶蘇教の教會堂たつた一つでした。其教會に來る婦人が矢張り社會的に男子に會ひ、男子と交際の出來たのである。所が、其耶蘇教の教會で婦人が初めて男子を知り、男子も初めて婦人と交際が出來ると、その初めて交際が出來た男女がきッとくッ付き合つてしまうものゝやうに極つてゐたものです。何故かと云ふて、餘り男女の間が懸隔つてゐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たのが、急にその隔てが取れるので、目鼻もつかないうちに戀愛關係が生じて來るからです。所が、今日は、もうさう云ふことはなくなつたやうです。今日は男女交際が自由になつて來た。そして又男女が身づから相撰擇する餘地も出來て來た。も一步進んで米國などの狀態まで行くと、公園あたりで愉快に若い女と男がキッスを合つてゐる。それでも、立派なことには、日本人なら直ぐ氣をまわして考へるやうな身體上のきたないことなどは一つもない。どうか結婚を早くして貰ひたい、それには早く相當なお金を溜めて家庭を持てるやうにと奬勵してゐるに過ぎない。男も亦その意に從つて、女が他人へ思ひかへないやうに、親切な接吻をしてやつてゐるに過ぎない。婦人が一般に覺めてくれば、わが國でも、肉の解放どころか、その反對に肉に對しても、精神に對しても、そこまで自重するやうになります。日本では今のところまだそこまでは行きませぬ。もう少し經つと、それでも其位に立派になるだらうと思ひます。

いろんなことを取りとめもなくしやべつたやうですが、要するに、男子が新らしい自覺の世間にずん〳〵這入つて行くのに、婦人ばかりがうか〳〵眠つてもゐられまいと云ふのが主意であります。婦人もすべての方面に自覺と自重とをしなければならしい。さうしなければ、結局、男子の要求と添はなくなつて來る。無論、婦人はこれから結婚が唯一の目

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

的ではありません。先づ人間として覺醒しなければならぬ。青鞜社の人々がお嫁に行くと云ふことなどい二の前に置いて、熱心に自己の獨立を考へ、婦人としてよりも先づ個人としての研究を考へてゐるのも、それが爲めだらうと思ひますが、試みに男子の諸君は一つ當つて見るもいゝでしよう。然し當つて見て、豫想外の肱鐵砲を喰はないやうに——

（拍手）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

婦人のために ―馬場孤蝶―

青鞜社のお催しで今日の此會を開くに就て、私にも出て何かお話をする樣にと、生田長江君から御相談がありました。併し私は御婦人のことは餘り知らない、而して又私は最早知る必要もない位の年になつて居る。私には娘が一人ありまして、今四五年も經つと結婚する位の年になつて居ます。尤も娘のことなどは何れでも宜い、彼女も人間であり、我れも人間である。自分の子とは言へ人間たるの點に於ては何等の相違がない。彼女もやはり人間としてのデグニチーを有つて居る筈であるから、親が何と言つたつて仕方がない。又さう云ふ者に對して親があゝとか、斯うとか命令する權利はないと私は思ふ。故に、私は進んで御婦人のことを研究する必要も先づ無い。從つて御婦人のことは知らない、知らないから別に御話することも無いのでありますが、私は生田君とは長い間交際をして居るし、又此會に就ては生田君が盡力せられて居つて、生田君の方で色々御都合があることだらうと思ひましたから、兎に角出て參つたのであります。さう云ふ譯であるから、演題も『婦

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人の爲に』と云ふやうな極く曖昧な題でありまして、而も之には何等の意味がある譯ではない、又何等纒つた考のあるのでもないので、唯々『婦人の爲に一言す』とでも言ふ位の單純なる意味に過ぎませぬ、謂はゞ雜感とでも云ふやうなお話を致すに止まるのであります。

それから、別に何も威張る譯ではありませぬが、私の考を申述べます前に、劈頭に於て先づ御斷を致して置きたいことがある。それは人が妻を替へることを私は敢て不道德とは考へない、今日のやうな社會狀態に於ては、結婚は一のエキスペリメントであると考へて一向差支ないと私は確信して居ります。私は現に無學の妻を有つて居ります、已惚の差別いても妻よりは私の方が偉い、それは諸君も私を知つて居る方はさう御覽になるであらうし、私もさう確信して居ります。所で私が其無學の妻を離緣しないで置くと云ふことは、何も離緣することが惡い事である、女房を取替へることが怪しからぬ所業であると云ふ意味からではなく、唯々取替へることが面倒臭いからである。語を換へて言へば代りをまだ發見しないからであるとも言へる。甚だ妙なことを申す樣ですが、私の妻は可ないと云ふ程でなくとも、私は十分と思つて居らないことは確である、けれども、其今の妻を追拂つて他の女を連れて來た所で、果して善いかどうかまだ見込みが付かない、のみならず、是

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は御婦人に對して失禮の言ではありますが、今日の狀態では私には婦人は皆同じ樣に見えるので、取替へて見た所でやはり不滿足がある、同じ不滿足があるならば、其取替へる骨折、取換へる色々な面倒をするよりも、現狀の儘で怺えて居る方が宜い、斯う云ふ意味で取換へないのである。尤も、斯ういふ考は私ばかりで無く、妻の方でも、私と同じ考で、私の家を去ら無いで居るのかも知れません。

それから今一つ御斷りをして置きたいのは、私は自分の事より外考へない人間である。私は餘り深い學問を致しませぬから、哲學とか何とか云ふやうな學問の上からの考ではありませぬが、私が自分の家庭を整理して行くやり方は皆自己本位である。世間に對しても矢張りさうなので、人の頭を毆らうと思つても、毆つたら先方の人は厭やな顏をするだらう、厭やな顏をされゝば自分も心持が惡いから先づ毆らずに置かうとか、人の物を取らうと思つても、取れは先方の人がイヤな心持がするであらう、イヤな心持をされゝば自分の心持も惡い、だから取らないと云ふ風である。もう少し廣く言つて見ると、自分の損になることはやらないと、斯う云ふ風でやつて居るのである、さうしてそれで別に何等差支はないやうである。もう少し之を取纏めて言つて見ると、セルフ・インテレスト、自分のインテレストを主にして私若くは私の知つて居る二三の人はやつて居る。それ故に、婦人問題

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に就てもさう云ふ方面から、人間と云ふ者は先づ大抵こんなものであらう、道徳は根本などゝ云ふものも、やはり自分のインテレストを主にして行かうと云ふことに依つて成立つて居るのであらうと云ふ風に私共は考へて居るのであります。

先づさう言つたやうな考であリますが、今日の婦人はどう云ふ風な位置にあるかと云ふやうなことは大抵皆さんの御存じのことであらうし、又私が今それを餘り詳しく言ふ必要はなからうと思ひますが、唯々是までの世の中、殊に日本の世の中が大變に間違つて、今日のやうな日本の婦人の狀態になつたと私は思つて居ります。所で男と女と比べて見ると種々なる差異がある、夫れ〳〵特異の點はありますが、全般から考へて見ると男の方が女よりは腕力が確に強い、さうして是までの世の中は腕力を振はないと可ない世の中であつた。多くの場合腕力の強い者が弱い者を壓し、組織的腕力のある者が否らざる者を制して居つた。さう云ふ世の中であつたのであるから、男は無暗に豪がつた、女ばかりではどうにも仕様がなかつたのである。尤も或る場合には女であつて力の強かつた者もないではなかつたが、一般の通則として男の方が強いものであるから、どうにも仕方がなく男に壓伏せられて居つたのである。古い時代に於て甚しきは女を家具として數へたこともある、鍋、釜、テーブル、ストーブなどゝ同じやうに考へ、或は明にさう云ふことを言つた者さへも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あつた。現にさう云ふ文書なども遺つて居をから、其事は事實である。

所がそれは段々に改まつて來た。男の方から御機嫌取に多少待遇を改めて來た、又女をエンジョイスする爲め、即ち女を樂しみものにすると云ふ上から、餘り道具扱にして、椅子へ衣物を着せたやうな風では面白くないから、多少待遇を與へて人間らしくしてやらうと云ふ風になり、多少は好くなつたのではあるけれども、それでも尙女を奴隸のやうに取扱つて居つた。此考は最も近頃まで續いて居つた。さうして妻と云ふものは何でも夫に從ふべきもの、インプリシット・オベヂエンス、一から十まで黙つて從つて居れば宜いと云ふことになつて居つたのであります。けれども其結果はどうかと云ふと、さうすると差引いた所で男の得には少しもならない、又女の方も餘り大した變りはない。男は女を唯々玩弄物にして居れば宜いと思つた所で、女が男の要求に應じて呉れゝばそれで宜いと言つた所で其要求たるや極く制限された極て狹いものであつたのである。併し今日では男の方の女に對する要求が一般の場合もう少しく多くなつて居ると思ふ。もつと進んで男の要求に女に應じて貰ひたいと云ふことになつた。是も實は男の方の勝手からさう云ふことになつたのですけれども、もう少しく敎育をして、即ち智識を與へて、女も男に近づき得る程度にまで進ませたい、さうすれば、男の話相手位は出來るし、玩弄物としても少しく手應へあ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る玩弄物になると、斯う云ふ風の考を一般の男が起して來た。斯う云ふと如何にも男を惡く言ふやうでありますけれども、現狀がさうであります。若し眞に女と云ふ者を男と同じやうに視、男と同じディグニチー、威嚴を有つたものとし、男も女も同じであると云ふことに土臺を置いて取扱ふと云ふことであつたならば、女に與へる敎育と云ふものは今少し變へなければならぬ筈と私は思ふ。

然るに今の敎育の仕方、即ち高等女學校位の敎育はさうでなく、女に對して唯々柔順なれ、賢妻良母たれ、家の中のみをやつて居れと、斯う云ふ風である。けれども其家の中の事のみをやつて居れ、家の中にのみ居れと云ふやうなことは、男の方から言つたことであつて、女の方では決して家の中にばかり居たくはないでせう、女は家の中の事のみをやつて居る者と云ふのは女の方から極めたことではなく、男が勝手に極めたことである、妻が常に外へ出歩くよりは、家の中に居て夫の便利ばかりを圖つて呉れた方が都合が好い、即ち女には夫の爲めに有らゆるものを盲目的に犧牲にして貰へば宜い、若くは是非何でも彼でも犧牲にさせやうと、斯う云ふ方針から今の女子の敎育が出來て居るのだと私は思ふ。さう云ふ風であるから、今日の敎育は婦人に實際の位置を得させやうとしての敎育ではなくして、唯々男の都合の爲に、男が亭主として大威張に威張らうと云ふ考の本から出來た

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

敎育である、であるから、現に婦人には高等女學校以上の敎育機關は無い。又高等女學校の名前はあるけれども、本當の敎育は女には與へない。是は政府に於ても民間の者も同様である。

斯う云ふ狀態は現在の男に取つては都合が好いかも知れぬが、此次の時代になれば決してさうは行くまいと思ふ。賢妻良母と云ふことは洵に立派な語である、けれども若し女の子は少しも新しくなつて行かないと假定した所で、それは實際はそんなことはなからうけれども、先づさう假定して、さうして一方に男の子は段々進んで行く、是は明かなることである。男の子が段々新しい人間になつて行くことは事實であつて、何と言つてもそれは防ぎ様がない、然るに女に對してのみ古い敎育をして行つて、女が少しも新しくならないとしたならば、どうしてそれが新しい進んだ男の子に對して賢母になれるでせう、是は一言にして明なることであらうと思ひます。母親となつて、自分の子供が何か言出すと、直ぐに吃驚して狼狽へると云ふ風であつたなら、どうして社會が進んで行くことが出來やうか。少し靑年らしい行爲があれば、直ぐデカダンとか何とか言つて妙な所に出入するのでは無いかと、無暗に心配すると云ふやうな母親であつては、其親切は親切だが、さう云ふ母親であつては是からの子たちは決して滿足しまいと思ふ。私の兩親は極めて舊式の人間であ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りましたけれども、其代り私がどんなことをしやうと一向構はなかつた。善くなれと云ふ世話もして呉れないが、又惡い事を爲るなとも訓へない、全く放任して置かれた、是は私が非常に兩親に感謝する所である。實はそれが當り前のことであるが、併し近來の世の中では至極珍らしいことである、尤も是は一方には貧乏であつたと云ふお蔭もあつたのであります。兎に角今では上に云つたやうな風の間違がつた教育をして居るのであるから、どうかして之を改めて行かなければならないのである。

そこで先づ當面の問題としては、婦人がもう少し己れの知識を進めることが必要であらうと思ひます。例へば結婚と云ふことでも、結婚と云ふことは重大なることゝ世間では唱へて居る。結婚をして子孫を繁殖させると云ふことは最も重大なる事と考へられて居る、併ながら吾々に取つては、唯々子孫の爲に有らゆることを犧牲に供し、吾々の當然有して居る生活の權利までも全然犧牲に供すると云ふことが果して快いことでありませうか、又それをしなければならぬ義務が吾々にあるでせうか、私はさう云ふことは決してあるまいと思ふ。吾々は身體を與へられ、世の中に生存して行くに就ては、自ら人生を樂んで行かなければならぬ、人生を樂まざるを得ない。然るに子孫の爲めだからと言つて、有らゆるものを犧牲にし、不便を耐へ、己れ自身の發達を妨げて、子孫の爲にのみ苦まなければなら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ぬ理由があるでせうか、これには樣々の意味がある、種々限定を加へなければならぬことではありますが、一般の原則として私はやはり自らが生きて行くと云ふことが、是が最も肝要なことであらうと思ふ。さうすると、先づ結婚の問題から考へて見ると、男と女とが一緒になつて、夫となり妻となつて双方とも人間として世の中を面白く渡つて行く――面白くと云ふ意味にも色々ありますが、先づ常識に訴へて面白いと云ふ意味を一番善い意味に、又最も深い意味に考へて、――最も面白く世の中を渡つて行くと云ふことで、それで人間の義務は盡きるであらうと思ふ。さうして見ると、子供をこしらへることばかりに、人間の義務を限つてしまうといふことは、甚だ狹い見解であらうと思ふ。さうすると、茲に婦人が十八歲で結婚しなければ子供が出來ないとか、或は早い時に男と一緒になつて置かないと子供が出來ないから、女には餘り學問などはさせない方が宜い、二十四五までも學問をさせると、女は生殖力を餘程失つてしまふと云ふやうなことがあるにした所で、婦人が其己れの人生をエンジョイスする爲には二十四五位までは學問をすることが必要であるのであつたら、それ位までは學問をするのが宜いと思ふ。

従つて又是も少々誤解され易い問題であるが、私は避姙などゝ云ふことも、惡い事かは知れませぬけれども、已むを得無い事と思ふ。何となれば現在社會狀態から立論するこさ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は先づ措いて、右に述べた如き論法からばかり言つて、女と云ふ者も女として、人間として人生を樂まなければならぬ。然るに段々子供が出來れば、從つて自然に女としての容色が衰へ、身體は衰弱する、然るに、自然、ネーチュアーと云者は、人間に對して何等の容赦をしないものである、子供が出來ると云ふことが其人の身體に惡からうが、不便だらうが自然はそんなことには頓着しないのである。男と女と一緒に住んで居れば、――それは出來ない場合もありますが――大抵は子供が出來る、その子供が度々出來る結果少くとも母親の身體には人間としての弱點が生ずるが、さう云ふ場合に於てもネーチュアーの方では少しも構はない。所で、それに對して、吾々は其天然に對して何等の反抗をも試ずして唯々そのまゝに屈服すべきものであらうか、私は決してさうは考へない、やはり相當の手段を以て母親となる原因を去り、自分自身の人生をエンジョイスすると云ふ方法に出でゝ是は然るべきことである、一向に差支ないことゝ思ふ。一言お斷り申して置く、我輩は此演壇に立つた以上は我輩の意見を述べるのである、青鞜社が私の意見に贊成するか贊成しないか、そんなことは知らぬ、こんなことは豫め約束をして置かなかつたから、私は私の意見を言ふばかりである、又私が如何なることを言はうとも、それが爲にその咎を青鞜社にまで及ぼすことは御免蒙り度いものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

出戻りの婦人をひどく卑しむ、まるで廢人でゞもあるかのやうに扱ふ習慣なども、甚だ面白く無いことだ、單に處女たる者とばかりよりも、人柄なものを重んずべきものではあるまいか、主婦たるといふことが、何等かの經驗を要することであるとすれば、再縁の婦人の方が、その主婦たりし經驗があつて、それを貰らふ男の方から言へば、都合が好いかも知れぬ。今は頭が禿げて六十七十になつた男でも、女房が死ぬと、新しい者が宜いと言つて初婚の者を捜すと云ふやうな馬鹿氣た世の中であるから仕方がないが、婦人がヴアージニチー失つたが爲に、其婦人を殆ど廢人と見做さんばかりにすると云ふやうなことは頗る變なことである。私は離婚ばかりでなく、二度の結婚も別に惡い事と思つては居りませぬが、併し再婚をしたいと思つても、子供のある場合は大變困る、今日のやうな狀態では、旦那樣が働いて、それで其一家內の者を食はして居ると云ふ狀態であるから、子供を連れて再婚すると云ふやうな場合に、先方にも子供でもあると樣々の困る事が起つて來る、後で財產爭が起るとか、ヘンな邪魔者が入つて來たやうに思はれて、甚だ面白くない波瀾が起るやうなことになるのであります。けれども、是も私の考では、財產私有の問題さへ解決すれば、多少は困ることもありませうが、其困難の大部分は消滅するであらうと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

大分長くなりましたし、私は斯う云ふ席へ出て餘り大きな聲でお話をしたことがありませぬから、聲が疲れて來ましたので、大抵の所で切上げますが、前條申述べました通りの次第でありますから、將來御婦人方は大に奮發せられて、成るべく御自分達から立つて、此世の中を少しづゝなりとも變へて行くことに御盡力あらんことを希望する。それで青鞜社のことに就ては私は能く知りませぬ、又青鞜社は昨年から雜誌を出されて居るさうだが、それに就ては何等の御相談も受けて居らない、勿論相談される位置でもないからそれは當り前の話、それから雜誌の御寄贈も得て居ない、と申して敢て雜誌の御寄贈を得たいと云ふ譯ではありませぬ。さう云ふ譯で、私は青鞜社の方々の後援者でもなければ何でもない、だから繰返して申しますけれども、私が言つたことは總て私自らの責任であつて、又青鞜社の方も私を斯う云ふ亂暴者だと思つて此處へ擔上げたのではなからうと思ひます。斯う言ふと、青鞜社の方々は如何思はれるか知りませぬが、私は私だけの考を申したのであります。それは兎に角將來の御婦人に對しては私は段々此世の中を變へることに御盡力になることを希望する。それに就ては成べく一切の間違つたこと、様々の不便なことを排斥して、益々學問せられ、智識を御進めにならんことを希望する。

それから又此青鞜社の如き婦人の團體が、大に其實力を發揮して、雜誌を發行するとか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

或は斯う云ふ集會を催すとか云ふことは甚だ結構のことでありますが、私は今一つ御婦人方に希望したいことがある。それは吾々男でもやらなければならぬことでありますが、殊に又私のやうな筆より重いものを持つたことない者から言ふのは少しくヘンですが、文學、或は學問と云ふやうな世間で高尙なことゝなつて居るもの以外に、もう少し婦人が何か職業を得ること、婦人ばかりで出來上つた勞働者のオルガニゼーションのやうなものを造ると云ふ方面にも女の方々が盡力されんことを希望するのであります。其外まだ申述ぶべきことは色々ありますが、今日は此邊で御免を蒙ります。（拍手）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

文部省文藝委員會撰定世界四大古典籍の第一

本戯曲は三月二十七日より五日間帝國劇場に演ぜられて文藝界を賑すべし

文學博士 森鷗外先生譯

ファウスト

四六倍版 美本 上下二冊 特價二圓八十錢 正價三圓五十錢 送料内地十六錢

時は大正に入りて西歐文藝翻譯の黄金時代は來らんとす。此黄金時代を飾る冠冕たるものは戯曲ファウスト全二部の完譯也。原著は世界第一流の大作。譯者は現代文壇の權威、譯文は平明流麗の現代口語を用ゐて原作の理義と情趣とを併せ寫してまた遺憾無く、諸者の理解をして一字一句の末にまで徹底せしめざれば止まざらんとす。從來空しく學者文人の書齋に弄ばれたる大牢の美味は今や國民が日常の精神生活の米の飯たらんとす。書を讀まば當に世界第一流の書を讀むべし。乞ふ暫らく屑々たる小文學を離れて、この古典文藝の後勵にして近代文藝の先聲たる大詩人の傑作に、盡きざる心靈の泉を味へ、必ずや紛々たる雜念の頓に滅盡して、活人生に活動すべき新たなる性命の力の滾々として胸中に湧き來るを覺ゆべきなり。

發行所 東京神田 電話本局五四一 振替一〇一三 〇一〇六 富山房

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

文學士 小山内薫譯

菊版四百頁 口繪・挿畫入 全壹冊 定價金壹圓 市外小包 拾貳錢

近代劇五曲

目次 ▲ハンネレの昇天(ハウプトマン)▲犧牲(ストリントベルヒ)▲犬(チエホフ)▲タンタジイルの死(マアテルリンク)▲夜の宿(ゴオリキー)

現代思想は本書を**要求**す本書は我が**劇界革新**の急先鋒**也。**

著者は赤門出身にして夙に身を劇界に投じ自由劇場主事として我劇壇に最も新しき運動を開始し現下歐州劇壇視察のため露都莫斯科府に在り泰西文學に造詣深く舞臺の智識に豐富なるは誰人も認識する所也。文に著者の翻譯戯曲は文學として優秀なると同時に實演の臺帳として適確也。本書收むる所の多くは既に各劇場の實演に據て觀客の喝采を博せし者也。左れば曩に本社が發刊して好評を博せる「近代文學十講」に據て是等劇の輪廓を知れる者更に本書に據り其内容實質を究めざるべからず。之れ十講の姉妹篇として名著五曲を選び江湖に奬むる所以也

大日本圖書株式會社

東京銀座壹丁目 振替東京二一九番

美装全一冊
三百二十頁

畜生道

賣價金一圓
郵税金八錢

平出修氏著

◎公判に於て六錢窃盗犯人を裁判する某國法官の心理描寫を試み○計畫に於ては大逆事件辯護人たりし著者の感傷を披瀝す○畜生道は人間の深酷なる科學的解剖にして○未亡人には婦人問題の正面的解釋觀あり○長者町鹽ばな二黑の巳草市の夜の四篇は無學にして直情なる『零丁の女』を描いて著者一流の觀察あり

東京銀座三丁目八
大阪南久太郎町三丁目
京都祇園萬壽小路

籾山書店

振替 東京一三六八六
大阪二四一七

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

江戸狹斜文學の粹

爲永春水原作　久保田米齊氏畫
饗庭篁村翁序　熊谷爲蝶新譯

新譯 梅ごよみ

最新刊
四六判三百頁
江戸好製本
定價金五十錢
送費六錢

附錄　爲永春水小傳■篇中の主要人物■羽織藝者の氣分

爲永春水が一代の名作徳川期狹斜文學の粹、「梅ごよみ」は、後代に及び風を紊るものとして不幸發賣頒布禁止の厄に逢ひ、永く地中のものとして終らんとす、著者これを嘆き、忌避に觸るゝ個所を削除して、巧みに人情の機微、情緒の纏綿を傳へんとす、日本民衆の習俗人情、江戸狹斜の空氣、これらを描ける軟文學の精粹、艶麗花の如き情史は玆に再び市上に現はれ出づ、遲日第一の好讀物として之を江湖に奬む。

□よね八、仇吉、丹次郎の艶史新譯成る!!!

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目　振替貯金東京五六一四　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

THE PILGRIMAGE.

BY YONE NOGUCHI.

新英詩集

野口米次郎著

「東海より」以來過去十年前の英詩を聚む。二年前、此集英米詩壇に顯はるゝや好評嘖々、時の批評家著者を比するにバエレーン或は畫家ウヰスラーを以せり。ランソム氏が野口氏を評論せる一大論文(ゼ、フオートナイトリー、レヴユウ)は詩集の卷末に掲げらる。

新形發賣
定價金一圓
送費金六錢

◎今日より顧れば、詩のやうな時代は一變は、此のせゝこましい日本にもあつた。日本は當時に於て、十分の意義に於ての世界の日本では無かつたかも知れぬ。然れど世界は日本に對して、今日よりも平和であつた。「ヨネノグチ」は此の時代に、詩を胸に懷いて米國に渡つたのである。若し彼にして米國に渡ること、十年遲かつたならば、彼が胸中の詩は果して世に出づる機會を得たであらう乎。彼は、此の點に於て、全く特殊の地位を占めて居る。

◎西洋人は、野口の詩に於ける及び文に於ける想像力の豐富を見て、野口の日本人である點よりして、日本人の富擅なる想像と稱して居るが、日本人は決して西洋人の輕易に想像するが如き、想像の富擅なる人民で無い。日本人の想像力は思ひ切つて貧弱である。日本に大なる文學無く、大なる哲學無く、大なる事業が無かつたのは、其の根本の理由は、實に此の想像力の貧弱に在るのだが、此の點に於ては野口は眞に一の天才である。彼れの文は詩趣に漂うて居る。或は彼れの詩は想像の翼に依つて蝶の如く舞うて居る。彼は其の詩趣饒き文詩を以て、毎月或は毎週、英米の文壇を賑はして居るが、紙と木とのマッチの函のやうな日本の家に棲み、風呂敷を細工したるが如き日本の衣を着け、米を食ひ、茶を啜り、或は團扇を使ひ、或は火鉢を擁して日本語を話し、日本語を讀みながら、ペンを横に走らして出來上がつた原稿を、海は太平洋を超えて亞米利加に陸は西比利亞を經て英國に送る處、彼も亦日本には產れそこれた人間の一人である。

(東京魁新聞 若宮卯之助)

發行所 東京市京橋區南傳馬町三丁目 振替貯金東京五六一四番 東雲堂

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜社編　小笠原さだ裝幀（自書自刻）

青鞜小說集

四六判三百五十頁
頗美本
定價金八十錢
送費六錢

新刊發賣

執筆者

野上彌生　岩野清
小笠原貞　岡田八千代
水野仙　神崎恒
小金井きみ　神近市
荒木郁　森しげ
尾島菊　林千歳
加藤籌　茅野雅
人見直　藤岡一枝
加藤綠　木内錠

小說十八篇

發賣所　東京市京橋區南傳馬町三丁目（振替東京五六一四番）　東雲堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

謝近火御見舞

神田三崎町三の一
玉者館
荒木郁
電話本局四三九一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

參版發賣

抒情歌集

桐の花

北原白秋著及畫

歌八章四百餘首

銀笛哀慕調
初夏晩春
薄明の時
雨のあとさき
秋思五章
春を待つ間
白き露臺
哀傷篇

散文六篇

桐の花とカステラ
晝の思
白猫
植物園小品
感覺の小函
ふさぎの蟲

本文二度刷
挿畫十四葉
カット二十個
新形空前の美本五百頁

定價壹圓 小包送料金八錢

發行所 東京市京橋區南傳馬町三丁目（振替 貯金 東京 五六一四番） 東雲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

發行所　東京市京橋區南傳馬町　振替東京五六一四　東雲堂

求むるこころに手をのべよ。遠く行け。靜にうたへ。落ちたる塀に纏はる蔦は、悲しけれども力あふるるものなり。煙や水や山岳や月光や、香氣ある太陽や、これら皆無言にして心を養ふものなり。この詩集の如き僅に著者が心に培かひたる蔦の芽生に過ぎず。

四六判頗美本
定價金壹圓
郵税六錢

阪本繁二郎畫
三木露風著

詩集

白き手の獵人

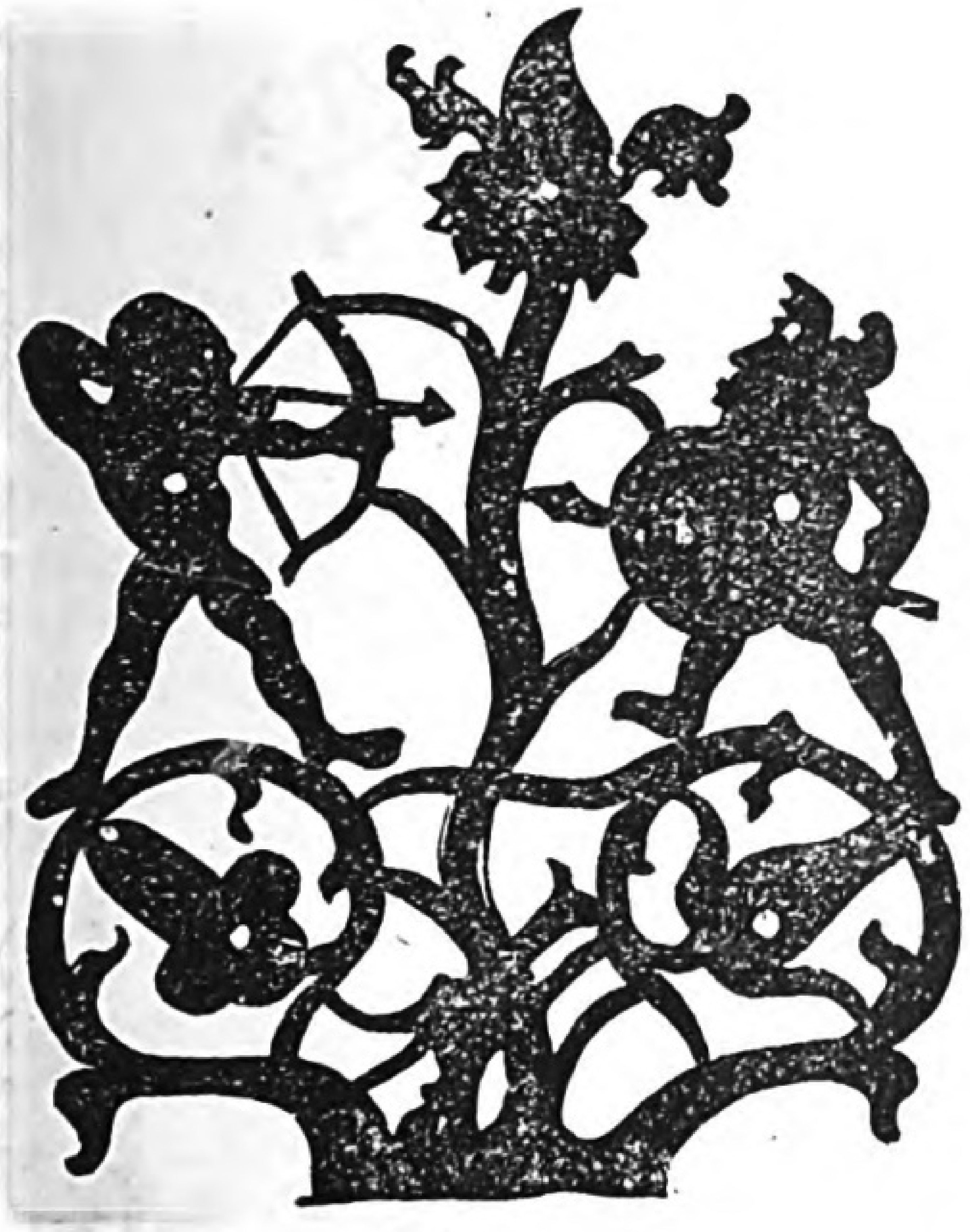
四月上旬發賣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

石井柏亭氏著

歐洲美術遍路

上下二巻



■外遊二年間足跡殆ど歐洲各國に及びたる柏亭氏の紀行評論等の全部を收む

■四六版裝釘瀟洒

■泰西新古美術品の寫眞數十葉と著者自身が各地の寫生畫數十葉とを挿みて內容頗豊富

三月上旬上巻發刊

定價各巻貳圓

發行所 東京市京橋區南傳馬町三丁目 振替貯金東京五六一四 東雲堂

青鞜

原稿用紙

■大判（藍色刷）二十字十行百枚綴

■大判（褐色の色紙へ墨刷）同　上

■小判（朱色刷）同　上

定價各一册十五錢　送費一册四錢

右三種紙質は最も精良なるものを撰み
發賣いたし候間御愛用願上候

發賣所
東京市京橋區京橋際
東雲堂書店
電話京橋一六三九
振替東京五六一四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

岡本かの子著
（青鞜叢書のうち）

新刊發賣

小形美本
全部日本紙
木版手刷
插畫一葉
定價貳拾五錢
送費二錢

插畫　和田英作氏
裝幀及裏書　岡本一平氏
彫刻者　吉田悦太郎氏

この歌双紙は年四回刊行する全部本版刷の、純日本式裝幀に成る歌集で、本篇は女史の新作七十首を收めてある。「女なればか」「かろきねたみ」「袷の襟」「暗の手ざわり」「舊作のうちより」「いばらの芽」「むなおしろい」「淡黄の糸」「ひるの湯の底」「水のこゝろ」の十章。かろくやさしく、なつかしき女史の氣持ちは、頃合ひの年數を經た櫻の板につゝましく彫られて、稍々にじみ勝に刷り出された薄墨の色に、その情緒の顫へを窺ふことが出來る。

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目（振替東京五六一四番）　東雲堂

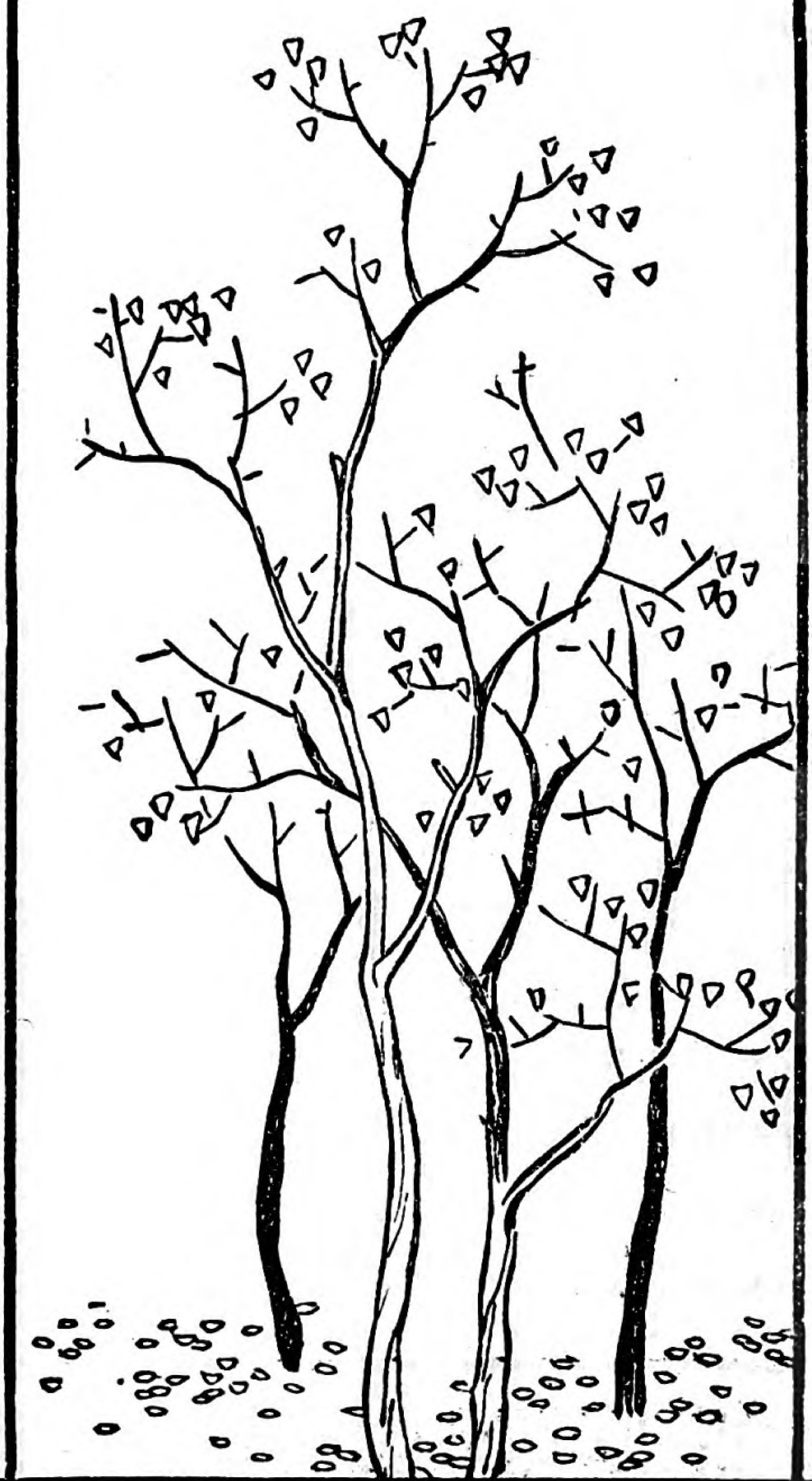
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

歌集

死か藝術か

再版發賣

東京
京橋際
東雲堂



若山牧水氏著

内容

手術刀
落葉さ自殺
かなしき岬

装幀

四六判總クロオス美本
定價金七十錢
送料金八錢

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

吉井勇著

水莊記

山脇信德畫
齋藤與里畫

内容

■水莊記
■苦痛の谷
■山上哀話
■戯曲「無智の序」
■湘南秘事
■七尺牘
■海郷異志

新刊發賣

奇しく凄艶なる七篇の物語を收む。

菊版[illegible]美本
本文黒青二度刷
挿畫二葉
定價壹圓
郵税八錢

發行所 東京市京橋區南傳馬町三丁目 (振替貯金東京五六一四番) 東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

'ZAMBOA'

朱欒

三月號

定價一冊二十五錢
送費一錢五厘

ザムボアは藝術主義の旗幟明かに、常に清新の氣滿紙に溢る。

東京市京橋南傳馬町
振替東京五六一四

東雲堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

近代劇協會顧問
文學博士 坪内雄藏
文學博士 森林太郎
協會代表者 上山草人

近代劇協會事務所
芝區日蔭町一丁目一番地
電話新橋三四〇五番

附屬試演場
芝區烏森町一番地
電話新橋三三七五番

於帝國劇場開演（三月一日より切符發賣す）

興行日數五日間 三月廿七日(木)廿八日(金)廿九日(土)卅日(日)卅一日(月) 毎夜五時開場 十一時閉場

入場料 特等金貳圓 壹等壹圓五十錢 貳等壹圓 三等七十錢 四等貳十五錢

獨逸文豪 ギョオテ作　舞臺監督 伊庭孝

文學博士 森林太郎譯　背景圖案 石井柏亭

獨逸國寶的文學

ファウスト 五幕十五場

帝國劇場第卅七回
近代劇協會第二回
合同興行

背景は新歸朝石井柏亭氏清新なる圖案になり十五場の轉換あり幕合に奏する音樂は有名なるグノオのオペラ「マルガレエテ」(ファウスト)を竹内平吉氏指揮の下に演奏す可く劇中小曲は凡て清水金太郎氏の手にて作曲せられ少壯聲樂家たる原田清水其他の諸氏俳優として交々獨唱す可く出場男女優は凡て高等の敎育を卒たる者のみなれば此種の演劇として我邦空前の演出たるべし乞ふ觀劇の機を逸し給はざらむことを

登場男優　藤岡龍夫　原田潤　伊庭孝　上山草人　南部邦彦　野添愛孝　清水金太郎　清水憲亮　其他

登場女優　衣川孔雀　三原不二　波川千早　玉村歌路　若山椿　山川浦路　其他

補助　河合磯代　中山歌子　大和田園子　澤美千子

管絃樂指揮　竹内平吉
小歌作曲　清水金太郎
舞臺指揮　塚田左一
同　村田實
電氣監督　秀文逸
プロンプター　清水憲亮
舞臺裝飾　寺尾潤

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

水彩畫を描く人は勿論愛好せらるゝ諸士は座右に本書を缺く可らず

月刊美術雑誌

みづゑ

三月三日發兌
第九十七
送料共
金廿五錢

みづゑは本邦最古にして且唯一の水彩畫研究専門雑誌なり

森鷗外氏年譜、赤城泰舒氏装釘、箱入美本

賜天覽

大下藤次郎遺作集

原色版、コロタイプ版、五十葉、定價一圓五十錢

本邦水彩畫界三大家の一人大下藤次郎氏の遺作中優秀なるものを集めたり、卷末に各繪畫につき精細なる説明を附したれば絶好なる記念品たるのみならず缺くべからざる參考品たりと信ず

特價一圓十錢（送料共）但し直接本會へ申込みの方に限る

發行所　東京小石川關口駒井町三番　振替口座東京六九六三番　春鳥會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第四卷 第三號

俳味

毎月一回 一日發行

三月號要目

謙遜する勿れ……（卷頭語）
閃感……沼波瓊音
佛蘭西に行く途上の余をして八犬傳を評せしめよ……小杉未醒
森無黄氏に……岩田月葉
是れ我が俳諧……若月紫蘭
私解芭蕉の發句（十七）……沼波瓊音
更訂遺稿（其二）……（瓊音選）
二酉會の記……長尾素枝
紫湖に就てを讀む……鵜澤四丁
子供の社會……（懸賞文章發表）
炭。クリスマス。外套。……（懸賞俳句發表）
俳句……諸家
地方俳壇。俳交欄。……

口繪
わか艸……芳賀一晶筆

裏繪
舞ふ女……小杉未醒筆

定價			
一部十五錢 郵税一錢	三ヶ月税共 四十五錢	半年分税共 金八十六錢	一年分税共 一圓六十八錢

發行所 東京本郷西片町十番地（振替東京三四三四番） 俳味社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

演劇雜誌

シバヰ

毎月一回一日發行

定價金三十錢

三月號

さくら畑(チエホオフ)　中谷德太郎
■舞臺ご聽覺……河野讓
■愚人日記……市川又彦
■旅役者の群から……坪内士行
■をごり……吉原要二
■アルトバイデルベルヒ……下町二人娘
■新富座合評……
口畫挿
―『猛者』舞臺意匠……梶田惠
―『櫻畑』のラアネウスキイ夫人……(マドモアゼイユ、クニツペル扮裝)
油地獄(脚本)　楠山正雄

東京市京橋區新佃西町三ノ五
シバヰ發行所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第四巻第三號

白樺

定價金三十錢
送料一錢五厘
三月一日發行

目次

記憶のきれぐ……武者小路實篤
一日千秋（小說）……園池公致
車上にて（詩）……齋藤與里
葡萄の頸（小說）……正親町公和
愛せんとする意志（詩）……柳宗悅
鐵輪（戲曲）……萱野二十一
或る女のグリンプス（小說）……有島武郎
フエリシアン●ロープス（紹介）……記者
六號感想……二人
編輯室にて……同人

挿畫

——Félicien Rops ——

1. Póesie : Que fais-tu
2. Le Gandin ivre
3. Venus Milita
4. La Paupée au Satyre

白樺叢書

武者小路實篤著
小說 お目出度き人
定價六拾錢
送料六錢

武者小路實篤著
小說 世間知らず
定價八拾錢
送料六錢

志賀直哉著
小說 留女
定價壹圓
送料八錢

有島生馬著
小說 蝙蝠の如く
定價壹圓
送料八錢

發行所
東京麴町二丁目二番地
振替東京二〇九一四番
電話番町四二五八番
洛陽堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

スバル

第五年 第三卷

價三十五錢 郵稅二錢

雁（小說）　森鷗外
海賊（戯曲）　萬造寺齊
醫者（小說）　中島清譯
譯文　灰野庄平譯
砂（詩）　水野葉舟
むく鳥通信　無名氏
戀愛小品　吉井勇

金策（小說）　平出修
死の勝利　石川戯庵
瀧（小說）　江馬修
寶石（詩）　竹友藻風
劇評　木下杢太郎
歌　原あさを等
詩　長田秀雄

附錄　白鳥姫（ストリンドベルヒ）　萱野二十一

東京神田北神保町二　電話四二六四

昴發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■モザイク■

第二年三月號內容

酒狂者手記より（小説）　山本露葉
ショー管見（評論）　太田善男
酒狂（小説）　藤井伯民
ステファン・ゲオルゲ詩華（譯詩）　川路柳虹
深い泥濘（小説）　福田三郎
雀鷹（戯曲）　武林無想庵
二人の畫かき（小説）　水島爾保布
死んで行く地（小説）　ルネ・バザン
死體（小説）　西田長左衛門
サニン（小説）　アルチバシエフ
熱田丸より（消息）　生田葵
表紙繪（自刀）　藤井達吉
裏繪　小泉勝爾

定價一冊郵稅共三十錢・六冊一圓七十錢

東京市下谷區中根岸町六九　モザイク社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

月刊雜誌

藝術

四月一日初號發行

—内容豫告—

■露西亞の近代繪畫を論ず（挿畫數葉）……石井柏亭

■評論（題未定）……木下杢太郎

■江戸建築（挿畫數葉）……藝術社同人

■藝術論（題未定）……生田長江

■ベンベヌート・チエリーニ自傳（挿畫數葉）……荻原直正譯

■上田公長（挿畫數葉）……紹介

■内外藝術界消息（挿畫數葉）……記者

■評論の評論……同人分擔執筆

■其他數項……

東京市小石川區白山御殿町百十三

發行所 藝術社

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

心の花

第十七年　三月號　第三號

草團子（小説）　松村みね子
殺戮の其夜（印度古話）　金子南冥
團重左（飜譯）　草野柴二
ユウディイット梗概　吹田蘆風
桃花詩美論　次田潤
沈鐘傳説の源流　志田義秀
冬の夜　紅雪生
萬葉集講義　佐々木信綱
譯詩九章　秋元蘆風
小鳥（短歌百首）　宇野武
幻の家（同）　松井恒
押花（同）　大村八代子

定價一部金二十錢・半年前金一圓・一年前金二圓

東京日本橋區　竹柏會出版部　本石町一ノ一

振替東京[illegible]三〇〇番

三月一日發行

アララギ

特價二十錢

三月號

○イオタモ（小說）……汝島
○紺足袋と椿（小品）……河西省吾
○赤き木の實……土屋文明
○青鞜社の演說會……憲吉
○二月の歌壇……千樫

○小說……木下杢太郎
○性と內分泌の說……齋藤玉男
○善惡の彼岸（ニーチエ）……林道倫
○穉きニーチエ（傳記）……茂吉
○記紀短歌小解（二）……古泉千樫
○多力に向ふ心（歌論）……齋藤茂吉
○イエツの批評的研究……山宮允

○この夕べ（歌）……柿乃村人
○砂丘（歌）……古泉千樫
○吳竹の根岸の里（歌）……齋藤茂吉
○郊外より（歌）……中村憲吉
○アララギ歌壇……アララギ同人

○定價一冊二十錢　○半年壹圓拾錢　○一ケ年貳圓貳拾錢　○

注文は東京本所綠町三丁目三十古泉幾太郎宛
投稿は東京青山南町五丁目八十一齋藤茂吉宛

東京根岸短歌會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第三年
第三號

詩歌

定價二十五錢
送費一錢五厘

三月號內容

□戲曲 亡靈（イブセン）……高橋泰譯
□博士と惡魔と（詩）……木下杢太郎
□深夜の雪（詩）……高村光太郎
□感想斷片（感想）……若山牧水
□純一な詩（評論）……片上伸
□詩の鑑賞上の自我（評論）……服部嘉香
□なやみ（アルベル・サマン）……內藤濯譯
□帆、他數篇（レールモントフ）……米川正夫譯
□未來の惱み他數篇（散文詩）……白鳥省吾
□鄙ぶり（ポオル・フオール）……川路柳虹譯

□短歌
山田邦子　熊谷武雄　荻原楓花　寺井義　瀧澤謙　小谷清子　佐藤朝花　濱田柏羊　田村飛鳥

□りたにい他數篇（詩）……山村暮鳥
□藝術家の懺悔（ボードレール）……山村暮鳥譯
□空の緣に溶け行く烟（散文詩）……新妻莞
□よるよるは（詩）……きしのあかしや
□沈默（アラン・ポオ）……谷崎精二譯
□短夜曲（歌）……細谷明
□野木のもとにて（歌）……狹山信乃
□黎明所感（感想）……前田夕暮
□落葉林より（感想）……前田夕暮
□深夜（歌）……前田夕暮

發賣所
東京神田雉子町
東京堂

社友募集
白日社清規往復葉書にて申込まれたし

發行所
東京市外西大久保
白日社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

フュウザン會第二回油繪展覽會

三月
自十一日
至三十日

自午前八時
至午後五時

第二回展覽會を銀座の讀賣社三階に開きます

硲伊之助　萬鐵五郎　川村信雄

川上涼花　三並花弟　岸田劉生

木村莊八　高村光太郎　松村巽

埴原桑喜代　小林德三郎　瓜生養次郎

齋藤與里　眞田久吉　岡本歸一

濱田葆光　清宮彬

雜誌
フュウザン
第四號

■フュウザン會展覽會開會當日發行（定價未定）

■挿繪にマテイス及ゴーホの色刷、其他昨冬英京グラフトン畫堂開催の第二回後期印象派展覽會に出品されしピカソオ、ドンゲン、マテイス等の作品の複製、

■ロマン・ロランの「ジヤン、クリストフ」（光太郎）、ストリントベルヒの「痴人の懺悔」（莊太）を以降連載

■其他、與里、劉生、莊八、巽等執筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

月刊美術雜誌

三月號

現代の洋畫

十二號

定價一部三十錢・送料一錢五厘

■每月一回三日發行■

■見本（舊刊賣物）一部特價十五錢■

繪畫

小女（油繪色刷）	岡田三郎助
ビール會社の裏（仝）	太田三郎
築地（素描畫）	岸田劉生
風景（水繪色刷）	硲伊之助
川岸のかわたれ（仝）	竹久夢二
習作（裸體畫）	津田青楓
モネの家族（油繪色刷）	エドウアル・マネ
伊豆の村（仝）	辻永
三つの秀美（ペン畫）	ゲルダ・ウエゲネル

其他マネー・モネの作品・佛國現代の畫家・歐州便等の記事刷込寫眞數十枚あり

記事

佛國印象派畫家（3）	眞田久吉
クロード・モネー	木村莊八
佛國現代の畫家小傳（3）	
私の欲する繪畫	小川未明
美術家と修養	石川寅治
畫面の餘白と云ふ事	山下四川
歐州便（2）	
郊外の感想	川上涼花
畫室行脚（齋藤與里氏の畫室）	
偶感錄を讀で	清野耕
寫生記（2）旅の手帳より	九年坊
繪畫の發達につきて	森田龜之輔

洋畫研究錄

□會員を募る□

規則附見本無代送呈

研究部

洋畫材料品目錄

附錄

洋畫家の住所
美術學校規則
文展規則書
研究所の案內

改正目錄は二錢切手封入申込の方に送呈す

販賣部

東京市牛込區水道町五十三

日本洋畫協會

振替口座番號 東京四三七三

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

▲三月一日發行▲

毎月一回
一日發行

美術新報

價三十錢
税一錢五厘

第十二卷■第五號

(時言)大家と實力
洋畫に於ける非自然主義的傾向(中) 木下杢太郎
學究囈語 理學士 學究生
裝釘に就て (和田英作、島崎藤村、中澤弘光、橋本邦助、水野葉舟、長原孝太郎、徳田秋聲、平福百穗、橋口五葉、相馬御風、吉江孤雁、)
巴里に於ける浮世繪展覽會 一記者

繪畫
ピクトワール山(原色版) セザンヌ筆
竹林七賢(アートタイプ) 兒玉果亭筆
表紙畫四個(原色版) 英作、百穗、憲吉、弘光作
タイチイの女の群(網目版) ポオル・ゴオガン筆
山水(アートタイプ) 川端玉章筆

新建築印象記(七)日本赤十字本社 黒田鵬心
兒玉果亭翁の事ども (高橋法學博士、小阪芝田) 武井眞澄
川端玉章氏 (石川光明、犀水生)
時報等

發行所 東京市本郷區湯島切通坂町 畫報社 電話下谷二四八三番 振替東京一八一〇六番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第二卷第三號

奇蹟

定價一部貳拾五錢

三月號

■音樂的精神からの悲劇の出生（評論）……秋野優
■疲れたる死（小說）……廣津和郎
■月光と青年（小說）……峰岸幸作
■人形芝居の序曲（戯曲）……ホフマンシュタール 舟木重信譯
■オー・ボネ・ド・コトン（感想）……小林德三郎
■患者の部屋（小說）……アルツイバーシェフ 馬場哲哉譯
■クズミンの詩（詩）……松永秋雄譯
■死の象徵（小說）……キワン・アーニン 尾瀬哀歌譯
■ロシア便り……TB生
■「留女」を讀みて（評論）……舟木重雄
■消息其他……
■表紙及裏繪……小林德三郎

■シエンキエッチ作 ■松本雲舟譯

復活の武士

表裝優美箱入
定價金九十五錢
小包料金八錢

■歷史小說家として古今獨歩の稱ある著者の代表的傑作也

奇蹟編輯所 麻布材木町六九 電話芝二二五八

大賣捌所 東京堂 東海堂 上田屋 北隆館 至誠堂 籾山書店

發行所 東京神田佐久間町四ノ二三 振替東京一二九五三 電話下谷三四一九 植竹書院

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

月刊純文藝雜誌

劇と詩

第三十號（三月一日發行）

定價一部金三十錢

神秘主義と近代文藝（評論）島村抱月

廣き國（飜譯）シュニッツレル 楠山正雄

パアナアド・ショウの一面（飜譯）チェスタアトン 丘草太郎

彫刻師（詩）福田夕咲

月夜（詩）長田秀雄

黃昏（戯曲）井田絃聲

敗殘者（小說）小杉寛

阿片の盃（詩）鎌野白夜

酒盃（詩）辰巳善

片戀（詩）南くに子

屑屋の姿（小說）上田良一

短歌

中川一政□松岡白虹□若山牧水選

天野謙二郎□水井優子□土岐哀果選

上村千草□金扇社詠草□沙丘社詠草

アルト歌ひ（詩）人見東明

お互樣（劇詩）ヴルレエーヌ 鈴木伊都子

月の脈搏（詩）白鳥省吾

闇に秘む花（詩）佐藤楚白

最近詩壇の三傾向（評論）白鳥省吾

飾り窓（表紙繪）岸田劉生

スローブ（扉繪）直田久吉

春の顏（扉繪）木村莊八

アンドレエフの新曲二篇（評論）昇曙夢

囚人の歌（感想）相馬御風

扉に凭りて（隨筆）淸浦靑鳥

東京小石川區雜司ヶ谷町 劇と詩社

大賣捌 東京堂 東海堂 北隆館 至誠堂 籾山店 文德堂 寶文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

每月一回一日發行
一冊 二十五錢
郵税 一錢五厘

斯道唯一の演劇雜誌

歌舞伎

第百五十三號(三月一日發行)

六冊 前金郵税共
一圓五十錢
十二冊二圓八十錢

戯曲「ギヨッツ」(ギヨオテ)……鷗外譯

長唄の研究……大塚梧桐
劇術新論……林鷗南
無名の劇團……松居松葉
ファウスト上場に就ての困難……伊庭孝
帝劇と土曜劇場……本間久雄
新富座の二月狂言……ほのほ生
椀久雜話……前田芳柳
花形福助……瀨戸閑太郎
默阿彌著作解題……河竹繁俊

鴈治郎「源藏」の型……森ほのほ

仁左衛門と語る……青々園
「あきらめ」について……佐藤紅綠
「夜の森」について……松居松葉
帝劇の二月……芹影女
女優劇を見て來て……下町二人娘
二月狂言の褒むべきもの……幸堂得知
脚本版權の訴訟……長谷川ほのゞ
「テムペスト」と「ジーグフリード」……旭光
大小劇場(青々園、春浦)

史劇「上總介信長」……都城恒元

本郷區湯島切通坂町
當報社內
歌舞伎發行所
電話下谷二四三八
振替口座一八一〇六

昭和44年4月15日発行　【第4回配本】

青鞜第3巻　3月号

編著者	平塚らいてう
発行者	藤原正人
発行所	(株)明治文献
印刷	江明印刷
製本	(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 3,800円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
B45
V.3
no.3

University of Colorado at Boulder
U18301 6746270

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一册金貳拾五錢(郵税壹錢五厘)
■前金購讀料(四ヶ月分)壹圓(六ヶ月分)壹圓五拾錢(八ヶ月分)貳圓(十ヶ月分)貳圓五拾錢(一ヶ年分)參圓
■社費は一ヶ月金參拾錢にして毎月十五日迄に納附せられたし。取纏め納付せらるゝを便宜とす。
■廣告料(一頁)拾五圓　半頁(八圓)
■振替貯金口座は(東京五六一四東雲堂)に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢切手に限る(但し一割増のこと)。
■編輯事務、寄贈圖書雜誌、及研究會に關する事務は萬年山内靑鞜社へ。
■雜誌購讀、社費拂込、廣告申込、交換廣告其他販賣に關する一切の事務は東雲堂へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正二年二月二十五日印刷納本
大正二年三月一日發行

禁轉載

東京市本郷區駒込蓬萊町萬年山内
靑鞜社内
編輯兼發行人　中野初
東京市京橋區新榮町二丁目廿一番地
印刷人　佐藤保太郎
東京市京橋區新榮町二丁目廿一番地
印刷所　文祥堂

編輯所　東京本鄕區駒込蓬萊町萬年山内　靑鞜社

發賣所　東京市京橋區南傳馬町三丁目　東雲堂書店
電話京橋一六三九番
振替東京五六一四番

本號特價金四拾錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER